

学力分析と指導の手立てⅥ

－「標準学力検査」並びに「川越市中学生学力調査」を活用して－



川越市教育委員会

川越市学力調査研究委員会

あ い さ つ

川越市教育委員会教育長 山浦 秀男

川越市教育委員会では、平成15年度より、川越市学力調査研究委員会を設置し、市内小・中学校で実施している標準学力検査等の結果をもとに、児童生徒の学力の状況の調査・分析及び指導の手立ての研究を重ねてまいりました。ここに研究の成果を「学力分析と指導の手立てVI」として刊行いたします。

さて、新しい学習指導要領への移行期間が平成21年4月からスタートし、総則や道徳、総合的な学習の時間及び特別活動については、先行実施されます。教科では、算数・数学科、理科などについては新しい教育課程の内容の一部を前倒しして実施します。学校では、子どもたちに「生きる力」をはぐくむための具体的な教育活動を創意工夫して展開されていることと思います。

埼玉県では、埼玉県教育振興基本計画「生きる力と絆の埼玉教育プラン」を策定し、「確かな学力の育成」の施策の中で、「学校課題解決プラン」を活用して国や県が実施した学習状況調査結果をもとに自校の分析を進め、課題の把握と指導の改善を進めるように求めています。

川越市においては独自に「標準学力検査」及び「川越市中学校学力調査」を実施し、調査結果を分析することで、それぞれの学校の実態に即した、より詳細な学力に関する課題を把握しています。そして、その課題を解決する具体的な手立てを示すことで、児童生徒の「確かな学力」の定着を目指しております。

学力調査研究委員会では、義務教育の9年間を見据え、学力における小・中学校の連携を図るために、学習の系統性に視点をおいて研究を進め、本冊子を作成しました。また、より一層個に応じた支援ができるよう、本冊子における各教科の資料を教育研究所のホームページに掲載し、ダウンロードして授業に活用できるようにいたしました。

各学校におかれましては、校内研修や授業等で、本研究冊子並びに資料を積極的に活用し、児童生徒が主体的に学習に取り組む態度を身に付けるために御尽力くださるようお願いいたします。

結びに、この研究冊子の編集に携わった川越市学力調査研究委員会委員の皆様、並びに、御指導くださいました関係各位に厚くお礼を申し上げ、あいさつといたします。

は じ め に

川越市学力調査研究委員会委員長 小 川 一 信

本委員会は、川越市の児童生徒の確かな学力の向上を図るため、平成15年度に設置され、本年度6年目の調査研究活動を行いました。

過去5年間の取組は、「標準学力検査」の検査結果を調査・分析し、5教科（小学校は4教科）における川越市の傾向や課題をつかみ、その解決のための具体的な指導方法等を研究して、各学校が活用できる冊子を作成してまいりました。この間、社会全体で「学力」に対する関心が高まり、本市では昨年度より中学3年生を対象に、中学で習得すべき学習内容がどの程度身に付いているかを調査し、学習上の問題点や指導上の改善点を明らかにするために「川越市中中学生学力調査」を年2回実施することになりました。

そこで、本年度の活動は、「標準学力検査」についての経年変化と「川越市中中学生学力調査」の結果の両者を分析して、特に本市における小学校から中学校への共通課題となる学習内容（英語を除く）について、その接続性・指導の一貫性に視点を当てて研究いたしました。考えてみれば今まで小・中学校の授業が独自の指導法で展開されていたわけであり、今後はこのことを小・中連携の内容に位置付けていく必要があると思うのであります。

さて、話は少し変わりますが、「学力」に関する講演会で「効果的な学校」という言葉を耳にしました。この言葉は、教育効果を上げることができる学校という意味です。このことについては、最初、イギリスの下町の劣悪な環境にある公立小学校の中にとっても成績の高い学校が発見されたことから、教育効果の高い学校の存在が研究されるようになりました。調査研究が進む中で、アメリカでも、日本でも同じような「効果的な学校」が発見されました。それぞれの学校を調査すると幾つかの共通点がありました。①子どもの集団づくりに力を入れている ②教師組織のチームワークがよい ③校長の指導力が高い ④目標を共有している ⑤学力への関心が高い ⑥学ぶ意欲を伸ばす指導に力を入れている だそうです。そして講師は続けました。「私が特に注目した点は②です。全国の学校を廻っても、指導の成果が高い学校は先生方のチームワークが優れていると感じたのです」

正に「教育は人なり」上記内容も踏まえながら本研究冊子が有効活用されることを期待しています。

結びに、本会の研究推進に関わっていただいた委員の皆様、御指導いただきました指導主事の先生方、御協力いただきました校長先生方に心より感謝申し上げ委員長のあいさつとさせていただきます。

目 次

○教育長「あいさつ」

○委員長「はじめに」

<p>研究の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p> <p>川越市の学力の推移 (標準学力検査)・・・・・・・・・・・・ 4</p> <p>各学年の状況</p> <p>1 小学校第4学年・・・・・・・・・・・・ 5</p> <p>2 小学校第5学年・・・・・・・・・・・・ 6</p> <p>3 小学校第6学年・・・・・・・・・・・・ 7</p> <p>4 中学校第1学年・・・・・・・・・・・・ 8</p> <p>5 中学校第2学年・・・・・・・・・・・・ 9</p> <p>各教科</p> <p>I 国語</p> <p>1 小学校第4学年・・・・・・・・・・・・ 10</p> <p>2 小学校第5学年・・・・・・・・・・・・ 11</p> <p>3 小学校第6学年・・・・・・・・・・・・ 12</p> <p>4 中学校第1学年・・・・・・・・・・・・ 13</p> <p>5 中学校第2学年・・・・・・・・・・・・ 14</p> <p>6 川越市中小学生学力調査結果概要・・ 15</p> <p>7 指導の手立て・・・・・・・・・・・・ 19</p> <p>II 社会</p> <p>1 小学校第4学年・・・・・・・・・・・・ 21</p> <p>2 小学校第5学年・・・・・・・・・・・・ 22</p> <p>3 小学校第6学年・・・・・・・・・・・・ 23</p> <p>4 中学校第1学年・・・・・・・・・・・・ 24</p> <p>5 中学校第2学年・・・・・・・・・・・・ 25</p> <p>6 川越市中小学生学力調査結果概要・・ 26</p> <p>7 指導の手立て・・・・・・・・・・・・ 30</p>	<p>III 算数・数学</p> <p>1 小学校第4学年・・・・・・・・・・・・ 32</p> <p>2 小学校第5学年・・・・・・・・・・・・ 33</p> <p>3 小学校第6学年・・・・・・・・・・・・ 34</p> <p>4 中学校第1学年・・・・・・・・・・・・ 35</p> <p>5 中学校第2学年・・・・・・・・・・・・ 36</p> <p>6 川越市中小学生学力調査結果概要・・ 37</p> <p>7 指導の手立て・・・・・・・・・・・・ 41</p> <p>IV 理科</p> <p>1 小学校第4学年・・・・・・・・・・・・ 43</p> <p>2 小学校第5学年・・・・・・・・・・・・ 44</p> <p>3 小学校第6学年・・・・・・・・・・・・ 45</p> <p>4 中学校第1学年・・・・・・・・・・・・ 46</p> <p>5 中学校第2学年・・・・・・・・・・・・ 47</p> <p>6 川越市中小学生学力調査結果概要・・ 48</p> <p>7 指導の手立て・・・・・・・・・・・・ 52</p> <p>V 英語</p> <p>1 中学校第2学年・・・・・・・・・・・・ 54</p> <p>2 川越市中小学生学力調査結果概要・・ 55</p> <p>3 指導の手立て・・・・・・・・・・・・ 59</p> <p>資料編</p> <p>I 指導資料(国語) 61</p> <p>II 指導資料(社会) 63</p> <p>III 指導資料(算数・数学) 65</p> <p>IV 指導資料(理科) 67</p> <p>V 指導資料(英語) 69</p> <p>VI バックナンバーと掲載ページ 71</p> <p>平成20年度学力調査研究委員会名簿 80</p>
---	--

研究の概要

1 目的

川越市立小中学校の児童生徒を対象に実施した教研式標準学力検査（NRT）（小学校第4学年から中学校第2学年）及び川越市中中学生学力調査（中学校第3学年）の結果を基に、川越市全体の学力の状況を分析・考察し、各学校での指導法の工夫改善に資する。

2 研究方法

(1) 研究の対象と教科

学 校	対象学年	実施教科
小学校	第4学年～第6学年	国語、社会、算数、理科
中学校	全学年	国語、社会、数学、理科、英語

(2) 調査資料名

教研式標準学力検査（NRT）（平成20年6月中に各校で実施）

川越市中中学生学力調査（平成19年9月及び11月に各校で実施）

(3) 方法

川越市教育委員会が事務局となり、市内小・中学校の校長、教員からなる学力調査研究委員会を設置し、委員長1名、副委員長1名（教科部長兼務）、各教科部長1名、各教科委員2名（英語科1名）の計17名で組織した。

各教科部会では、教研式標準学力検査及び川越市中中学生学力調査の川越市全体の結果を分析後、川越市の課題を明らかにし、課題解決を図る手立てを示した。

3 研究内容の見方

(1) 各学年の状況

① 標準化された通過率と川越市通過率の比較

通過率とは、1つの問いについて正答人数を総人数で割り、100倍した数である。川越市通過率とは川越市の児童生徒の通過率の平均である。

② 各教科の5段階の出現率

川越市の各学年における各教科の偏差値を基に、標準化された基準に照らして5段階評定を表した。偏差値は標準化された平均点を50とし、偏差値50前後が「3」の評価になる。

各教科の5段階の出現率とは、偏差値を5段階に分け、そこに含まれる人数の割合を表したもので、下図のようになる。

< 5段階の出現率 >

段 階	1	2	3	4	5
偏差値	~34	35~44	45~54	55~64	65~
出現率	7%	24%	38%	24%	7%

全国とは標準化された正規分布の数値を指す。

5段階の出現率を折れ線グラフで表すと山型になり、頂点の位置が右寄りになるほど、標準化された数値より上回っていることがわかる。「学校」の欄には、自校の5段階の出現率を記入することにより、川越市や標準化された数値と比較することができる。

「評定」の欄には、各学校で実施した評定の比率を出し、川越市や標準化された数値の5段階の出現率と比較することができる。

(2) 各教科

① 全体の傾向

大領域・中領域の正答率及び小問の通過率から、川越市としての課題等について考察し、全体の傾向を示した。

正答率	$\text{個人の正答率} = \frac{\text{個人の得点}}{\text{満点}} \times 100$ <p>(ある大領域が40点満点なら、40で割る) 川越市の正答率となると、個人の正答率の合計を川越市の人数で割った数になる。</p>
通過率	$\text{通過率} = \frac{\text{正答した人数}}{\text{総人数}} \times 100$

② 大領域の比較・中領域の比較

大領域について	学習指導要領に示された「内容」を大きな領域に分類した。
中領域について	学習指導要領の「内容」を参考に単元に近い領域に分類した。

大領域・中領域の数字は、正答率で表した。特に、「傾向」の中の矢印は、川越市と全国の正答率を比較し、3ポイント以上上回っている場合は↑で表し、3ポイント以上下回っている場合は、↓で表した。さらに5ポイント以上上回っている場合は、△で表し、5ポイント以上下回っている場合は、▼で表した。

川越市と全国の正答率の比較 (差)	傾 向
3ポイント以上、5ポイント未満、上回る場合	↑
5ポイント以上、上回る場合	△
3ポイント以上、5ポイント未満、下回る場合	↓
5ポイント以上、下回る場合	▼

③ 標準化された通過率を下回る小問

平成18・19・20年度ともに、標準化された通過率を下回る小問10問までを提示した。また、国語科においては、標準化された数値と比較し、通過率が30%を下回る小問について提示し、指導方法の工夫改善のために資料とした。

④ 課題解決の視点・指導の手立て

標準化された通過率を下回る小問を中心に課題を把握し、課題解決のための指導の手立てについて考察した。なお、本年度は更に学力を向上させる指導法

についても考察した。児童生徒の学習意欲向上の視点から、興味・関心の高まりが期待できる指導法について示しているものもある。

4 教研式標準学力検査（NRT）の見方・生かし方と活用の仕方

（1）教研式標準学力検査の見方・生かし方

本調査で利用した教研式標準学力検査（NRT）は、標準化された数値に基づく相対評価法による学力検査である。活用に当たり以下のことを踏まえる必要がある。

- ① 学級全体の学力水準は、標準得点（学力偏差値）の学級平均（M）の値が全国平均偏差値 50 と比べて高いか低いかで判断する。
- ② 学力偏差値の分布で、学力の個人差が大きく見られる学級かどうかを標準得点（学力偏差値）の 5 段階分布で表している。全国の分布と比較することで学級の傾向がわかる。
- ③ 大領域や中領域では、全国の正答率との比較で、低い領域を重点指導領域として、どの領域・どの単元に重点をおいて指導すべきかを判断する。
- ④ 小問通過率を全国と比較して指導の重点箇所を見い出すことができる。また、小問分析表で、学級の誤答傾向に特徴がある小問については、誤答内容を確認し、指導法の工夫改善に役立たせる。

（2）教研式標準学力検査（NRT）の活用の仕方

- ① 標準化された基準に照らして相対的に学力の水準を確認し、指導方法の工夫改善に活用する。
- ② 指導内容（領域別）ごとに指導成果を確認し、重点計画を立てることに活用する。
- ③ 小問分析表において、1 問ごとに習得状況を確認し、全国の習得状況と比較しながら指導法の工夫改善に活用する。
- ④ 各教科の相対関係を知ること、その学年・個人の得意な教科、不得意な教科を把握する。
- ⑤ 知能検査との相関関係で、伸びる可能性が高いと考えられる児童・生徒（アンダーアチーバー）などの把握や指導に活用する。
- ⑥ 分析結果を基に、各学校、各学年、各教科の課題を把握し、校内研修の内容及び指導の実践に活用する。

川越市の学力の推移（標準学力検査）

（数値は偏差値平均）

教科	校種	学年	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
全教科平均	小学校	第4学年	50.2	49.9	50.3	50.5	50.9	51.3
		第5学年	50.3	50.6	50.4	50.8	50.6	51.6
		第6学年	49.9	50.0	50.5	50.5	51.1	51.1
	中学校	第1学年	51.1	51.2	50.9	51.7	51.2	50.8
		第2学年	50.4	49.7	49.6	49.9	50.4	49.7
		第3学年	50.3	50.7	49.8	49.7	49.7	
国語	小学校	第4学年	51.0	50.9	51.3	51.3	52.2	52.6
		第5学年	51.5	52.2	51.9	52.4	52.4	53.2
		第6学年	51.3	52.5	53.0	52.6	53.3	53.2
	中学校	第1学年	52.2	52.5	53.0	53.4	52.6	52.1
		第2学年	52.5	51.3	51.2	51.9	52.1	52.0
		第3学年	51.8	51.9	51.3	51.5	51.7	
社会	小学校	第4学年	50.3	50.0	50.5	50.6	50.8	51.1
		第5学年	51.7	52.0	51.6	52.3	52.1	53.0
		第6学年	49.1	49.8	50.1	49.6	50.2	50.2
	中学校	第1学年	49.9	49.6	49.8	51.1	50.9	49.7
		第2学年	49.0	48.3	48.8	48.9	49.5	48.9
		第3学年	49.0	49.6	48.7	48.5	48.3	
算数・数学	小学校	第4学年	50.2	50.1	50.4	50.6	51.0	51.6
		第5学年	50.2	50.4	50.7	51.2	50.9	52.3
		第6学年	49.9	49.9	50.7	51.1	51.9	51.8
	中学校	第1学年	52.0	51.6	50.8	51.7	51.3	51.1
		第2学年	50.9	50.2	49.3	50.0	50.7	50.0
		第3学年	50.4	50.8	49.7	49.5	50.3	
理科	小学校	第4学年	48.9	48.7	49.2	49.3	49.3	50.0
		第5学年	47.3	47.8	47.2	47.2	47.0	47.7
		第6学年	48.8	47.9	48.7	48.7	49.2	49.1
	中学校	第1学年	49.9	50.9	50.0	50.7	50.0	50.0
		第2学年	47.5	47.7	47.7	47.5	48.5	47.8
		第3学年	49.0	49.1	48.5	48.0	48.0	
英語	中学校	第1学年						
		第2学年	52.2	51.3	50.9	51.2	51.9	50.5
		第3学年	51.8	52.7	51.1	51.3	50.7	

平成20年度の中学校実施学年は1,2学年

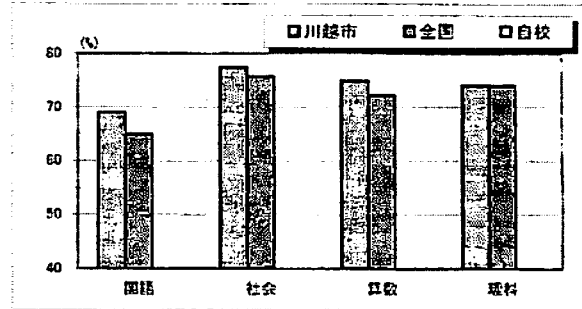
は同一集団を表す一例

各学年の状況

1 小学校第4学年

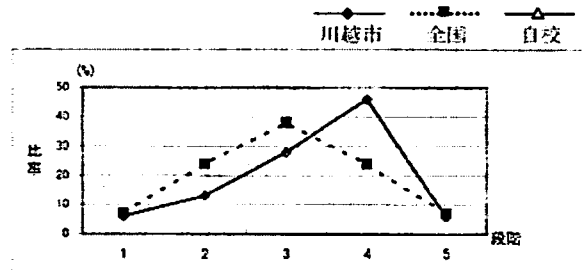
(1) 全国通過率と川越市通過率の比較

教科	国語	社会	算数	理科
川越市	69.0	77.4	74.9	74.0
全国	64.8	75.7	72.2	74.0
自校				



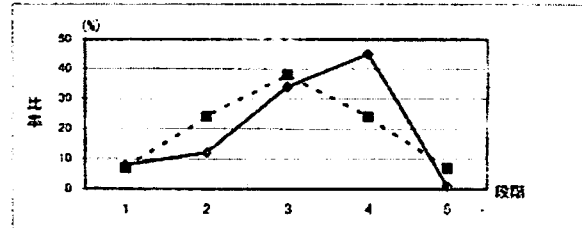
(2) 各教科の5段階出現率

国語 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	6	13	28	46	6
全国	7	24	38	24	7
自校					



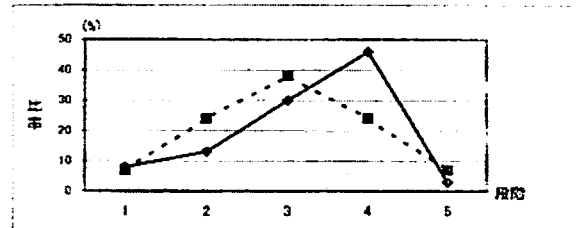
評定					
----	--	--	--	--	--

社会					
段階	1	2	3	4	5
川越市	8	12	34	45	1
全国	7	24	38	24	7
自校					



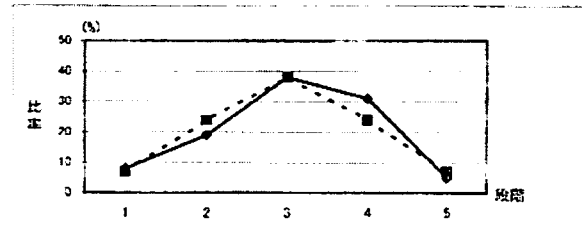
評定					
----	--	--	--	--	--

算数					
段階	1	2	3	4	5
川越市	8	13	30	46	3
全国	7	24	38	24	7
自校					



評定					
----	--	--	--	--	--

理科					
段階	1	2	3	4	5
川越市	8	19	38	31	5
全国	7	24	38	24	7
自校					

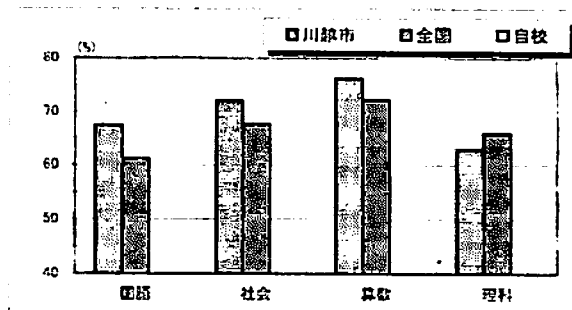


評定					
----	--	--	--	--	--

2 小学校第5学年

(1) 全国通過率と川越市通過率の比較

教科	国語	社会	算数	理科
川越市	67.3	72.0	76.2	62.9
全国	61.1	67.6	72.2	65.8
自校				



(2) 各教科の5段階出現率

国語	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	6	13	29	40	12
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--

社会	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	7	11	31	41	10
全国	7	24	38	24	7
自校					

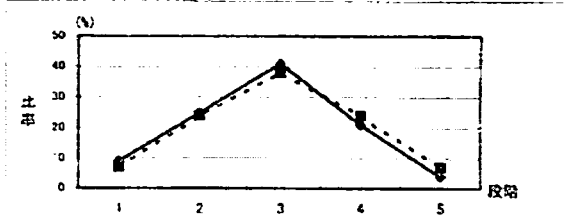
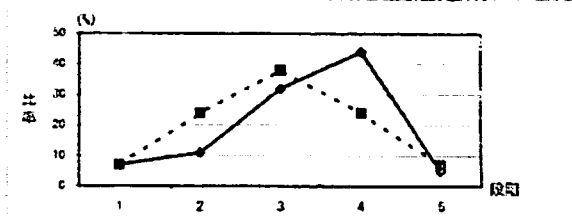
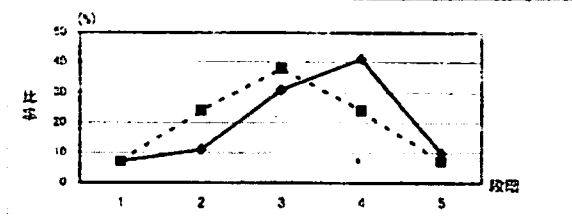
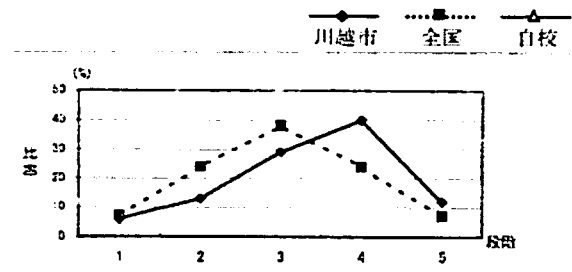
評定					
----	--	--	--	--	--

算数	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	7	11	32	44	5
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--

理科	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	9	25	41	21	4
全国	7	24	38	24	7
自校					

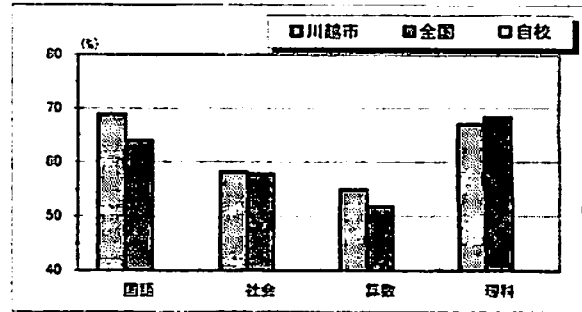
評定					
----	--	--	--	--	--



3 小学校第6学年

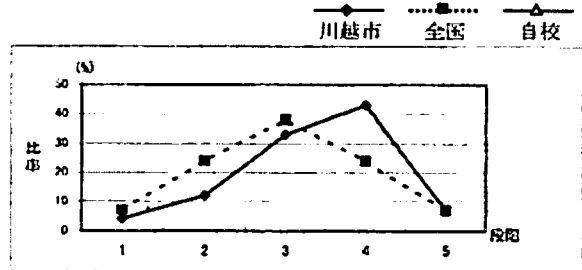
(1) 全国通過率と川越市通過率の比較

(%)				
教科	国語	社会	算数	理科
川越市	68.9	58.2	55.0	67.0
全国	63.9	57.8	51.9	68.4
自校				

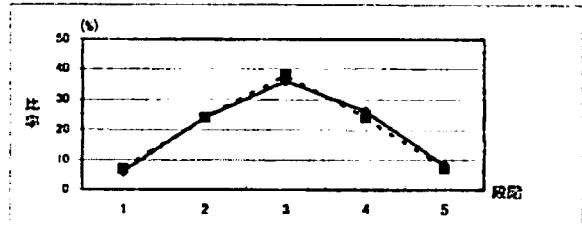


(2) 各教科の5段階出現率

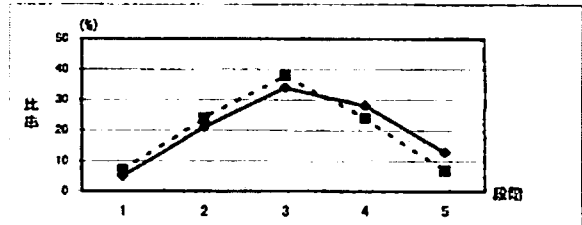
国語 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	4	12	33	43	7
全国	7	24	38	24	7
自校					
評価					



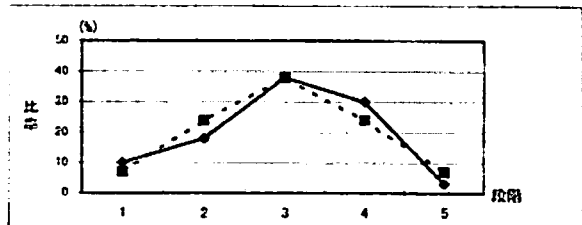
社会 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	6	24	36	26	8
全国	7	24	38	24	7
自校					
評価					



算数 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	5	21	34	28	13
全国	7	24	38	24	7
自校					
評価					



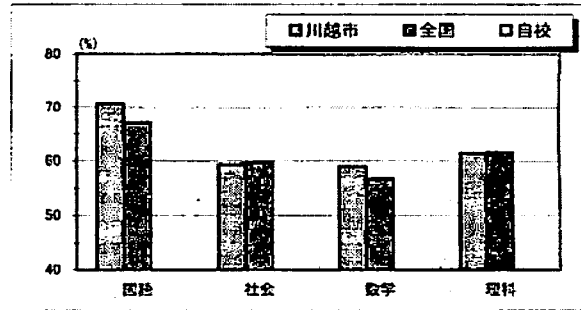
理科 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	10	18	38	30	3
全国	7	24	38	24	7
自校					
評価					



4 中学校第1学年

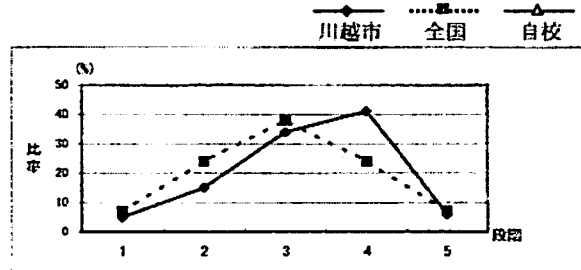
(1) 全国通過率と川越市通過率の比較

教科	国語	社会	数学	理科
川越市	70.7	59.4	59.0	61.4
全国	67.1	59.8	56.8	61.5
自校				



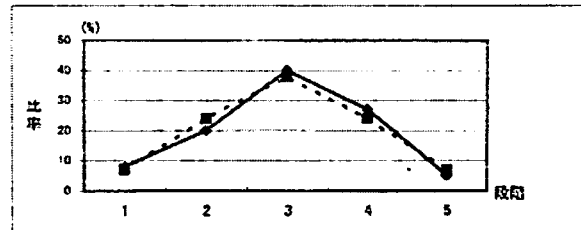
(2) 各教科の5段階出現率

国語	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	5	15	34	41	6
全国	7	24	38	24	7
自校					



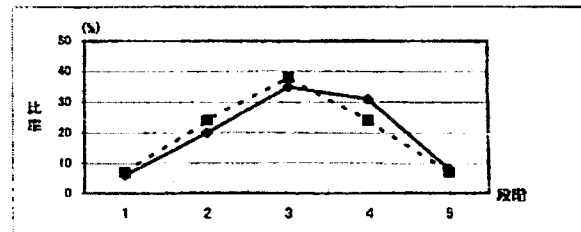
評定					
----	--	--	--	--	--

社会	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	8	20	40	27	5
全国	7	24	38	24	7
自校					



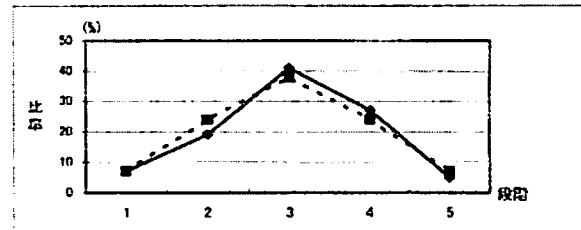
評定					
----	--	--	--	--	--

数学	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	6	20	35	31	8
全国	7	24	38	24	7
自校					



評定					
----	--	--	--	--	--

理科	出現率 (%)				
段階	1	2	3	4	5
川越市	7	19	41	27	5
全国	7	24	38	24	7
自校					

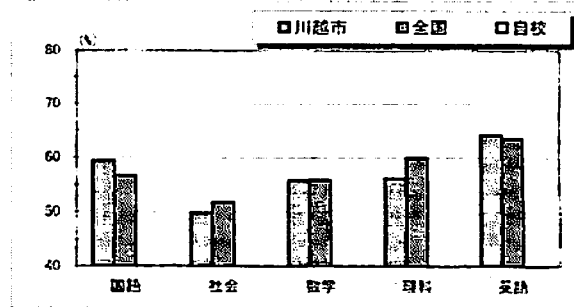


評定					
----	--	--	--	--	--

5 中学校第2学年

(1) 全国通過率と川越市通過率の比較

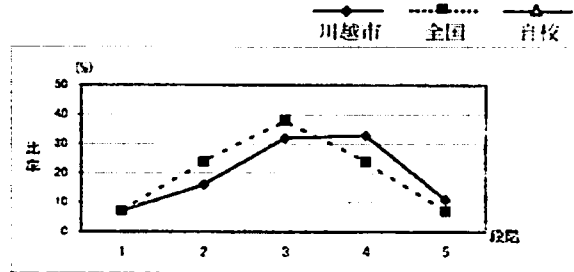
教科	(%)				
	国語	社会	数学	理科	英語
川越市	59.4	49.8	55.8	56.2	64.2
全国	56.7	51.8	55.9	60.0	63.4
自校					



(2) 各教科の5段階出現率

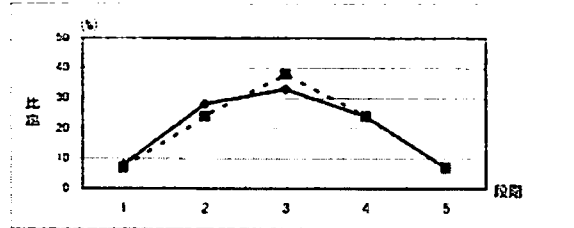
国語 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	7	16	32	33	11
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



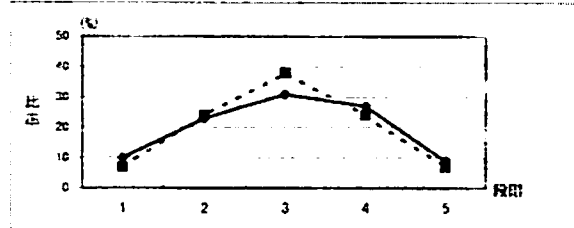
社会 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	8	28	33	24	7
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



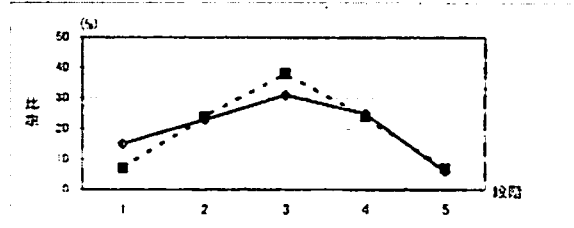
数学 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	10	23	31	27	9
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



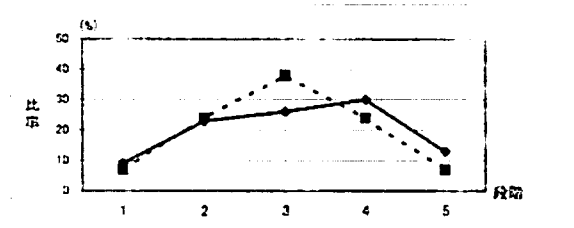
理科 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	15	23	31	25	6
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



英語 (%)					
段階	1	2	3	4	5
川越市	9	23	26	30	13
全国	7	24	38	24	7
自校					

評定					
----	--	--	--	--	--



I 国語

1 小学校第4学年 (内容第3学年)

(1) 大領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1 話すこと・聞くこと	79.7	81.9	82.4	77.3	77.3	77.3	2.4	4.6	5.1			
2 書くこと	66.6	68.1	68.3	61.3	61.3	61.3	5.3	6.8	7.0			
3 読むこと	60.9	62.7	63.2	58.6	58.6	58.6	2.3	4.1	4.6			
4 言語事項	61.9	62.8	63.7	62.4	62.4	62.4	-0.5	0.4	1.3			

偏差値 平成18年度平均 51.3
平成19年度平均 52.2
平成20年度平均 52.6

(2) 中領域の比較

内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 伝えたい事を選び適切に話すこと	73.5	76.6	77.7	72.7	72.7	72.7	0.8	3.9	5.0		↑	△
1-2 話の中心に気をつけて聞くこと	88.7	89.0	89.1	86.2	86.2	86.2	2.5	2.8	2.9			
1-3 すずんで話し合うこと	74.6	78.2	78.5	70.3	70.3	70.3	4.3	7.9	8.2	↑	△	△
2-4 書く材料を収集・選択すること	75.4	77.2	77.0	69.8	69.8	69.8	5.6	7.4	7.2	△	△	△
2-5 目的、段落に注意して書くこと	71.6	72.6	73.9	65.3	65.3	65.3	6.3	7.3	8.6	△	△	△
2-6 文章などの間違いなどを直すこと	39.2	40.8	39.9	36.3	36.3	36.3	2.9	4.5	3.6		↑	↑
3-7 叙述を基に場面を想像し読むこと	60.0	62.4	62.5	58.0	58.0	58.0	2.0	4.4	4.5		↑	↑
3-8 中心をおさえて読むこと	64.1	65.1	65.7	60.8	60.8	60.8	3.3	4.3	4.9	↑	↑	↑
3-9 様子がわかるよう声に出して読む	55.5	57.4	58.7	55.0	55.0	55.0	0.5	2.4	3.7			↑
4-10 語句の類別	26.4	25.8	25.4	25.0	25.0	25.0	1.4	0.8	0.4			
4-11 修飾・被修飾の関係、接続語	47.1	48.6	49.6	51.2	51.2	51.2	-4.1	-2.6	-1.6	↓		
4-12 漢字の構成・筆順、読み・書き	72.3	73.3	74.3	71.5	71.5	71.5	0.8	1.8	2.8			

(3) 平成18・19・20年度ともに 全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差
4	11	修飾・被修飾の理解 (13-1)	18	25	-7	19	25	-6	19	25	-6
	11	修飾・被修飾の理解 (13-3)	31	41	-10	35	41	-6	35	41	-6
	12	漢字の書き・三角形 (16-3)	52	69	-17	55	69	-14	56	69	-13

(4) 全国・川越ともに 通過率30%以下の小問

・読点を適切に使うこと	(8-1)
・読点を適切に使うこと	(8-2)
・修飾・被修飾の理解	(13-1)
・修飾・被修飾の理解	(13-2)
・語句の類別	(14-1)

()は問題番号

2 小学校第5学年（内容第4学年）

(1)大領域の比較

大領域別集計（正答率％）										偏差値			平成18年度平均			平成19年度平均			平成20年度平均		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校											
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20									
1 話すこと・聞くこと	68.9	69.7	70.4	64.7	64.7	64.7	4.2	5.0	5.7												
2 書くこと	71.2	71.9	74.4	67.7	67.7	67.7	3.5	4.2	6.7												
3 読むこと	57.2	56.9	58.9	53.1	53.1	53.1	4.1	3.8	5.8												
4 言語事項	65.3	65.1	66.8	60.0	60.0	60.0	6.3	5.1	6.8												

(2)中領域の比較

中領域別集計（正答率％）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 相手や目的に応じて話すこと	60.9	61.6	62.6	57.4	57.4	57.4	3.5	4.2	5.2	↑	↑	△
1-2 話の中心に気をつけて聞くこと	89.7	90.0	90.2	84.5	84.5	84.5	5.2	5.5	5.7	△	△	△
1-3 すすんで話し合いに参加すること	65.5	66.9	67.4	60.4	60.4	60.4	5.1	6.5	7.0	△	△	△
2-4 書く材料を収集・選択すること	74.0	74.8	77.3	69.4	69.4	69.4	4.6	5.4	7.9	↑	△	△
2-5 段落などに注意して書くこと	69.3	70.5	73.2	69.0	69.0	69.0	0.3	1.5	4.2			↑
2-6 文章の間違いなどを正すこと	63.0	62.8	64.6	59.0	59.0	59.0	4.0	3.8	5.6	↑	↑	△
3-7 段落の関係を考えながら読むこと	63.8	64.8	65.7	58.3	58.3	58.3	5.5	6.5	7.4	△	△	△
3-8 場面や情景を想像して読むこと	58.0	56.9	58.8	56.2	56.2	56.2	1.8	0.7	2.6			
3-9 まとまりや細部に注意して読むこと	52.6	52.2	54.7	48.7	48.7	48.7	3.9	3.5	6.0	↑	↑	△
4-10 辞書を活用すること	34.6	31.9	33.1	29.5	29.5	29.5	5.1	2.4	3.6	△		↑
4-11 修飾・被修飾の関係、指示語	56.2	55.1	56.2	53.6	53.6	53.6	2.6	1.5	2.6			
4-12 漢字やローマ字の読み書き	75.8	74.9	77.0	67.8	67.8	67.8	8.0	7.1	9.2	△	△	△

(3)平成18・19・20年度 ともに
全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	伝聞の話し方 (2-3-イ)	42	43	-1	41	43	-2	41	43	-2
4	12	ローマ字の読み書き (11-1)	60	66	-6	58	66	-8	63	66	-3
	12	ローマ字の読み書き (11-2)	58	67	-9	56	67	-11	62	67	-5

(4)全国・川越 ともに
通過率30%以下の小問

登場人物の心情を読む (8-5)
国語辞典の引き方 (10-2)

()は問題番号

3 小学校第6学年（内容第5学年）

(1)大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値		
										平成18年度平均	52.6	
										平成19年度平均	53.3	
										平成20年度平均	53.2	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1 話すこと・聞くこと	73.9	75.5	75.1	70.0	70.0	70.0	3.9	5.5	5.1			
2 書くこと	65.2	66.4	66.6	61.3	61.3	61.3	3.9	5.1	5.3			
3 読むこと	63.6	64.2	63.9	61.3	61.3	61.3	2.3	2.9	2.6			
4 言語事項	69.3	70.2	70.1	63.5	63.5	63.5	5.8	6.7	6.6			

(2)中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 組み立てを工夫して話すこと	72.7	72.7	73.1	63.0	63.0	63.0	9.7	9.7	10.1	△	△	△
1-2 話し手の意図を考えて聞くこと	73.0	73.8	73.4	71.4	71.4	71.4	1.6	2.4	2.0			
1-3 意図・立場を明確にして話し合う	75.1	78.5	77.7	71.5	71.5	71.5	3.6	7.0	6.2	↑	△	△
2-4 目的や意図に応じた書き方の工夫	70.1	71.7	71.4	67.2	67.2	67.2	2.9	4.5	4.2		↑	↑
2-5 書くことがらを整理して書くこと	72.7	72.5	73.3	68.0	68.0	68.0	4.7	4.5	5.3	↑	↑	△
2-6 文章の組み立ての効果を考える	59.1	60.5	60.8	54.8	54.8	54.8	4.3	5.7	6.0	↑	△	△
3-7 必要な図書資料を選んで読むこと	67.9	68.5	69.5	68.0	68.0	68.0	-0.1	0.5	1.5			
3-8 心情や場面描写を読み取ること	52.1	53.3	51.5	49.3	49.3	49.3	2.8	4.0	2.2		↑	
3-9 要旨や文章構成を読み取ること	74.4	74.3	75.2	70.8	70.8	70.8	3.6	3.5	4.4	↑	↑	↑
4-10 語句の構成と類別の理解	40.6	41.5	42.2	40.0	40.0	40.0	0.6	1.5	2.2			
4-11 辞書を活用すること	90.0	91.0	91.7	89.0	89.0	89.0	1.0	2.0	2.7			
4-12 漢字の読み・書き、送り仮名	76.1	77.0	76.4	67.3	67.3	67.3	8.8	9.7	9.1	△	△	△

(3)平成18・19・20年度 ともに
全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	構成の聞き取り (1-1)	60	62	-2	61	62	-1	61	62	-1
2	6	表現の工夫・比喻 (8-1)	59	66	-7	62	66	-4	61	66	-5
3	7	図書館での資料の検索 (10-2-7)	84	86	-2	84	86	-2	83	86	-3
4	10	修飾語の理解 (14-3)	21	26	-5	22	26	-4	22	26	-4

(4)全国・川越 ともに
通過率30%以下の小問

・叙述に即して読む	(12-3)
・修飾語の理解	(14-1)
・修飾語の理解	(14-3)

()は問題番号

4 中学校第1学年 (内容第6学年)

(1) 大領域の比較

内 容	大領域別集計 (正答率%)											
	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1 話すこと・聞くこと	87.9	87.1	86.9	86.0	86.0	86.0	1.9	1.1	0.9			
2 書くこと	70.1	69.0	69.1	63.8	63.8	65.6	6.3	5.2	3.5			
3 読むこと	59.5	58.0	58.4	55.3	55.3	56.7	4.2	2.7	1.7			
4 言語事項	68.7	67.3	69.3	60.0	60.0	62.9	8.7	7.3	6.4			

偏差値 平成18年度平均 53.4
平成19年度平均 52.6
平成20年度平均 52.1

(2) 中領域の比較

内 容	中領域別集計 (正答率%)											
	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 目的や場に応じて話すこと	85.2	84.5	84.5	82.8	82.8	82.8	2.4	1.7	1.7			
1-2 意図を考えながら聞くこと	92.3	92.4	92.0	91.6	91.6	91.6	1.7	0.8	0.4			
2-3 目的や意図に応じた書き方の工夫	71.3	69.5	70.0	66.5	66.5	67.0	4.8	3.0	3.0	↑	↑	↑
2-4 書く材料を整理すること	70.0	69.1	69.1	64.4	64.4	66.8	5.6	4.7	2.3	△	↑	
2-5 文章の組み立ての効果を考える	70.4	70.8	70.2	60.0	60.0	65.0	10.4	10.8	5.2	△	△	△
2-6 効果的な表現にすること	68.6	67.4	67.5	61.8	61.8	63.8	6.8	5.6	3.7	△	△	↑
3-7 心情や場面描写を読み取ること	62.3	60.6	61.1	58.3	58.3	59.3	4.0	2.3	1.8	↑		
3-8 要旨を読み取ること	69.3	67.6	68.8	66.0	66.0	66.7	3.3	1.6	2.1	↑		
3-9 事実と感想の関係を押さえて読む	41.6	41.0	40.0	38.3	38.3	38.3	3.3	2.7	1.7	↑		
4-10 語句の種類	63.6	63.7	64.7	49.5	49.5	51.5	14.1	14.2	13.2	△	△	△
4-11 語句の構成・由来の理解	69.7	69.3	69.9	69.8	69.8	70.0	-0.1	-0.5	-0.1			
4-12 漢字の読み・書き・送り仮名	68.9	67.0	69.6	58.3	58.3	62.4	10.6	8.7	7.2	△	△	△

(3) 平成18・19・20年度 ともに 全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	内容を正しく聞き取る (1-2-9)	93	94	-1	91	94	-3	92	94	-2
	1	適切な話し方・確認 (2-1-3)	93	96	-3	92	96	-4	93	96	-3
3	7	場面を読み取る・汽車 (7-1)	81	84	-3	78	84	-6	79	82	-3
	7	内容を読み取る・それ (7-2)	74	75	-1	72	75	-3	72	75	-3
	7	作者の心情を読み取る (7-5)	71	73	-2	71	73	-2	71	73	-2
4	11	四字熟語・絶体絶命 (11-2)	42	46	-4	42	46	-4	43	46	-3
	12	漢字読み・看護 (12-3)	90	91	-1	89	91	-2	89	91	-2

(4) 全国・川越 ともに 通過率30%以下の小問

・細部読み取り・原因 (8-2)
・文章表現・まるで (9-1)
・漢字送り仮名・新たに (15-2)

()は問題番号

5 中学校第2学年（内容第1学年）

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率％）											偏差値			平成18年度平均	平成19年度平均	平成20年度平均
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校						
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20				
1 話すこと・聞くこと	74.3	74.0	73.7	72.0	72.0	72.0	2.3	2.0	1.7				51.9	52.1	52.0	
2 書くこと	67.7	69.4	68.6	65.3	65.3	65.3	2.4	4.1	3.3							
3 読むこと	52.3	52.1	52.0	51.5	51.5	51.5	0.8	0.6	0.5							
4 言語事項	46.8	47.0	47.4	42.0	42.0	42.0	4.8	5.0	5.4							

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率％）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 考えや意図、構成に注意すること	79.6	79.7	79.3	76.7	76.7	76.7	2.9	3.0	2.6		↑	
1-2 効果的な話題を選んで話すこと	76.0	73.8	74.4	74.1	74.4	74.4	1.6	-0.6	0.0			
1-3 意図を理解し合って話し合うこと	59.3	60.8	59.6	56.3	56.3	56.3	3.0	4.5	3.3	↑	↑	↑
2-4 書く材料の収集、吟味、検討	72.6	75.1	74.9	73.4	73.4	73.4	-0.8	1.7	1.5			
2-5 文章を推敲、批評すること	66.0	67.4	66.4	62.3	62.3	62.3	3.7	5.1	4.1	↑	△	↑
3-6 文脈の中での語句の意味の理解	54.2	52.0	52.9	55.6	55.6	55.6	-1.4	-3.6	-2.7		↓	
3-7 文章の構成や展開を把握すること	31.8	32.6	31.7	32.5	32.5	32.5	-0.7	0.1	-0.8			
3-8 主題・要旨の把握、見方・考え方	53.8	53.9	52.8	51.6	51.6	51.6	2.2	2.3	1.2			
3-9 文章の内容把握や要約、情報収集	72.5	73.4	75.2	71.0	71.0	71.0	1.5	2.4	4.2			↑
4-10 文の構造について理解する	35.2	36.3	39.9	41.0	41.0	41.0	-5.8	-4.7	-1.1	▼	↓	
4-11 単語について理解する	39.2	36.3	36.8	33.4	33.4	33.4	5.8	2.9	3.4	△		↑
4-12 漢字を正しく読むこと・書くこと	54.9	57.8	57.7	50.1	50.1	50.1	4.8	7.7	7.6	↑	△	△

(3) 平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問
(全国通過率との開きがある小問10問)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川 越	全 国	全国との差	川 越	全 国	全国との差	川 越	全 国	全国との差
1	2	スピーチの批評・話送 (1-2-7)	81	84	-2	75	84	-9	75	84	-9
		スピーチの批評・選材 (1-2-2)	81	83	-2	77	83	-6	76	83	-7
1	5	スピーチへの質問意見 (1-3-2)	63	68	-5	64	68	-4	65	68	-3
		手紙の書き方・時候 (4-1)	84	88	-4	83	88	-5	82	88	-6
2	5	手紙の批評 (4-3-7)	80	82	-2	78	82	-4	77	82	-5
		手紙の批評 (4-3-9)	74	79	-5	74	79	-5	72	79	-7
3	6	叙述に即した読み取り (7-1)	24	30	-6	20	30	-10	22	30	-8
		文章の主題の読み取り (7-4)	49	50	-1	49	50	-1	47	50	-3
6	8	語句・かくして (8-2)	64	69	-5	63	69	-6	63	69	-6
		情景や心情の読み取り (10-3)	45	49	-4	48	49	-1	45	49	-4

(4) 全国・川越 とともに
通過率30%以下の小問

・語句の選び方	(3-2)
・叙述に即した読み取り	(7-1)
・叙述に即した読み取り	(8-5)
・内容の読み取り	(10-1)
・文の成分・主題	(11-1-1)
・文の成分・主題	(11-3-A)
・名詞の理解	(11-4-3)

()は問題番号

6 平成19年度「川越市中学生学力調査」(中学校第3学年)結果概要

①問題について

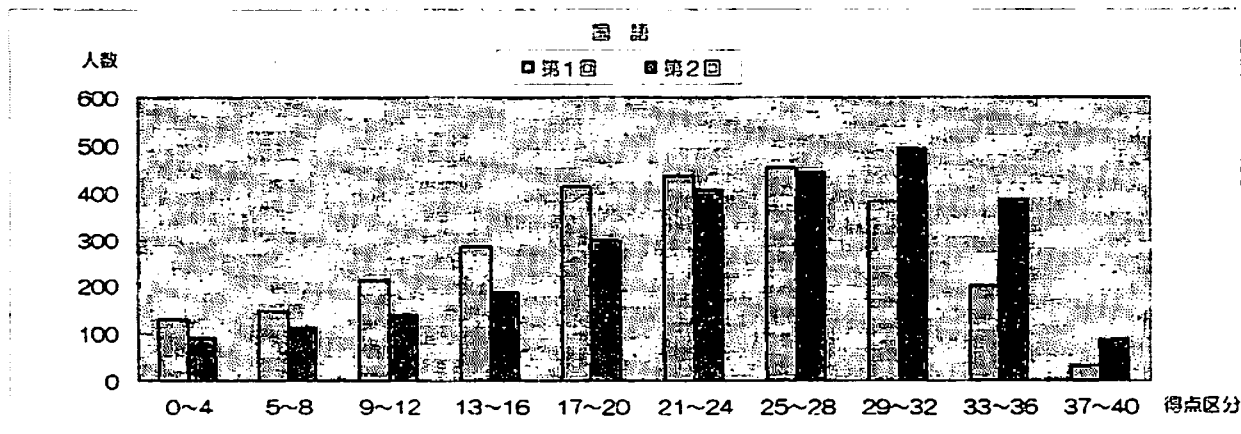
小学校で学習した内容を含め、中学校国語に関する基本的な事柄が身に付いているかどうかをみるために、第1回ではおもに中学1・2年で学習した内容、第2回ではそれらに加えて中学3年前半で学習した内容を出題範囲とした。

出題内容は、「文学的文章の読み取り」、「漢字の読み書き」、「言語事項の理解」、「説明的文章の読み取り」、「古典の読み取り」、「作文」であった。

「文学的文章の読み取り」では登場人物の心情や考え方を的確に捉えられること、「漢字の読み書き」では小学校で学習した漢字については書けること、中学校で学習した漢字については読めること、「言語事項の理解」では主述・修飾等の関係を理解していること、「説明的文章の読み取り」では段落相互の関係や文章展開を捉えられること、「古典の読み取り」では歴史的仮名遣いや語句の意味を理解していること、「作文」では場面や状況にあった自分なりの表現ができることなどを問う問題を出題した。

②結果について

各回の予想正答率が異なるので単純比較はできないが、正答率の度数分布はグラフのとおりで、第1回(予想正答率59.2%)に比して第2回(予想正答率65.2%)では上位層がやや増加している。



小問ごとの結果は下表のとおりで、第1回の結果正答率は予想正答率を▼4.1ポイント下回り、第2回は▼4.8ポイント下回る結果であった。

第1回と第2回をあわせて、予想正答率を25ポイント以上下回った問題は7問、無解答率が50%を超えた問題は2問あった。特に、これらの問題については、なんらかの対策が求められる。

第1回

問題番号		解答形式			予想正答率	結果正答率	差値	無解答率	問題の内容
大問	中間	選択	記述	論述					
1	(1)		○		70	66.9	▼3.1	1.0	文学的文献の読み取り
	(2)		○		60	31.9	▼28.1	7.8	
	(3)		○		50	66.9	△16.9	10.6	
	(4)		○		70	45.9	▼24.1	6.5	
	(5)		○		40	31.2	▼8.8	65.0	
2	(1)		○		70	81.2	△11.2	9.7	漢字の読み
	(2)		○		40	38.7	▼1.3	25.4	
	(3)		○		50	64.9	△14.9	4.8	漢字の書き
	(4)		○		50	53.8	△3.8	21.4	
	(5)		○		60	58.1	▼1.9	26.6	
3	(1)		○		40	57.1	△17.1	3.3	言語事項の理解
	(2)	㊸			60	73.1	△13.1	1.5	
	(3)	㊸			50	86.8	△36.8	1.5	
	(4)	㊸			70	85.2	△15.2	1.5	
4	(1)			○	60	33.1	▼26.9	13.4	説明的文章の読み取り
	(2)		○		70	40.9	▼29.1	5.5	
	(3)			○	50	54.9	△4.9	15.2	
	(4)			○	40	5.7	▼34.3	62.3	
	(5)	㊸			70	49.4	▼20.6	5.6	
5	(1)		○		80	60.1	▼19.9	12.3	古典の読み取り
	(2)	㊸			60	69.9	△9.9	4.2	
	(3)		○		70	33.9	▼36.1	5.1	
6				○	70	58.5	▼11.5	21.9	作文
				○	70	62.5	▼7.5	21.9	
				○	60	68.1	△8.1	21.9	
		5	14	6	59.2	55.1	▼4.1	14.6	

第2回

問題番号		解答形式			予想正答率	結果正答率	乖離	無解答率	問題の内容
大問	中間	選択	記述	論述					
1	(1)		○		80	57.3	▼22.7	8.9	文学的文章の読み取り
	(2)	㊸			70	45.9	▼24.1	1.1	
	(3)		○		60	57.2	▼2.8	17.8	
	(4)		○		50	19.4	▼30.6	30.2	
	(5)	㊸			50	84.6	△34.6	2.2	
2	(1)		○		60	84.7	△24.7	6.0	漢字の読み
	(2)		○		40	24.3	▼15.7	15.2	
	(3)		○		60	57.4	▼2.6	18.4	
	(4)		○		80	63.2	▼16.8	20.8	漢字の書き
	(5)		○		70	73.7	△3.7	19.6	
3	(1)		○		60	29.0	▼31.0	6.8	言語事項の理解
	(2)	㊸			70	90.9	△20.9	1.1	
	(3)	㊸			80	68.6	▼11.4	1.0	
	(4)	㊸			50	35.5	▼14.5	1.1	
4	(1)		○		70	58.2	▼11.8	11.9	説明的文章の読み取り
	(2)		○		60	74.6	△14.6	12.8	
	(3)		○		70	60.2	▼9.8	16.7	
	(4)		○		80	71.1	▼8.9	8.9	
	(5)	㊸			60	77.5	△17.5	6.0	
5	(1)		○		80	67.5	▼12.5	8.4	古典の読み取り
	(2)	㊸			70	60.8	▼9.2	3.1	
	(3)		○		60	69.3	△9.3	4.6	
6				○	70	49.5	▼20.5	24.1	作文
				○	70	62.5	▼7.5	24.1	
				○	60	67.1	△7.1	24.1	
		7	15	3	65.2	60.4	▼4.8	11.8	

- 「文学的文章の読み取り」は、予想正答率60.0%、結果正答率50.7%で、▼9.3ポイント下回った。特に、第1回の大問1(2)「情景理解」は▼28.1ポイント、第2回の大問1(4)「情景理解および字数制限記述」は▼30.6ポイント下回った。また、第1回の大問1(4)「心情理解」は無解答率が55.0%であった。
 - ・情景や心情などが的確に把握できないのは、叙述に沿って丁寧に読む力が不足しているからである。文学的文章については、表現に着目し、文脈の中で使われる言葉の意味を押さえながら読むことが求められる。また、ストーリーに沿って出来事や心情を読み取るだけでなく、言葉や表現の効果を考えたり、作品の構造について分析したりするなどの学習を取り入れていくことが大切である。
- 「漢字の読み書き」は、予想正答率58.0%、結果正答率60.0%で、△2.0ポイント上回った。ただし、第2回の大問2(2)「糾弾」の読み(きゅうだん)は▼15.7ポイント、(4)「はんえい」の書き(反映)は▼16.8ポイント下回った。
 - ・漢字については、同音異義語や形の似た間違いやすい漢字を重点的に指導しておくことが大切である。
- 「言語事項の理解」は、予想正答率60.0%、結果正答率65.8%で、△5.8ポイント上回った。ただし、第2回の大問3(1)「文節の区切り」は▼31.0ポイント下回った。
 - ・文節の区切りは単語の補助の関係が難しいところであるが、「言葉の意味を壊さないまとまり」という概念を徹底しておかなければならない。言語事項(文法・語句等)については、今一度体系的に整理し、それを活用する機会を作っていくことが大切である。
- 「説明的文章の読み取り」は、予想正答率63.0%、結果正答率52.6%で、▼10.4ポイント下回った。特に、第1回の大問4(4)「内容把握および字数制限記述」は▼34.3ポイント下回るとともに、無解答率が62.3%であった。
 - ・説明的文章では、内容が少し難しくなると、要点を押さえながら読み進め、大まかに要旨をとらえることが困難になる生徒がいる。そうすると、授業の中でどれだけ多くの文章を読ませているかが問われるようになる。教科書で扱う教材にとどまらず、いろいろな文章を読ませる機会を設定するようにしたい。
- 「古典の読み取り」は、予想正答率70.0%、結果正答率60.3%で、▼9.7ポイント下回った。特に、第1回の大問5(3)「展開理解」は▼36.1ポイント下回った。
 - ・古文では、叙述に沿って話の筋をとらえることが大切である。そのためには、出だしの部分を丁寧に読む必要がある。原文にマーカーで印をつけながら、登場人物の関係や会話部分について押さえるとよい。
- 「作文」は、予想正答率66.7%、結果正答率61.4%で、▼5.3ポイント下回った。
 - ・第1回の大問6「作文」は、グラフから読み取った情報に対する意見を書くというものである。こうした問題は、PISA型「読解力」を身につけさせるという視点からも、今後さらに重視されていくものである。文章だけでなくいろいろなテキスト(非連続型テキストなど)を題材として、書く能力を身につけさせることが必要であり、書く機会をできるだけ多く設定していきたい。

7 指導の手立て

(1) 国語科

川越市中学校学力調査及び標準学力検査の検査結果から、国語においては概ね良好な状況であると考えられる。そこで、より一層の国語力の育成を考え、小学校・中学校との接続を考慮した「古典」についての指導の手立てを示した。

小学校国語

小学校での古典指導 ～中学校につながる学習指導法～

まずは古典の文章に慣れ親しませることが大切である。

古典をみんなで音読したり暗唱したりする。

独特の言い回しやリズムを感じ取り、楽しく古典に触れることができる。

さらに中学校で学習する教材に触れることにより、
中学校での古典学習に対する関心も高まり、深められるのではないかと

☆中学校で扱う教材例

「いろは歌」「竹取物語」「平家物語」「枕草子」「おくのほそ道」

○指導例 「いろは歌」

- ・授業の初めの5分程度を、音読の時間として全員で音読する。
- ・暗唱できた児童に発表させる。その際、児童の名前を掲示すると、励みになったり意欲づけになったりする。
- ・定着を図るため、音読カードを活用し、家庭の協力も得て、家庭学習を通して、音読に取り組めるようにする。

大体の意味をとらえられるようにする

いろは歌

色は匂へど 散りぬるを (いろはにほへど ちりぬるを)
わよたれ つね ん (わかよたれそ つねならむ)
我が世誰ぞ 常ならむ (わがよとよま じょうなりむ)
うい おとやま きょうこ (ういのおくやま けふこえて)
有為の奥山 今日越えて (うゐのおくやま けふこえて)
浅き夢見じ 酔ひもせず (あさきゆめみし よひもせず)

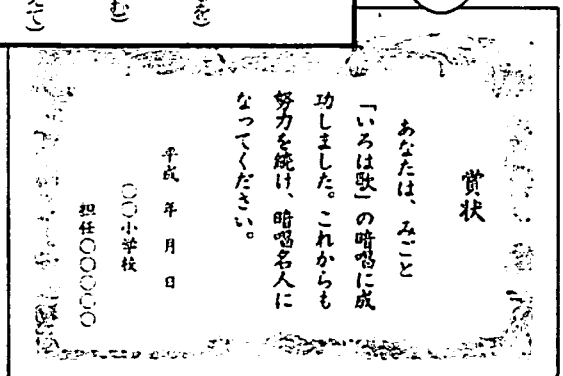
読み方を表示する。

ひらがなのみの文章も載せ、いろは歌のおもしろさに気付かせる。

桜の花の色は美しく照り映えるけれど、すぐに散ってしまふ。それと同時に、私たちが人間の世の中も、だれがいつか変わらずにいられるだろうか。無常の世のような奥山を今日越えて行くような人生で、浅い夢を見るように目の前にまじわされず、世の中の出来事に酔いしれないようにしましょう。

(ワンポイント・アドバイス)

- ・暗唱できた児童には、賞状を授与し、さらなる意欲づけを図るのもよい。
- ・いくつかの教材を暗唱してから、賞状を出す、という方法も考えられる。
- ・図書室に「古典コーナー」を設けると、児童が気軽に古典にふれることができる。



中学校国語

中学校での古典指導 ～小学校での取り組みを生かす学習指導法～

目標：「情景や思いが伝わるように暗唱しよう」

【古典指導のステップ例】

Step1. 導入の工夫～古典への興味を高める～

多様な教材の活用

- 絵本・紙芝居・アニメDVD・漫画・かるた・百人一首・デジタル教材など

古典の世界を知る

- 古人の生活・文化・背景についてのクイズ・調べ学習など

Step2. 音読の徹底～リズムを味わう～

正確な読み

- くり返しの音読練習
「一斉音読」「微音読」「ペア音読」など
- 家庭との連携
「音読カード」配付→回数記入
- 歴史的仮名遣い・用語の確認

工夫した読み

- 範読CDの利用
古典のリズム・抑揚・間などについての意識を高める。
- 補助プリントの活用

暗唱練習開始

Step3. 内容の理解～作品世界を味わう～

内容理解の手だて

- 口語訳の活用
情景や心情をとらえるための資料とする。難解な語や背景などについてもおさえる。
- 情景やエピソードのイメージ化
原文や口語訳の表現をもとに情景や場面などを絵で表す。



Step4. 1ランク上の暗唱～表現を工夫する～

表現の工夫

- 既習の「朗読の工夫の仕方」をもとに、表現を工夫する。
- 読み取った内容から、抑揚・間・速さ・強弱などの表現の工夫をワークシートに記入する。
- 暗唱練習では、自らが描いた絵をヒントカードとし、どのような情景・場面を暗唱しているのかを意識させる。

暗唱の方法

- 目標と約束事を確認する。
- 暗唱練習をくり返し行う。家庭での練習も位置付ける。
- 必修課題と自由課題に分け、苦手意識の強い生徒も取り組みやすいようにする。
- グループ学習・ペア学習など、授業形態を工夫し、生徒が教え合う場面を設定する。

II 社会

1 小学校第4学年 (内容第3学年)

(1) 大領域の比較

内 容		川 越			全 国			全国との差			自 校		
		H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
大領域別集計 (正答率%)		偏差値 平成18年度平均 50.6 平成19年度平均 50.8 平成20年度平均 51.1											
1	身近な地域	80.9	80.8	80.9	78.3	78.3	78.3	2.6	2.5	2.6			
2	地域の人々の生産と販売	69.0	70.0	70.5	67.4	67.4	67.4	1.6	2.6	3.1			
3	わたしたちの町とくらし (選択)			75.2			62.7	0.0	0.0	12.5			
3	昔のくらし (選択)	82.2	82.5	83.1	84.7	84.7	84.7	-2.5	-2.2	-1.6			

(2) 中領域の比較

内 容		川 越			全 国			全国との差			値 向		
		H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1	公共施設の工夫と利用	85.4	86.1	85.3	82.6	82.6	82.6	2.8	3.5	2.7		↑	
1-2	町のようなお調べ方	85.7	84.6	84.5	84.5	84.5	84.5	1.2	0.1	0.0			
1-3	地図から土地の様子を知ること	74.7	75.0	75.6	70.9	70.9	70.9	3.8	4.1	4.7	↑	↑	↑
2-4	店ではたらく人々の仕事や工夫	68.1	69.2	69.9	67.3	67.3	67.3	0.8	1.9	2.6			
2-5	農家ではたらく人々の仕事や工夫	72.1	72.1	71.9	68.0	68.0	68.0	4.1	4.1	3.9	↑	↑	↑
2-6	工場ではたらく人々の仕事や工夫	68.8	69.9	70.4	66.0	66.0	66.0	2.8	3.9	4.4			↑
3-7	地図や観察から町の様子を知る			72.5			59.6			12.9			△
3-8	買い物の工夫			82.5			70.8			11.7			△
3-7	昔のくらしや道具	86.4	86.5	87.3	89.8	89.8	89.8	-3.4	-3.3	-2.5	↓	↓	
3-8	絵地図による移り変わりの理解	73.8	74.6	74.7	76.8	76.8	76.8	-3.0	-2.2	-2.1	↓		

(3) 平成18・19・20年度 ともに全国通過率を下回る小問

(全国通過率との開きがある小問10問)

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	町の観察・方角と遠近 (1-1-7)	81	82	-1	78	82	-4	78	82	-4
	1	公共施設・公民館 (2-2)	78	79	-1	78	79	-1	76	79	-3
3	7	新道の道具・そろばん (14-1)	91	97	-6	91	97	-6	93	97	-4
	7	新道の道具・ランプ (14-2)	92	93	-6	93	95	-5	94	95	-4
	7	新道の道具・井戸 (14-3)	93	96	-3	92	96	-4	93	96	-3
	7	新道の道具・しちりん (14-4)	89	94	-5	89	94	-5	92	94	-2
	7	道具と生活の変化 (15-2-1)	70	81	-11	71	81	-10	69	81	-12
	8	絵図・町の移り変わり (16-1-1)	80	85	-5	81	85	-4	82	85	-3
	8	絵図・町の移り変わり (16-1-2)	93	97	-4	93	97	-4	93	97	-4
	8	町の移り変わる理由 (16-2-7)	63	70	-7	63	70	-7	63	70	-7

2 小学校第5学年（内容第4学年）

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値		
										平成18年度平均	52.3	
										平成19年度平均	52.1	
										平成20年度平均	53.0	
内 容	川 越			全 国			全国との差			目 校		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1 健康な生活と安全な生活	75.0	74.5	75.7	72.9	72.9	72.9	2.1	1.6	2.8			
2 地域の開発と人々の生活	73.8	73.4	74.6	70.6	70.6	70.6	3.2	2.8	4.0			
3 県のように人と人々の暮らし	62.0	62.0	63.6	56.7	56.7	56.7	5.3	5.3	6.9			

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 水の利用と水源の確保	72.6	72.1	72.8	70.7	70.7	70.7	1.9	1.4	2.1			
1-2 ごみの処理とリサイクル	83.1	83.1	83.6	82.5	82.5	82.5	0.6	0.6	1.1			
1-3 安全を守る警察の仕事	76.2	75.2	76.7	72.7	72.7	72.7	3.5	2.5	4.0	↑		↑
1-4 消防の仕事や火事を防ぐ工夫	69.8	69.2	71.3	66.5	66.5	66.5	3.3	2.7	4.8	↑		↑
2-5 今に伝わる昔の暮らし	83.0	81.7	83.0	79.2	79.2	79.2	3.8	2.5	3.8	↑		↑
2-6 地図から読み取る昔の開発	54.3	53.6	55.1	48.8	48.8	48.8	5.5	4.8	6.3	△	↑	△
2-7 資料から考える昔の開発	80.3	80.6	81.6	78.1	78.1	78.1	2.2	2.5	3.5			↑
3-8 地図記号を通して町を知る	62.2	62.5	64.0	58.9	58.9	58.9	3.3	3.6	5.1	↑	↑	△
3-9 地図を見て土地の様子を知る	57.9	58.0	60.0	52.0	52.0	52.0	5.9	6.0	8.0	△	△	△
3-10 県の産業やその特色	64.0	63.9	65.3	57.7	57.7	57.7	6.3	6.2	7.6	△	△	△

(3) 平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問 全国通過率を下回る小問

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	読図・ダム (1-3)	70	71	-1	67	71	-4	69	71	-2
	2	再利用の工夫 (5-1)	80	84	-4	78	84	-6	80	84	-4
	3	事故・消防署 (6-1-2)	31	34	-3	31	34	-3	32	34	-2

3 小学校第6学年（内容第5学年）

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値		
										平成18年度平均	49.6	
										平成19年度平均	50.2	
										平成20年度平均	50.2	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1 わが国の農業や水産業	52.2	54.6	54.9	55.3	55.3	55.3	-3.1	-0.7	-0.4			
2 わが国の工業生産	57.0	57.8	57.7	57.5	57.5	57.5	-0.5	0.3	0.2			
3 通信と国民生活	64.1	64.3	63.6	65.4	66.4	66.4	-2.3	-2.1	-2.8			
4 わが国の国土のようす	55.4	56.2	56.9	52.7	52.7	52.7	2.7	3.5	4.2			

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 日本の農業	45.0	47.7	48.1	49.1	49.1	49.1	-4.1	-1.4	-1.0	↓		
1-2 農業生産を高める工夫と自給	51.2	52.7	54.0	51.5	51.5	51.5	-0.3	1.2	2.5			
1-3 日本の水産業	65.8	68.7	67.6	70.0	70.0	70.0	-4.2	-1.3	-2.4	↓		
2-4 工業生産の仕組と工業製品	77.2	78.5	76.9	80.5	80.5	80.5	-3.3	-2.0	-3.6	↓		↓
2-5 資料から読み取る工業のようす	41.3	41.1	42.1	38.8	38.8	38.8	2.5	2.3	3.3			↑
2-6 日本の工業地帯の特色	50.8	52.2	52.3	53.2	53.2	53.2	-2.4	-1.0	-0.9			
2-7 日本の工業と貿易の特色	64.0	64.7	64.5	63.0	63.0	63.0	1.0	1.7	1.5			
3-8 情報伝達手段の発達と情報の活用	72.1	71.9	70.8	75.4	75.4	75.4	-3.3	-3.5	-4.6	↓	↓	↓
3-9 発達する情報機器とその利用	53.4	54.0	53.9	54.5	54.5	54.5	-1.1	-0.5	-0.6			
4-10 日本の周りの国や海と気候の特色	48.3	48.3	49.8	44.4	44.4	44.4	3.9	3.9	5.4	↑	↑	△
4-11 日本の土地利用と地形の特色	69.1	70.9	70.9	69.5	69.5	69.5	-0.4	1.4	1.4			
4-12 公害問題や環境を守る活動	54.1	55.5	55.5	50.3	50.3	50.3	3.8	5.2	5.2	↑	△	△

(3) 平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問
（全国通過率との開きがある小問10問）

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	都市近郊の野菜作り (4-1)	41	58	-17	47	58	-11	46	58	-12
2	4	化学工業の製品 (6-2)	74	78	-4	73	78	-5	70	78	-8
	5	資料・1工場当生産額 (7-2)	46	52	-6	46	52	-6	46	52	-6
	5	資料・大工場 (7-4)	35	38	-3	35	38	-3	35	38	-3
	6	京浜工業地帯の特色 (8-1-2)	66	73	-7	66	73	-7	66	73	-7
	6	北九州工業地帯の位置 (8-2-3)	22	27	-5	25	27	-2	25	27	-2
3	8	情報の発達・伝達手段 (12-1)	60	67	-7	60	67	-7	59	67	-8
	8	情報の発達・衛星中継 (12-2)	72	76	-4	72	76	-4	67	76	-9
	8	情報機器・ファックス (13-1)	61	65	-4	58	65	-7	55	65	-10
	9	通信衛星の発達 (15-2)	58	61	-3	59	61	-2	56	61	-5

4 中学校第1学年（内容第6学年）

(1)大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値		
										平成18年度平均	51.1	
										平成19年度平均	50.9	
										平成20年度平均	49.7	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1 地理的分野	59.8	60.5	60.8	58.2	58.2	60.0	1.6	2.3	0.8			
2 歴史的分野	55.4	54.0	54.6	53.3	53.3	55.9	2.1	0.7	-1.3			
3 公民的分野	67.0	66.8	65.8	65.0	65.0	66.3	2.0	1.8	-0.5			

(2)中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 日本の農業とその特色	66.3	67.1	65.1	60.7	60.7	63.0	5.6	6.4	2.1	△	△	
1-2 日本の工業地帯とその特色	27.9	26.1	28.5	29.8	29.8	31.6	-1.9	-3.7	-3.1		↓	↓
1-3 日本の水産業	63.4	63.7	63.0	58.5	58.5	62.5	4.9	5.2	0.5	↑	△	
1-4 日本の気候とくらし	71.5	73.6	74.8	75.0	75.0	75.8	-3.5	-1.4	-1.0	↓		
1-5 国土についての基礎的な知識	73.2	75.7	76.2	67.5	67.5	69.5	5.7	8.2	6.7	△	△	△
2-6 縄文から古墳時代のように	64.3	65.0	64.8	61.3	61.3	61.3	3.0	3.7	3.5	↑	↑	↑
2-7 貴族の世の中	51.9	50.8	51.6	50.0	50.0	52.6	1.9	0.8	-1.0			
2-8 武士の世の中	51.8	49.9	50.3	48.9	48.9	51.9	2.9	1.0	-1.6			
2-9 明治時代から昭和時代の出来事と人物	60.2	58.4	59.6	59.0	59.0	63.0	1.2	0.6	-3.4			↓
3-10 国民権と政治のしくみ	64.3	64.5	63.6	62.7	62.7	64.3	1.6	1.8	-0.7			
3-11 日本国憲法についての基本的理解	67.4	67.1	65.5	67.7	67.7	68.0	-0.3	-0.6	-2.5			
3-12 国際連合のしくみと働き	71.9	71.1	70.9	65.0	65.0	67.3	6.9	6.1	3.6	△	△	↑

(3)平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	生産額グラフ・京浜 (2-2-B)	22	25	-3	20	25	-5	20	25	-5
2	7	貴族の生活・稲造 (10-2)	69	70	-1	67	70	3	66	73	-7
	8	家康と関ヶ原の戦い (10-4)	60	63	-3	61	63	2	56	63	-7
	9	西郷隆盛と西南戦争 (10-5)	49	61	-12	48	61	-13	49	61	-12
	8	年表完成・元の襲来 (12-1)	43	44	-1	40	44	-4	40	46	-6
	8	年表完成・検地と刀狩 (12-2)	41	45	-4	39	45	6	40	45	-5
	8	年表完成・禁教と領国 (12-3)	51	54	-3	48	54	-6	49	54	-5
	9	年表完成・日露戦争 (12-4)	54	56	-2	50	56	-6	53	55	-5
3	10	内閣の働き・行政 (13-2)	50	58	-8	50	58	-8	49	55	-6
	11	三大原則・国民権 (15-2-1)	50	55	-5	52	55	-3	48	55	-7

5 中学校第2学年(内容第1学年)

(1)大領域の比較

大領域別集計(正答率%)		偏差値			平成18年度平均			平成19年度平均			平成20年度平均		
					48.9			49.5			48.9		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	
1 世界と日本の地域構成	19.0	49.2	49.5	48.4	48.4	48.4	0.6	0.8	1.1				
2 身近な地域	56.8	57.4	56.5	55.7	55.7	55.7	1.1	1.7	0.8				
3 原始から古代	18.4	49.9	47.7	54.3	54.3	54.3	-5.9	-4.4	-6.6				
4 封建の世の中	46.6	48.1	46.5	50.0	50.0	50.0	-3.4	-1.9	-3.5				

(2)中領域の比較

中領域別集計(正答率%)		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
内 容													
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	
1-1 世界の地域構成	53.2	53.9	53.3	54.4	54.4	54.4	-1.2	-0.5	-1.1				
1-2 日本の地域構成	39.7	39.1	41.2	36.2	36.2	36.2	3.5	2.9	5.0	↑		△	
2-3 地図の見方と身近な地域	61.3	61.9	61.6	60.7	60.7	60.7	0.6	1.2	0.9				
2-4 都道府県とその調べ方	53.5	54.1	52.7	52.3	52.3	52.3	1.2	1.8	0.1				
3-5 歴史の流れと時代区分	66.2	67.1	65.9	68.3	68.3	68.3	-2.1	-1.2	-2.4				
3-6 古代国家の歩みと東アジアの情勢	43.5	45.1	42.8	50.2	50.2	50.2	-6.7	-5.1	-7.4	▼	▼	▼	
4-7 武家政治の展開とアジアの情勢	44.4	45.9	44.0	48.1	48.1	48.1	-3.7	-2.2	-4.1	↓		↓	
4-8 戦乱から天下統一	50.0	51.5	50.6	53.1	53.1	53.1	-3.1	-1.6	-2.5	↓			

(3)平成18・19・20年度 ともに全国通過率を下回る小問

(全国通過率との開きがある小問10問)

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差
1	1	アフリカ大陸と海洋 (1-3)	35	43	-8	39	43	-4	39	43	-4
3	6	古代文明の発祥や特徴 (8-1)	41	50	-9	43	50	-7	41	50	-9
	6	年表・大宝律令の制定 (9-1-7)	43	56	-13	42	56	14	37	56	-19
	6	年表・遣唐使の廃止 (9-1-4)	23	30	-7	22	30	-8	20	30	-10
	6	仏教文化と法隆寺 (9-5)	49	60	-11	52	60	8	50	60	-10
4	7	足利氏の乱と戦国時代 (10-3-B)	38	49	-11	40	49	9	35	49	-14
	7	北条氏・御成敗式目 (11-1-A)	37	44	-7	36	44	-8	34	44	-10
	7	足利氏・農民の反抗 (11-2-B)	23	28	-5	25	28	-3	24	28	-4
	8	徳川氏・農村のようす (11-4-B)	41	49	-8	44	49	-5	44	49	-5
	8	スペインの海外進出 (13-1)	27	34	-7	29	34	-5	28	34	-6

6 平成19年度「川越市中学生学力調査」（中学校第3学年）結果概要

①問題について

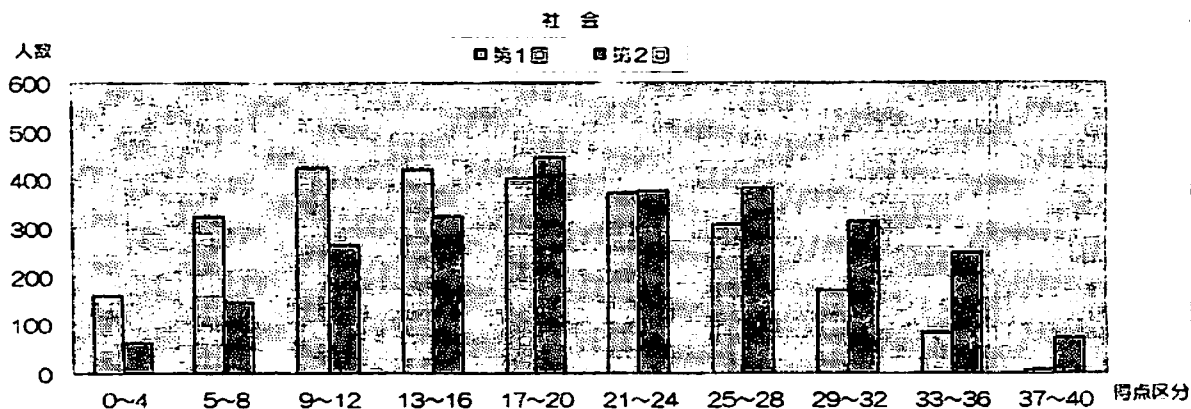
小学校で学習した内容を含め、中学校社会に関する基本的な事柄が身についているかどうかをみるために、第1回ではおもに中学1・2年で学習した内容（地理と歴史の全範囲）、第2回ではそれらに加えて中学3年前半で学習した内容（公民「人権と共生社会」までの範囲）を出題範囲とした。

出題内容は、「地理」「歴史」「公民」の分野ごとのほかに、第2回では「地歴公の融合問題」であった。

基本的な事項・事柄に関する知識・理解を問う問題に加えて、資料（グラフ・表・地図・写真等）を多面的・多角的に読み取って判断し、表現させることなどを問う問題を出題した。

②結果について

各回の予想正答率が異なるので単純比較はできないが、正答率の度数分布はグラフのとおりで、第1回（予想正答率57.6%）に比して第2回（予想正答率57.2%）では上位層がかなり増加している。



小問ごとの結果は下表のとおりで、第1回の結果正答率は予想正答率を▼13.8ポイント下回り、第2回は▼3.8ポイント下回る結果であった。

第1回と第2回をあわせて、予想正答率を25ポイント以上下回った問題は13問、無解答率が50%を超えた問題は1問あった。これらの問題については、なんらかの対策が求められる。

第1回

問題番号			解答形式			予想正答率	結果正答率	乖離	無解答率	問題の内容
大問	中間	小問	選択	記述	論述					
1		(1)		○		50	42.8	▼7.2	9.2	世界と日本の地域構成
		(2)		○		70	43.0	▼27.0	12.2	
		(3)		④		60	33.8	▼26.2	1.4	
		(4)		④		50	46.4	▼3.6	1.6	
		(5)		④		60	55.9	▼4.1	2.6	
		(6)	X		○		70	75.8	△5.8	
		Y		○		70	74.4	△4.4	7.3	
2	(1)	①	④			50	69.1	△19.1	2.1	地域の規模に応じた調査
		②		○		80	63.6	▼16.4	8.3	
		③		○		50	40.2	▼9.8	14.7	
	(2)	①		○		70	22.4	▼47.6	11.7	
		②		○		60	69.2	△9.2	10.6	
(3)		④			60	79.9	△19.9	2.2		
3	(1)	①	④			50	27.4	▼22.6	2.7	世界と比べて見た日本
		②			○	40	14.8	▼25.2	10.7	
	(2)		④			40	35.6	▼4.4	3.5	
(3)				○	50	39.2	▼10.8	33.5		
4	(1)		④			60	38.7	▼21.3	3.2	古代から近世までの日本
	(2)		④			60	47.4	▼12.6	3.4	
	(3)				○	50	55.2	△5.2	24.7	
	(4)	X		○		60	41.0	▼19.0	28.2	
		Y		○		60	14.0	▼46.0	36.1	
	(5)		④			60	51.8	▼8.2	2.8	
(6)		④			60	55.1	▼4.9	2.9		
5	(1)			○		40	20.1	▼19.9	3.9	近現代の日本と世界
	(2)		④			70	48.9	▼21.1	3.3	
	(3)			○		80	34.0	▼46.0	16.2	
	(4)		④			60	17.3	▼42.7	4.1	
	(5)				○	40	36.6	▼3.4	33.4	
	(6)		④			60	47.3	▼12.7	3.7	
6	(1)			○		70	47.9	▼22.1	27.5	古代から近世までの日本
	(2)		④			50	29.5	▼20.5	4.5	
	(3)			○		50	26.0	▼24.0	39.7	
	(4)		④			50	46.8	▼3.2	4.4	
			16	14	4	57.6	43.8	▼13.8	11.3	

第2回

大問	問題番号		解答形式			予想正答率	結果正答率	乖離	無解答率	問題の内容	
	中間	小問	選択	記述	論述						
1	(1)		㊸			70	85.1	△15.1	0.8	世界と比べて見た日本	
	(2)		㊸			50	73.7	△23.7	0.9		
	(3)		㊸			70	85.8	△15.8	0.9		
	(4)				○	50	57.2	△7.2	17.7		
	(5)	①			○		60	51.8	▼8.2	4.5	世界と日本の地域構成
	②		㊸			60	43.6	▼16.4	1.2		
2	(1)		㊸			60	63.0	△3.0	1.4	世界と比べて見た日本	
	(2)	①			○		60	59.3	▼0.7	8.2	地域の規模に応じた調査
		②	X		○		60	57.5	▼2.5	13.9	世界と比べて見た日本
		Y		○		70	39.2	▼30.8	28.6		
	(3)			㊸			50	43.3	▼6.7	1.7	地域の規模に応じた調査
(4)					○	50	47.6	▼2.4	20.8	世界と比べて見た日本	
3	(1)		㊸			50	13.5	▼36.5	1.7	古代から近世までの日本	
	(2)		㊸			50	46.9	▼3.1	1.5		
	(3)				○	50	16.0	▼34.0	48.9		
	(4)					○	60	50.1	▼9.9		16.2
	(5)			㊸			70	58.1	▼11.9		1.6
	(6)			㊸			40	29.0	▼11.0		1.7
4	(1)		㊸			60	62.0	△2.0	2.1	近現代の日本と世界	
	(2)		㊸			60	76.2	△16.2	2.2		
	(3)				○	30	57.2	△27.2	21.8		
	(4)				○	60	34.8	▼25.2	23.4		
	(5)				○	40	30.4	▼9.6	9.9		
	(6)				○	50	27.1	▼22.9	66.7		
5	(1)	①			○		70	56.5	▼13.5	15.7	人間の尊重と日本国憲法
		②				○	60	56.8	▼3.2	30.6	
	(2)			㊸			60	53.3	▼6.7	2.8	
	(3)				○	70	46.5	▼23.5	23.5		
	(4)				○	50	82.7	△32.7	2.8		
(5)			㊸			50	79.5	△29.5	2.9		
6	(1)				○	70	31.7	▼38.3	47.5	近現代の日本と世界	
	(2)			㊸			60	39.2	▼20.8	3.4	
	(3)			㊸			50	61.6	△11.6	3.1	現代社会と私たちの生活
	(4)	①			○		60	87.1	△27.1	7.4	世界と比べて見た日本
		②		㊸			70	93.4	△23.4	3.1	
(5)					○	60	26.0	▼34.0	7.9	人間の尊重と日本国憲法	
			17	14	5	57.2	53.4	▼3.8	12.2		

- 「世界と日本の地域構成」は、予想正答率61.1%、結果正答率51.9%で、▼9.2ポイント下回った。特に、第1回の大問1(2)「大陸の名称と位置」は▼27.0ポイント、(3)「気候帯の判断」は▼26.2ポイント下回った。
 - ・大陸の名称や位置などの基礎的な事項は、地図帳を使って確認をさせておく必要がある。また、縮尺を用いて距離を計算したり、経度の差から時差を計算したりするなどの基礎的な技能については、くりかえし取り上げ、体験的に身に付けたい。
- 「地域の規模に応じた調査」は、予想正答率60.0%、結果正答率55.9%で、▼4.1ポイント下回った。特に、第1回の大問2(2)①「表(農水産物の生産量)の読み取り」は▼47.6ポイント下回った。
 - ・写真やグラフ、統計資料などから地域や自然、産業等の特色を読みとる力が求められている。授業の中で、生徒が資料を分析し、まとめ、発表させるという段階を踏んだ指導が必要である。
- 「世界と比べて見た日本」は、予想正答率56.4%、結果正答率57.6%で、△1.2ポイント上回った。ただし、第1回の大問3(3)「航空機の果たしている役割(記述)」は、無解答率が33.5%であった。
 - ・自分で資料を見て考えて答えを書く問題を苦手としている生徒は多い。授業の中で、分かったことや気づいたことなどをノートにまとめさせるなどの工夫を重ねることが必要である。
- 「古代から近世までの日本」は、予想正答率55.9%、結果正答率39.2%で、▼16.7ポイント下回った。特に、第1回の大問4(4)Y「地頭」は▼46.0ポイント、第2回の大問3(1)「租庸調」は▼36.5ポイント、第2回の大問3(3)「分国法」は▼34.0ポイント下回った。
 - ・時代の変化や流れを理解させるためには、出来事の因果関係や背景を年表にまとめさせることが大切である。また、生徒同士の意見交換などによって考えを深めていく指導が必要である。
- 「近現代の日本と世界」は、予想正答率55.7%、結果正答率40.2%で、▼15.5ポイント下回った。特に、第1回の大問5(3)「三国干渉」は▼46.0ポイント、(4)「高度経済成長」は▼42.7ポイント、第2回の大問6(1)「農地改革」は▼38.3ポイント下回った。また、第2回の大問4(6)「治安維持法」は無解答率が56.7%であった。
 - ・近現代については、十分な指導時間を確保し、日本と世界の動きを関連させながら理解させる必要がある。そのうえで、現代の日本社会が形成された過程を理解させたい。
- 「人間の尊重と日本国憲法」は、予想正答率60.0%、結果正答率57.3%で、▼2.7ポイント下回った。特に、第2回の大問6(5)「グラフ(核家族の割合)の読み取り」は▼34.0ポイント下回った。
 - ・公民的分野では特に知識や理解が「用語」のレベルにとどまらず、現実の社会との関わりの中で具体的にとらえさせることが必要である。そのためには、シミュレーション教材やロールプレイなど作業的・体験的な学習を通して指導することが大切である。
- 「現代社会と私たちの生活」については、予想正答率50.0%、結果正答率61.6%で、△11.6ポイント上回った。

7 指導の手立て

川越市中学生学力検査及び標準学力検査の結果から、小学校においては日本の工業地帯の位置、中学校においてはグラフの読み取り方に課題があることがわかった。このことを踏まえ、小学校・中学校との接続を考慮し、「工業地帯」についての指導の手立てを示した。

小学校社会

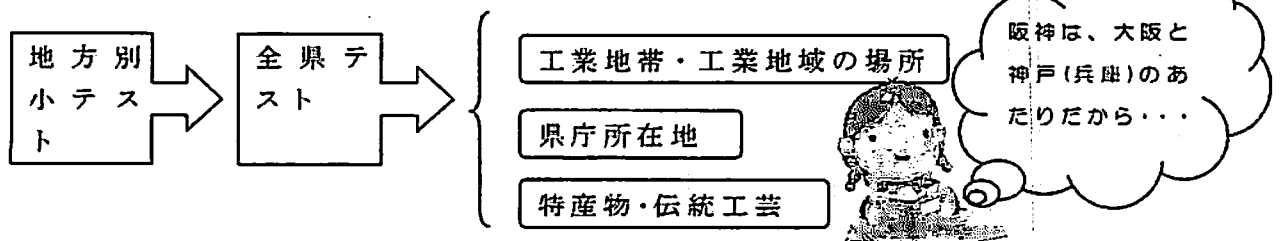
日本の工業地帯の位置や特色をどのように指導していくか。
～都道府県の学習と資料の読み取りを通して～

小学校第5学年「上」P.74～81「工業生産と工業地域」

本単元では、町工場から京浜工業地帯や京葉工業地域、そして日本全体の工業地帯まで学習対象を拡げている。日本全体の工業地帯の名称、及び場所や特色を学習する時間は1時間となっており、知識・理解を深めることが難しい。工業地帯の特色を調べるための資料の読み方とともに日本の都道府県の位置を理解することでさらに本単元の理解がより深まると考えられる。そのために、年間を通した都道府県の位置の反復学習と正確な資料の読み取り方の学習を取り入れていきたい。

指導のポイント(1)都道府県位置の反復学習(習得)

- ①年度当初に都道府県の位置確認をし、白地図に記入させておく。(かわごえ上・下の白地図を活用する)
- ②関東地方から、地方別小テストを実施。事前に予告し練習させておく。
- ③何回か練習をくり返し、全県テストを実施。(定期的に何度か行うとよい。)
- ④さらにこの都道府県テストに工業地帯、工業地域の場所を書き加えさせたり、県庁所在地を書き加えさせたりと発展的に活用していく。



★ノートにはっておこう!★

指導のポイント(2)資料の読み取り方の指導

(活用)

- ①資料の読み取り方・読み取る視点をいつでも見られるところに掲示する。
または、プリントにしてノートに貼らせておく。
- ②資料から推測して考え、グループで話し合う活動を取り入れる。
例・機械工業が発展している理由は何か。
・太平洋ベルトが発展した理由は何か。
- ③個人→グループ→一斉で話し合うことによって理解を深める。

<資料の読み取り方>

- ①資料の名前、単位は何か。
- ②一番多いものは何か。
- ③全体的にどのように変化しているか。
- ④変化はどこが大きくてどこが小さいか。
- ⑤変化している理由は何か。
- ⑥他の資料と比べながら見て気づくことはないか。

グラフの読み取り方法をどのように指導していくか。
 ～日本の主な工業地帯・地域の生産額の割合とその変化を例として～

中学校 第1学年・第2学年 地理P.81・190

写真やグラフ、統計資料などから地域や自然、産業等の特色を読み取る学習を苦手としている理由は、普段から資料に慣れ親しんでいないことが原因であると推測される。これを克服するためには、普段から資料を活用した授業展開を行うとともに、資料から正確な事象や数値を読み取り、なぜそのようなになっているのかを考えることが重要である。ここでは日本の工業地帯・地域のグラフを読み取り、比較させ、地理的事象を考える手立てを提案する。

学習課題「日本の工業の特色を読み取ろう」
 ねらい：日本の工業地帯・地域の特色を比較し、考え、理解する。

◇学習活動例 日本の工業地帯・地域の特色を考えよう。

〔活動内容〕日本の工業地帯・地域のグラフを提示し、各数値を正確に読み取り、比較することにより、その特色に気づかせる。

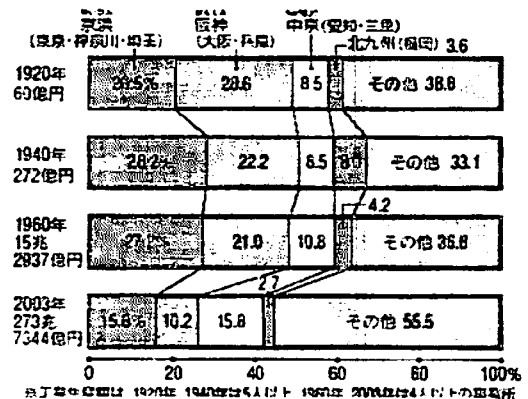
指導のポイント(1) グラフから数値を正確に読み取る(習得)

グラフをもとに、単位に気をつけながら、数値を読み取らせ、なぜそのような数値になっているのかを考え、各工業地帯・地域の変容や規模に気づかせる。この時、1940年と1960年を比較すると生産額が桁違いに増加していること、それらの時期と高度経済成長の時期が重なっていること。さらに1960年と2003年を比較すると交通網の発達や産業技術の発展に伴い、その他の部分に当たる内陸部にも工業地域が形成されるようになり、四大工業地帯の生産額の割合が減少していることにも気づかせたい。

指導のポイント(2) グラフの比較から特色について考える(活用)

教科書P190「各工業地帯・地域の生産額」と比較することによって、なぜそのような結果になっているのかを考えさせ、各工業地帯・地域の工業にはそれぞれ特色があることや、生産額の変化が

産業構造の変化と深く結びついていること、
 地域的特色に結びついていること
 に気づかせ、理解させる。



おもな工業地帯・地域の
 生産額の割合とその変化

Ⅲ 算数／数学

1 小学校第4学年（内容第3学年）

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率％）													偏差値			平成18年度平均	50.6
																平成19年度平均	51.0
																平成20年度平均	51.6
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校							
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20					
1 数と計算	72.4	73.2	74.5	73.2	73.2	73.2	-0.8	0.0	1.3								
2 量と測定	66.5	66.4	67.9	64.7	64.7	64.7	1.8	1.7	3.2								
3 図形	77.1	78.4	78.7	74.6	74.6	74.6	2.5	3.8	4.1								
4 数量関係	79.5	79.9	80.3	77.5	77.5	77.5	2.0	2.4	2.8								

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率％）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 数の表し方と、その扱い	77.5	79.0	80.5	79.0	79.0	79.0	-1.5	0.0	1.5			
1-2 たし算とひき算	85.9	85.6	86.8	86.8	86.8	86.8	-0.9	-1.2	0.0			
1-3 かけ算	57.0	58.2	60.3	58.4	58.4	58.4	-1.4	-0.2	1.9			
1-4 わり算	80.1	80.4	80.4	77.5	77.5	77.5	2.6	2.9	2.9			
1-5 そろばん	65.8	65.5	67.7	76.0	76.0	76.0	-10.2	-10.5	-8.3	▼	▼	▼
2-6 長さ、かさ、重さ	64.8	64.3	66.1	62.3	62.3	62.3	2.5	2.0	3.8			↑
2-7 適切なはかり方や単位	71.5	72.9	74.1	71.0	71.0	71.0	0.5	1.9	3.1			↑
2-8 時刻や時間	68.9	69.1	69.9	68.0	68.0	68.0	0.9	1.1	1.9			
3-9 箱の形、長方形、直角三角形など	77.0	78.3	78.7	74.6	74.6	74.6	2.4	3.7	4.1		↑	↑
4-10 表やばうグラフ	79.4	79.8	80.2	77.5	77.5	77.5	1.9	2.3	2.7			

(3) 平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	十進位取り記数法 (1-2)	77	80	-3	79	80	-1	79	80	-1
	2	減法・3位数-3位数 (4-1)	81	83	-2	80	83	-3	82	83	-1
	3	乗法・2位数×1位数 (5-1)	67	74	-7	69	74	-5	70	74	-4
	3	乗法・2位数×2位数 (5-3)	54	60	-6	54	60	-6	58	60	-2
	4	除法・2位数÷1位数 (6-2)	94	95	-1	94	95	-1	93	95	-2
	3	乗法についての性質 (7-1)	87	91	4	88	91	-3	88	91	-3
	5	そろばん・数の表示 (13)	66	76	-10	66	76	-10	68	76	-8
2	6	秤のよみ・100gめもり (14-3)	44	47	-3	44	47	-3	44	47	-3
	6	秤のよみ・20gめもり (14-4)	22	24	-2	20	24	-4	22	24	-2
4	10	2次元の表の見方 (28-3)	50	52	-2	51	52	-1	51	52	-1

2 小学校第5学年（内容第4学年）

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値			
										平成18年度平均			51.2
										平成19年度平均			50.9
										平成20年度平均			52.3
内 容	川 越			全 国			全国との差			目 校			
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	
1 数と計算	75.6	75.2	77.2	68.8	68.8	68.8	6.8	6.4	8.4				
2 量と測定	66.8	66.4	69.8	69.3	69.3	69.3	-2.5	-2.9	0.5				
3 図形	79.7	75.7	80.5	80.0	80.0	80.0	-0.3	-1.3	0.5				
4 数量関係	75.3	75.1	77.3	70.6	70.6	70.6	4.7	4.5	6.7				

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 億・兆、整数を表すしくみ	73.3	73.6	75.3	70.3	70.3	70.3	3.0	3.3	5.0	↑	↑	△
1-2 がい数、四捨五入	26.3	26.1	28.4	21.0	21.0	21.0	5.3	5.1	7.1	△	△	△
1-3 わり算	72.8	71.8	75.7	67.0	67.0	67.0	5.8	4.8	8.7	△	↑	△
1-4 小数の意味、表し方、計算	88.1	88.4	89.2	79.6	79.6	79.6	8.5	8.8	9.6	△	△	△
1-5 分数	75.6	73.9	76.5	68.3	68.3	68.3	7.3	5.6	8.2	△	△	△
2-6 面積	60.5	60.6	64.2	64.4	64.4	64.4	-3.9	-3.8	-0.2	↓	↓	
2-7 角	76.2	75.2	78.1	76.2	76.2	76.2	0.0	-1.0	1.9			
3-8 二等辺三角形、正三角形、円など	79.6	78.6	80.3	80.0	80.0	80.0	-0.4	-1.4	0.3			
4-9 2つの量の関係、折れ線グラフ	82.1	81.3	83.1	74.6	74.6	74.6	7.5	6.7	8.5	△	△	△
4-10 公式などのいろいろな式	76.4	75.9	78.5	75.0	75.0	75.0	1.4	0.9	3.5			↑
4-11 分級整理、折れ線グラフ	61.5	62.7	65.0	57.3	57.3	57.3	4.2	5.4	7.7	↑	△	△

(3) 平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問
（全国通過率との開きがある小問10問）

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差	川越	全 国	全国との差
2	6	単位換算・ $mf \rightarrow cm^3$ (10-1)	23	32	-9	20	32	-12	23	32	-9
	6	単位換算・ $km \rightarrow m^3$ (10-2)	18	28	-10	17	28	-11	19	28	-9
3	8	円の理解・半径 (18-1)	89	93	-4	86	93	-7	89	93	-4
	8	円の理解・直径 (18-2)	85	88	-3	83	88	-5	85	88	-3
	5	円の理解・中心 (18-3)	93	94	-1	92	94	-2	92	94	-2
	8	球の切り口の形 (19)	60	72	-12	59	72	-13	66	72	6
	6	正三角形の意味 (23-2)	80	90	-10	79	90	-11	83	90	-7
	8	二等辺三角形の理解 (25-ウ)	87	90	-3	85	90	-5	86	90	-4
	8	二等辺三角形の理解 (25-イ)	73	75	-2	73	75	2	71	75	-4
4	11	2次元の表のよみとり (29-3)	62	64	-2	61	64	-3	62	64	-2

3 小学校第6学年（内容第5学年）

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値			平成18年度平均	51.1
													平成19年度平均	51.9
													平成20年度平均	51.8
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校				
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20		
1 数と計算	63.5	65.1	65.0	62.2	62.2	62.2	1.3	2.9	2.8					
2 量と測定	42.4	44.4	43.9	40.7	40.7	40.7	1.7	3.7	3.2					
3 図形	57.2	57.8	58.3	55.6	55.6	55.6	1.6	2.2	2.7					
4 数量関係	50.4	52.0	50.9	47.1	47.1	47.1	3.3	4.9	3.8					

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 整数についての見方	49.6	48.6	50.2	47.7	47.7	47.7	1.9	0.9	2.5			
1-2 整数と小数のしくみ	75.6	76.4	77.3	77.5	77.5	77.5	-1.9	-1.1	-0.2			
1-3 小数のかげ算とわり算	60.4	62.1	61.4	55.7	58.7	58.7	1.7	3.4	2.7		↑	
1-4 分数と、そのたし算・ひき算	70.7	73.9	73.1	68.8	68.8	68.8	1.9	5.1	4.3		△	↑
1-5 がい数	46.0	52.0	49.8	44.0	44.0	44.0	2.0	8.0	5.8		△	△
2-6 面積	42.4	44.4	43.9	40.7	40.7	40.7	1.7	3.7	3.2		↑	↑
3-7 いろいろな図形、平行・垂直	57.1	57.7	58.1	55.6	55.6	55.6	1.5	2.1	2.5			
4-8 計算のきまり	38.9	40.3	39.5	29.0	29.0	29.0	9.9	11.3	10.5	△	△	△
4-9 百分率	49.4	50.5	50.1	48.8	48.8	48.8	0.6	1.7	1.3			
4-10 円グラフ、帯グラフ	61.9	62.8	62.2	58.3	58.3	55.3	3.6	4.5	3.9	↑	↑	↑
4-11 2つの量の関係の見方や調べ方	49.6	51.8	50.0	46.7	46.7	46.7	2.9	5.1	3.3		△	↑

(3) 平成18・19・20年度 ともに 全国通過率を下回る小問

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	2	小数の位取り・百倍 (1-1)	82	87	-5	83	87	-4	84	87	-3
	2	小数の位取り百分の一 (1-2)	86	89	-3	86	89	-3	88	89	-1
	2	十進位取り記数法 (1-4)	88	91	-3	89	91	-2	89	91	-2
	1	奇数の意味 (2-2)	72	76	-4	70	76	-6	71	76	-5
2	6	三角形の面積 (12-1)	49	55	-6	52	55	-3	54	55	-1
3	7	直線の平行 (18-1)	68	82	-14	70	82	-12	73	82	-9
	7	直線の垂直 (18-2)	67	78	-11	68	78	-10	68	78	-10
	7	対角線が垂直な四角形 (19-3)	32	35	-3	33	35	-2	31	35	-4
4	9	割合の百分率への換算 (25)	80	84	-4	80	84	-4	81	84	-3

4 中学校第1学年（内容第6学年）

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）													偏差値	平成18年度平均	51.7
														平成19年度平均	51.3
														平成20年度平均	51.1
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校					
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20			
1 数と式	58.9	58.4	60.5	55.9	55.9	57.5	3.0	2.5	2.7						
2 図形	56.3	55.0	56.3	51.2	51.2	53.5	5.1	3.8	2.8						
3 数量関係	58.2	57.7	59.5	56.7	56.7	58.3	1.5	1.0	1.2						

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 がい数、四捨五入	41.7	40.7	44.1	41.5	41.5	43.8	0.2	-0.8	0.3			
1-2 整数と小数のしくみ	71.8	72.2	72.6	70.0	70.0	70.5	1.8	2.2	2.1			
1-3 小数のかけ算とわり算	63.2	63.5	65.9	57.0	57.0	60.0	6.2	6.5	5.9	△	△	△
1-4 整数の性質	64.8	61.7	65.5	65.5	65.5	68.0	-0.7	-3.8	-2.5		↓	
1-5 分数の計算	58.1	57.5	59.3	54.3	54.3	55.9	3.8	3.2	3.4	↑	↑	↑
2-6 平面図形	38.0	38.0	39.4	33.5	33.5	36.0	4.5	4.5	3.4	↑	↑	↑
2-7 立体図形	72.6	70.0	71.3	67.3	67.3	69.4	5.3	2.7	1.9	△		
3-8 百分率、円グラフ、帯グラフ	52.9	52.6	54.2	50.0	50.0	52.8	2.9	2.6	1.4			
3-9 2つの量の関係の見方や調べ方	52.2	51.5	54.0	52.3	52.3	52.7	-0.1	-0.8	1.3			
3-10 比、比例	72.3	71.0	72.7	70.0	70.0	71.9	2.3	1.0	0.8			
3-11 平均、単位量あたり、速さ	43.4	44.4	46.1	42.8	42.8	43.8	0.6	1.6	2.3			

(3) 平成18・19・20年度 ともに 全国通過率を下回る小問

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	概数での積の見積もり (5-1)	57	59	-2	58	63	-5	60	63	-3
	5	分数の乗法・立式 (10-1)	20	28	-8	24	28	-4	25	28	-3
2	6	三角定規と角の大きさ (11-2)	53	55	-2	54	55	-1	54	55	-1
3	9	2量の関係式 (22-2)	51	56	-5	52	56	-4	52	56	-4
	10	比例関係の適用 (23-1)	41	43	-2	38	43	-5	41	43	-2
	8	割合に当たる量の計算 (25-4)	48	51	-3	50	51	-1	50	51	-1

5 中学校第2学年 (内容第1学年)

(1) 大領域の比較

大領域別集計 (正答率%)										偏差値		
										平成18年度平均	50.0	
										平成19年度平均	50.7	
										平成20年度平均	50.0	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1 数と式	62.9	64.7	63.1	60.6	60.6	60.6	2.3	4.1	2.5			
2 図形	45.6	46.8	46.1	47.1	47.1	47.1	-1.5	-0.3	-1.0			
3 数量関係	53.1	53.9	51.8	55.6	55.6	55.6	-2.5	-1.7	-3.8			

(2) 中領域の比較

中領域別集計 (正答率%)												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 正の数・負の数	73.0	74.1	72.9	73.1	73.1	73.1	-0.1	1.0	-0.2			
1-2 文字を使った式と、その計算	65.9	68.0	65.9	61.6	61.6	61.6	4.3	6.4	4.3	↑	△	↑
1-3 一次方程式	50.4	52.4	51.3	49.1	49.1	49.1	1.3	3.3	2.2		↑	
2-4 作図、平面図形の理解	49.9	49.4	48.5	51.0	51.0	51.0	-1.1	-1.6	-2.5			
2-5 空間図形と図形の面積・体積など	41.7	44.4	43.9	43.9	43.9	43.9	-2.2	0.5	0.0			
3-6 比例、反比例、座標	53.0	53.7	51.7	55.6	55.6	55.6	-2.6	-1.9	-3.9			↓

(3) 平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問
(全国通過率との開きがある小問10問)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	数直線・負数の意味 (2-2)	75	81	-6	76	81	-5	75	81	-6
	2	文字式の表し方 (4-2)	65	74	-9	66	74	-8	64	74	-10
	2	5 立体と展開図 (17-1)	47	64	-17	52	64	-12	54	64	-10
	5	条件に合う立体を選ぶ (18-2)	42	45	-3	40	45	-5	39	45	-6
	3	6 点の座標 (22-1)	78	85	-7	81	85	-4	78	85	-7
	6	yがxに比例 (23-1-ア)	40	49	-9	46	49	-3	43	49	-6
	6	xの変域 (24-3)	44	52	-8	44	52	-8	43	52	-9
	6	比例定数 (25-1)	38	43	-5	39	43	-4	37	43	-6
	6	比例関係のグラフ (26-カ)	72	73	-1	70	73	-3	67	73	-6
	6	反比例グラフが通る点 (28-2)	37	40	-3	36	40	-4	33	40	-7

6 平成19年度「川越市中学生学力調査」(中学校第3学年)結果概要

①問題について

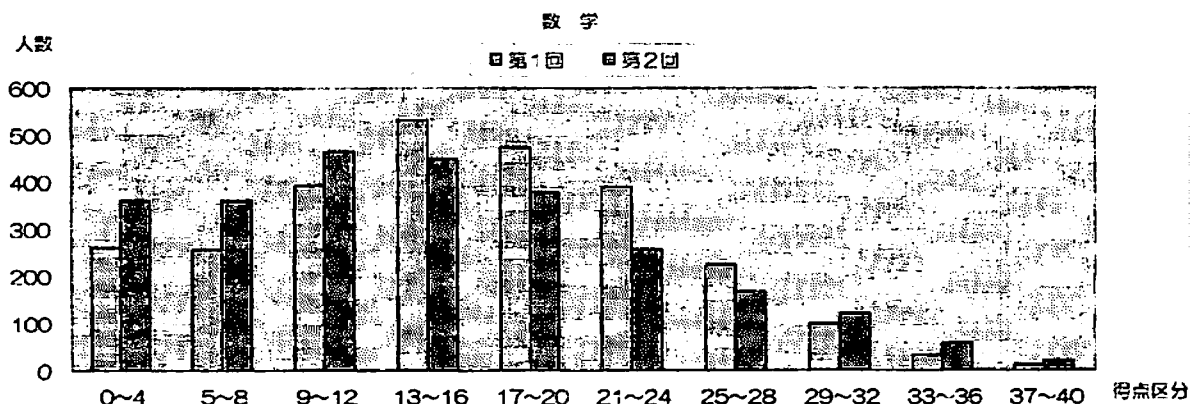
小学校で学習した内容を含め、中学校数学に関する基本的な事柄が身についているかどうかをみるために、第1回ではおもに中学校1・2年で学習した内容、第2回ではそれらに加えて中学校3年前半で学習した内容(「因数分解」「平方根」「二次方程式」「関数 $y=ax^2$ 」)を出題範囲とした。

出題内容は、「数と式」(「正の数・負の数」「式の計算」「方程式・連立方程式」「因数分解」「平方根」「二次方程式」)、「図形」(「平面図形・空間図形」「合同・証明」)、「数量関係」(「比例・反比例」「一次関数」「確率」「関数 $y=ax^2$ 」)であった。

基礎的基本的な定理や公式、解き方を問う問題に加えて、問題文や図から規則性を見つけて解く問題や、筋道だてて論理的に考えていく証明問題など、思考力や表現力を問う問題を出題した。

②結果について

正答率の度数分布はグラフのとおりで、第1回(予想正答率49.5%)に比して第2回(予想正答率49.5%)では下位層が若干増加している。



小問ごとの結果は下表のとおりで、第1回の結果正答率は予想正答率を▼9.2ポイント下回り、第2回は▼12.3ポイント下回る結果であった。

第1回と第2回をあわせて、予想正答率を25ポイント以上下回った問題は5問、無解答率が50%を超えた問題は4問あった。これらの問題については、なんらかの対策が求められる。

第1回

大問	問題番号		解答形式			予想正答率	結果正答率	乖離	無解答率	問題の内容
	中間	小問	選択	記述	論述					
1	(1)			○		80	89.6	△9.6	1.7	正の数・負の数
	(2)			○		70	86.1	△16.1	3.0	式の計算
	(3)			○		70	65.1	▼3.9	8.7	
	(4)			○		70	83.0	△13.0	6.6	
	(5)			○		70	75.2	△5.2	7.5	方程式・連立方程式
	(6)			○		70	48.1	▼21.9	16.0	比例・反比例
	(7)			○		60	56.5	▼3.5	9.6	確率
	(8)			○		30	13.2	▼16.8	37.8	合同・証明
	(9)			○		40	26.0	▼14.0	23.4	平面図形・空間図形
	(10)	ア		○		70	53.9	▼16.1	9.1	方程式・連立方程式
イ			○		40	11.1	▼28.9	28.2		
2	(1)			○		40	11.6	▼28.4	25.1	式の計算
	(2)			○		30	13.9	▼16.1	56.2	平面図形・空間図形
	(3)			○		40	22.4	▼17.6	42.1	一次関数
	(4)			○		30	1.6	▼28.4	39.6	平面図形・空間図形
3	(1)			○		70	71.2	△1.2	14.3	一次関数
	(2)			○		40	46.3	△6.3	20.8	
	(3)			○		30	21.1	▼8.9	35.7	
4	(1)				○	30	6.8	▼23.2	50.3	合同・証明
	(2)			○		10	1.5	▼8.5	29.2	
			0	19	1	49.5	40.3	▼9.2	23.2	

第2回

問題番号			解答形式			予想正答率	結果正答率	乖離	無解答率	問題の内容
大問	中間	小問	選択	記述	論述					
1	(1)			○		80	85.6	△5.6	2.2	正の数・負の数
	(2)			○		75	86.3	△11.3	5.7	平方根
	(3)			○		60	64.8	△4.8	9.8	因数分解
	(4)			○		65	58.5	▼6.5	16.4	二次方程式
	(5)			○		70	79.6	△5.3	7.9	方程式・連立方程式
	(6)			○		60	65.3	△9.6	17.3	関数 $y=ax^2$
	(7)			○		50	22.5	▼27.5	15.1	確率
	(8)			○		50	28.0	▼22.0	21.5	合同・証明
	(9)			○		45	32.0	▼13.0	21.6	平面図形・空間図形
	(10)	①		○		40	18.6	▼21.4	30.1	方程式・連立方程式
	②		○		30	10.9	▼19.1	30.0		
2	(1)			○		50	40.6	▼9.4	27.2	平面図形・空間図形
	(2)			○		20	3.6	▼16.4	61.6	
	(3)			○		40	21.6	▼18.4	47.2	
	(4)			○		30	20.6	▼9.4	19.9	
3	(1)			○		70	50.7	▼19.3	18.9	関数 $y=ax^2$
	(2)			○		50	6.7	▼43.3	40.8	平面図形・空間図形
	(3)			○		40	17.1	▼22.9	46.1	関数 $y=ax^2$
4	(1)				○	30	11.0	▼19.0	54.2	合同・証明
	(2)			○		35	19.4	▼15.6	44.3	
			0	19	1	49.5	37.2	▼12.3	26.9	

- 「正の数・負の数」は、予想正答率80.0%、結果正答率87.6%で、△7.6ポイント上回った。
- 「平方根」は、予想正答率75.0%、結果正答率86.3%で、△11.3ポイント上回った。
- 「因数分解」は、予想正答率60.0%、結果正答率64.8%で、△4.8ポイント上回った。
- 「関数 $y=ax^2$ 」は、予想正答率56.7%、結果正答率44.4%で、▼12.3ポイント下回った。
- 「比例・反比例」は、予想正答率70.0%、結果正答率48.1%で、▼21.9ポイント下回った。
- 「式の計算」は、予想正答率60.0%、結果正答率54.6%で、▼5.4ポイント下回った。特に、第1回の大問2(1)「くさりの長さを文字で表す問題」は▼28.4ポイント下回った。
 - ・正しい関係式を導き出せない原因としては、まず問題文(ルール)を理解できていないことが考えられる。問題文(ルール)が的確に読み取れないことについては、簡単に解決できるものではないが、教科書で扱っている発展問題や自由研究を必要に応じて普段の授業に取り入れ、発想力(規則性の発見等)や論理力(規則性の理解等)を鍛える問題にも慣れさせたい。
- 「方程式・連立方程式」は、予想正答率55.0%、結果正答率46.6%で、▼8.4ポイント下回った。特に、第1回の大問1(10)イ「問題文から方程式をつくり解く問題」は▼28.9ポイント下回った。
 - ・方程式の文章題を解答するためには、何が求められているかをしっかり確認し、数量の等しい関係を式(等式)に表し、符合に注意して計算するというシンプルなイメージを持たせたい。
- 「確率」は、予想正答率55.0%、結果正答率39.5%で、▼15.5ポイント下回った。特に、第2回の大問1(7)「条件に合う場合の確率を求める問題」は▼27.5ポイント下回った。
- 「合同・証明」は、予想正答率30.8%、結果正答率13.3%で、▼17.5ポイント下回った。特に、第1回の大問4(1)「合同条件から角の二等分線を証明する問題」は無解答率が50.3%、第2回の大問4(1)「平行線の錯角から二等辺三角形を証明する問題」は無解答率が54.2%であった。
- 「平面図形・空間図形」は、予想正答率35.0%、結果正答率14.9%で、▼20.1ポイント下回った。特に、第1回の大問2(4)「角の二等分線を作図させる問題」は▼28.4ポイント、第2回の大問3(2)「回転によってできる立体の体積を求める問題」は▼43.3ポイント下回った。また、第1回の大問2(2)「複合図形の求積」は無解答率が56.2%、第2回の大問2(2)「複合図形の求積」は無解答率が61.6%に及んだ。共に、おうぎ形の面積公式を用いた複合図形の求積であった。
 - ・作図ができない原因は、大きく分けて二つ考えられる。1つは基本の作図方法に習熟していないこと、もう1つは問題文の意味が把握できないことである。それぞれの原因に応じた指導が必要である。
- 「一次関数」は、予想正答率44.0%、結果正答率36.5%で、▼7.5ポイント下回った。
 - ・一次関数の指導というと、どうしてもグラフをかく、グラフの式を読み取る、一次関数の式を求めるということが中心となり、一次関数のグラフの利用まで、十分に時間をかけて指導できないことが多い。しかし、一次関数の最終的な目標は、具体的な事象の考察に一次関数を活用することができることであるから、身につけた知識を活用した問題解決能力を養うことが大切である。

7 指導の手立て

川越市中学校学力調査及び標準学力調査の検査結果から、文章問題解決の糸口として、問題場面を的確に図や表、数直線に表す力を育てていくことが算数・数学の学習指導で求められる。このような取組を小中学校で一貫して進めることが大切である。以下にその例を示す。

小学校算数

演算決定の力を身に付けさせるためにはどうしたらいいか

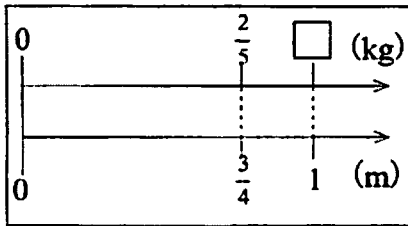
小学校第6学年上P.71～83「分数のかけ算とわり算(2)」

小学校では、第3学年までに整数の四則演算を学習し、その後、小数、分数と扱う数の範囲を拡張していく。児童にとって、小数や分数の問題場面は、正しく把握することが難しくなる傾向がある。そこで、問題場面を正しくとらえられるようにするために、図や数直線を活用できるようにする。さらに、計算の仕方を導く経過や答えの確かめ、自分の考えの説明等、様々な場面で図や数直線で表す活動を意図的、継続的に指導し、児童の思考力や判断力、表現力を高めることで、演算決定の力も高められることになる。

例題

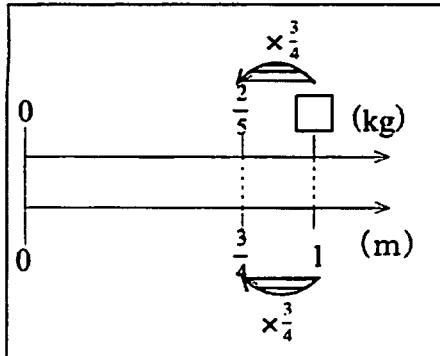
$\frac{3}{4}$ mの重さが $\frac{2}{5}$ kgの鉄のぼうがあります。この鉄のぼう1mの重さは何kgですか。

ア 数直線をかいて問題の構造を把握する



※ まず、問題文の意味をじっくりと理解させることが重要である。何を聞かれているのかを明確にするとともに、問題文の中に出てくる数値の意味を数直線にかくことで、捉え直すように働きかける。また、答えの大きさの見当をつけることも有効である。資料1 P. 65

イ 比例関係に着目して、□を用いてかけ算の式に表す。



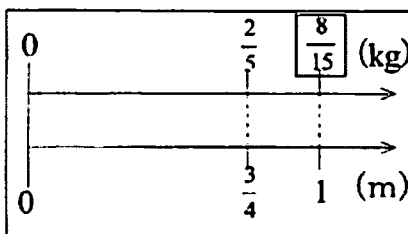
$$\square \times \frac{3}{4} = \frac{2}{5}$$

※ 5年生の小数÷小数を想起させ、自力解決の手立てをもたせる。

$$\begin{aligned} \square &= \frac{2}{5} \div \frac{3}{4} \\ &= \frac{8}{15} \end{aligned}$$

資料2 P. 65

ウ 数直線にあてはめて答えを確かめる



答えは $\frac{2}{5}$ よりも大きくなった!



正しく立式し、問題解決できた児童についても、図や数直線に表したり、式から問題をつくったりする活動に取り組みさせる。このような算数的活動を通して、思考力や判断力、表現力を高め、中学校の学習に繋ぐようにする。

方程式の利用の学習では、方程式をつくる指導をどのように工夫したらよいか

中学校第1学年 P. 81～85 「方程式の利用」

方程式を利用して文章問題を解く場合、方程式をどのようにつくるかがわからず、苦手になっている生徒が多い。そこで、方程式の利用の学習において、数量の関係を方程式に表す方法を生徒が確実に理解し、身に付けられるようにすることが重要である。小学校では、方程式の素地的な学習として、数量の関係を□や○を用いて式に表したり、それにあてはまる数を調べたりしている。その際、図や表を利用し、数量の関係を確かめている。そこで中学校においても、図や表を利用して方程式のつくり方を丁寧に指導する必要がある。

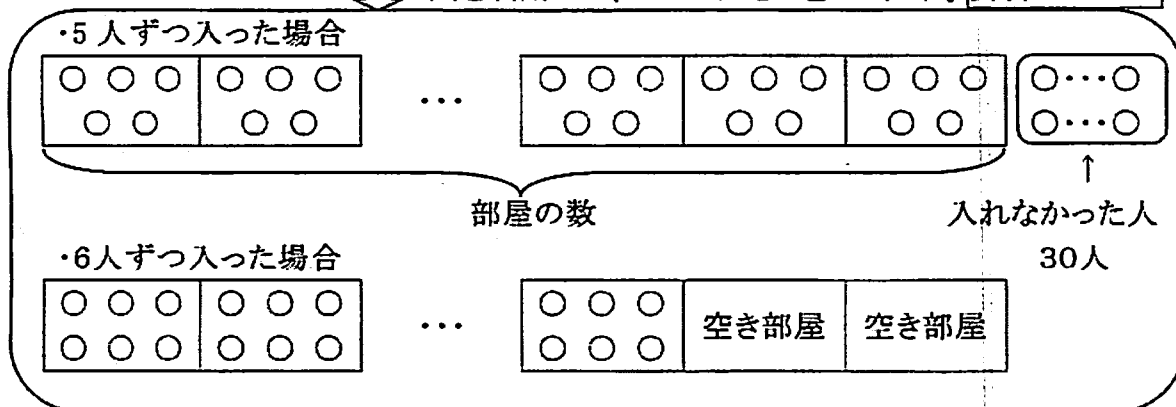
例題

修学旅行の部屋割で、1部屋5人ずつにすると30人が入れず、1部屋6人ずつにすると空き部屋が2つできるが、それ以外の部屋はすべて6人ずつ入れるという。部屋の数を求めなさい。

ア 問題文の意味を把握する

問題文をよく読み、問題の中の数量に着目して、数量の関係をつかむ。

図を利用して、1つの量を2通りで表す。資料1 P. 66



イ 等式が成り立つ数量をみつける

1部屋に5人ずつ入る場合と6人ずつ入る場合のどちらも修学旅行に行った人数は同じ

$$5 \text{人ずつ入った場合の人数} = 6 \text{人ずつ入った場合の人数}$$

ウ 文字を使って方程式をつくる

部屋の数を x とすると 資料2 P. 66

$$5 \text{人ずつ入った場合の人数} = 5x + 30$$

$$6 \text{人ずつ入った場合の人数} = 6(x - 2)$$

$$5x + 30 = 6(x - 2)$$

図や表を利用することで、数量の関係がとらえやすくなり、式をつくりやすくなることを実感させたい。
また、図や表を使わずに式をつくることのできる生徒には、どのように式をつくったのかを図や表に表して説明させることで、理解を深めることができ、思考力、判断力、表現力を育成することもできる。

IV 理科

1 小学校第4学年（内容第3学年）

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値		
										平成18年度平均	49.3	
										平成19年度平均	49.3	
										平成20年度平均	50.0	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1 生物とその環境	76.0	76.1	76.7	77.0	77.0	77.0	-1.0	-0.9	-0.3			
2 物質とエネルギー	70.3	70.4	71.4	71.7	71.7	71.7	-1.4	-1.3	-0.3			
3 地球と宇宙	73.4	73.3	74.3	73.1	73.1	73.1	0.3	0.2	1.2			

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 こん虫の育ち方やからだのつくり	74.6	74.8	75.7	75.5	75.5	75.5	-0.9	-0.7	0.2			
1-2 植物の育ち方やからだのつくり	78.2	78.6	78.3	79.6	79.6	79.6	-1.4	-1.0	-1.3			
1-3 こん虫の食べ物やすみか	78.9	78.1	78.1	78.0	78.0	78.0	0.9	0.1	0.1			
2-4 光の進み方や明るさ・あたたかさ	66.5	67.8	68.8	70.3	70.3	70.3	-3.8	-2.5	-1.5	↓		
2-5 かん電池とまめでんきゅう	82.3	82.2	82.5	81.7	81.7	81.7	0.6	0.5	0.8			
2-6 じしゃくの性質	65.8	65.2	66.6	67.1	67.1	67.1	-1.3	-1.9	-0.5			
3-7 日なたと日かげの太陽の位置	65.5	64.6	65.8	65.9	65.9	65.9	-0.4	-1.3	-0.1			
3-8 日なたと日かげの地面のようす	82.4	83.4	84.1	81.5	81.5	81.5	0.9	1.9	2.6			

(3) 平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	昆虫を選び出す・アリ (3-エ)	67	73	-6	65	73	-8	67	73	-6
	1	完全変態・カブトムシ (4-2-エ)	66	70	-4	62	70	-8	60	70	-10
	3	すみか・カブトムシ (6-2)	55	56	-1	52	56	-4	53	56	-3
	2	種の観察・アサガオ (7-3)	77	84	-7	77	84	-7	76	84	-8
2	4	鏡で光をわたすには (10)	73	76	-3	73	76	-3	73	76	-3
	4	光を重ねて明るくする (12)	58	65	-7	58	65	-7	60	65	-5
	4	光と混まりやすい条件 (13)	39	49	-10	44	49	-5	47	49	-2
	6	磁石につく条件 (19)	50	62	-12	51	62	-11	49	62	13
	6	磁石の実験・繋がる釘 (21-イ)	88	92	-4	86	92	-6	87	92	-5
3	7	校舎の影の様子・2時 (23-1-3)	70	75	-5	70	75	-5	72	75	-3

2 小学校第5学年（内容第4学年）

(1)大領域の比較

内 容	大領域別集計（正答率%）												
	偏差値									平成18年度平均			47.2
										平成19年度平均			47.0
									平成20年度平均			47.7	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	
1 生物とその環境	68.1	67.4	68.2	72.6	72.6	72.6	-4.5	-5.2	-4.4				
2 物質とエネルギー	61.6	61.5	62.2	65.4	65.4	65.4	-3.8	-3.9	-3.2				
3 地球と宇宙	55.6	55.5	57.0	57.9	57.9	57.9	-2.3	-2.4	-0.9				

(2)中領域の比較

内 容	中領域別集計（正答率%）											
	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 動物の活動と季節	65.6	65.7	66.6	70.9	70.9	70.9	-4.3	-5.2	-4.3	↓	▼	↓
1-2 植物の成長と季節	71.4	71.3	71.9	76.3	76.3	76.3	-4.9	-5.0	-4.4	↓	▼	↓
2-3 空気や水のかさとおし返す力	70.6	70.9	71.7	72.7	72.7	72.7	-2.1	-1.8	-1.0			
2-4 ものの湿まり方やかさの変化	62.4	63.0	62.8	65.7	65.7	65.7	-3.3	-2.7	-2.9	↓		
2-5 乾電池や光電池のはたらき	55.3	54.2	55.9	60.7	60.7	60.7	-5.4	-6.5	-4.8	▼	▼	↓
3-6 月の動き方	34.0	34.9	36.5	36.5	36.5	36.5	-2.5	-1.6	0.0			
3-7 星の明るさや動き方	69.6	69.8	71.7	70.0	70.0	70.0	-0.4	-0.2	1.7			
3-8 水のすがたとゆくえ	62.0	61.4	62.7	64.1	64.1	64.1	-2.1	-2.7	-1.4			

(3)平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	秋のカマキリの様子 (2-3)	60	71	-11	61	71	-10	61	71	-10
	2	寒ができた後のヘチマ (3-1)	50	63	-13	50	63	-13	51	63	-12
	1	テントウムシの冬の姿 (5-2)	54	70	-16	50	70	-20	51	70	-19
	1	コオロギの冬の姿 (5-3)	33	44	-11	32	44	-12	32	44	-12
2	3	庄したときの水と空気 (6-4)	64	85	-21	64	85	-21	68	85	-17
	4	温度と空気の体積変化 (7-3)	50	64	-14	55	64	-9	51	64	-13
	4	鉄の熱の伝え方 (8)	43	56	-13	42	56	-14	45	56	-11
	5	直列つなぎの特徴 (12-3)	45	61	-16	42	61	-19	45	61	-16
	5	乾電池の直列つなぎ (12-4)	41	61	-20	40	61	-21	45	61	-16
3	6	満月の見えた位置 (24-1-1)	12	21	-9	15	21	-6	16	21	-5

3 小学校第6学年（内容第5学年）

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値		
										平成18年度平均	48.7	
										平成19年度平均	49.2	
										平成20年度平均	49.1	
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1 生物とその環境	72.1	72.8	72.5	75.5	75.5	75.5	-3.4	-2.7	-3.0			
2 物質とエネルギー	59.5	60.3	60.3	60.5	60.5	60.5	-1.0	-0.2	-0.2			
3 地球と宇宙	67.5	68.4	68.6	69.2	69.2	69.2	-1.7	-0.8	-0.6			

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 植物の発芽・成長・結実	72.2	72.7	72.6	75.5	75.5	75.5	-3.3	-2.8	-2.9	↓		
1-2 動物のたんじょうと成長のようす	72.0	73.5	71.7	75.0	75.0	75.0	-3.0	-1.5	-3.3	↓		↓
2-3 もののとけ方	51.4	52.0	51.8	53.2	53.2	53.2	-1.8	-1.2	-1.4			
2-4 てこのしくみやはたらき	63.7	65.2	65.4	64.8	64.8	64.8	-1.1	0.4	0.6			
2-5 ふりこの動きやおもりのはたらき	75.4	75.2	75.2	73.3	73.3	73.3	2.1	1.9	1.9			
3-6 天気の変化	72.7	73.1	73.3	74.5	74.5	74.5	-1.8	-1.4	-1.2			
3-7 流れる水のはたらきと土地の変化	57.1	58.9	59.2	59.5	59.5	59.5	-2.4	-0.6	-0.3			

(3) 平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問

（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度			
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	
1	1	花のつくり・おしべ (3-1-1)	56	69	-13	55	69	-14	55	69	-14	
		花のつくり・柱頭 (3-1-2)	53	66	-13	53	66	-13	52	66	-14	
		花のつくり・子房 (3-1-3)	52	73	-21	55	73	-18	53	73	-20	
		アサガオのおしべ (3-2)	54	60	-6	53	60	-7	54	60	-6	
	1	顕微鏡・観察の仕方 (5-2)	25	26	-1	25	26	-1	24	26	-2	
		選択 メダカ・人体 (7-2)	59	64	-5	62	64	-2	58	64	-6	
	2	3	食塩を多く溶かす方法 (10-3)	34	51	-17	40	51	-11	38	51	-13
			グラフ読み・溶ける量 (11-1)	37	43	-6	39	43	-4	37	43	-6
			ろ過した液の性質 (14-2)	17	19	-2	17	19	-2	16	19	-3
	3	6	百葉箱・光の反射 (20-3-7)	70	78	-8	72	78	-6	71	78	-7

4 中学校第1学年（内容第6学年）

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）		偏差値			平成18年度平均			平成19年度平均			平成20年度平均		
					50.7			50.0			50.0		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校			
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	
1 物 理	63.0	61.3	62.6	60.6	60.6	61.2	2.4	0.7	1.4				
2 化 学	59.0	57.9	59.0	62.0	62.0	62.7	-3.0	-4.1	-3.7				
3 生 物	71.0	69.5	69.7	69.4	69.4	70.6	1.6	0.1	-0.9				
4 地 学	52.1	52.2	53.7	49.3	49.3	50.7	3.1	2.9	3.0				

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）		川 越			全 国			全国との差			傾 向		
		H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1	電流のはたらき	62.9	61.5	62.5	61.3	61.3	61.5	1.6	0.2	1.0			
1-2	てこのはたらき	75.0	74.6	76.6	72.5	72.5	74.0	5.5	2.1	2.6	△		
1-3	物のあたまり方や体積	43.7	43.2	44.1	43.7	43.7	43.7	0.0	-0.5	0.4			
2-4	物の溶け方	63.3	62.7	61.4	59.4	59.4	59.4	3.9	3.3	5.0	↑	↑	△
2-5	水溶液の性質	45.5	45.1	46.2	52.8	52.8	53.6	-7.3	-7.7	-7.4	▼	▼	▼
2-6	物の燃え方	68.1	65.8	66.4	72.8	72.8	74.4	-4.7	-7.0	-8.0	↓	▼	▼
3-7	人のからだのつくりとはたらき	54.2	52.9	51.7	56.4	56.4	56.8	-2.2	-3.5	-5.1		↓	▼
3-8	植物の成長としくみ	82.9	81.0	82.4	79.3	79.3	80.4	3.6	1.7	2.0	↑		
3-9	動物の成長とくらし	66.6	66.0	65.3	66.0	66.0	68.7	0.6	0.0	-3.4			↓
4-10	星や月の動き	48.6	48.5	52.6	42.0	42.0	43.5	6.6	6.5	9.1	△	△	△
4-11	土地のようすやでき方	49.9	50.0	50.3	47.3	47.3	48.4	2.6	2.7	1.9			
4-12	天気の変化や大気中の水蒸気	60.5	59.8	60.8	60.3	60.3	61.8	0.2	-0.5	-1.0			

(3) 平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問
（全国通過率との開きがある小問10問）

(%)

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	電磁石の極 (1-1)	55	59	-4	53	59	6	51	59	-8
	1	強い電磁石・電流 (1-2-7)	89	91	-2	87	91	4	87	91	4
	3	熱の伝わり方・伝導 (6)	59	62	-3	58	62	4	58	62	4
2	6	酸素を作る薬品 (10-1)	34	53	-19	35	53	-18	33	55	-22
	5	金属を溶かす水溶液 (13-1)	42	53	-11	42	53	-11	43	55	-12
	5	水溶液・気体の発生 (13-2)	10	37	-27	11	29	-18	12	29	-17
	6	ろうそくの燃え方 (15-1)	63	72	-9	59	72	13	59	72	-13
3	7	大腸のはたらき (16-3)	42	43	-1	40	48	8	39	48	-9
	8	でんぷんを調べる薬品 (18-1)	94	97	-3	92	97	5	93	97	4
	8	光合成ができる条件 (18-2)	69	73	-4	71	73	-2	70	73	-3

5 中学校第2学年（内容第1学年）

(1) 大領域の比較

大領域別集計（正答率%）										偏差値			平成18年度平均			平成19年度平均			平成20年度平均		
内 容	川 越			全 国			全国との差			自 校											
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20									
1 身近な物理現象	49.9	52.5	50.4	52.9	52.9	52.9	-3.0	-0.4	-2.5												
2 身の回りの物質	62.5	63.3	63.2	65.0	65.0	65.0	-2.5	-1.7	-1.8												
3 植物の生活と種類	55.0	56.5	54.8	62.5	62.5	62.5	-7.5	-6.0	-7.7												
4 大地の変化	53.5	55.0	54.8	55.7	55.7	55.7	-2.2	-0.7	-0.9												

(2) 中領域の比較

中領域別集計（正答率%）												
内 容	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 光の性質	49.7	52.7	50.5	55.0	55.0	55.0	-5.3	-2.3	-4.5	▼		↓
1-2 音の性質	46.0	48.4	46.5	48.7	48.7	48.7	-2.7	-0.3	-2.2			
1-3 力と圧力	52.4	54.6	52.7	54.2	54.2	54.2	-1.8	0.4	-1.5			
2-4 物質のすがた	62.0	63.1	63.6	65.2	65.2	65.2	-3.2	-2.1	-1.6	↓		
2-5 水溶液の性質	63.2	63.6	62.6	65.0	65.0	65.0	-1.8	-1.4	-2.4			
3-6 身近な生物の観察	60.3	60.7	60.2	72.0	72.0	72.0	-11.7	-11.3	-11.8	▼	▼	▼
3-7 植物のからだのつくりと働き	51.4	52.9	51.1	57.2	57.2	57.2	-5.8	-4.3	-6.1	▼	↓	▼
3-8 植物のなかま	55.9	59.0	56.2	62.3	62.3	62.3	-6.4	-3.3	-6.1	▼	↓	▼
4-9 地層と化石	46.9	48.2	48.3	48.6	48.6	48.6	-1.7	-0.4	-0.3			
4-10 火山と地震	60.2	61.9	61.3	63.7	63.7	63.7	-3.5	-1.8	-2.4	↓		

(3) 平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問
（全国通過率との開きがある小問10問）

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	1	凸レンズの像・虚像 (2-3)	33	42	-9	33	42	-9	34	42	-8
	3	圧力の計算 (5-1)	8	17	-9	8	17	-9	8	17	-9
2	5	気体の溶けた水溶液 (7-3-4)	46	58	-12	45	58	-13	46	58	-12
3	6	顕微鏡の倍率と見え方 (15-3)	38	52	-14	40	52	-12	41	52	-11
	6	微生物・ゾウリムシ (16-1)	59	84	-25	57	84	-27	53	84	-31
	6	運動性のある微生物 (16-2)	62	76	-14	62	76	-14	62	76	-14
	7	種子植物・めしべ (17-1)	38	40	-2	38	40	-2	32	40	-8
	7	植物の道管 (19-1)	46	55	-9	46	55	9	45	55	-10
	7	葉脈につながる部位 (19-2)	52	59	-7	52	59	-7	49	59	-10
	7	双子葉類の茎の特徴 (19-3)	45	54	-9	38	54	-16	36	54	-18

平成19年度「川越市中学生学力調査」(中学校第3学年)結果概要

①問題について

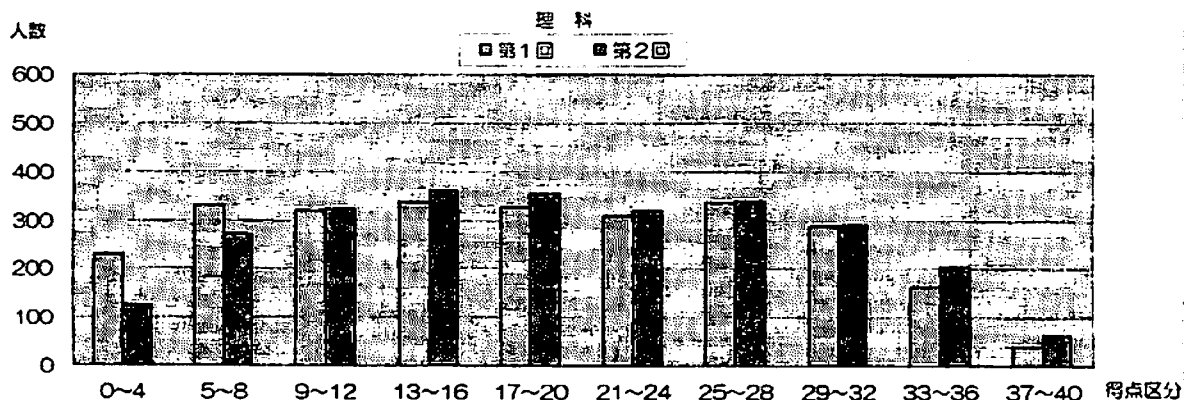
小学校で学習した内容を含め、中学校理科に関する基本的な事柄が身についているかどうかをみるために、第1回ではおもに中学1・2年で学習した内容、第2回ではそれらに加えて中学3年前半で学習した内容(「運動と力」「生物の細胞とふえ方」)を出題範囲とした。

出題内容は、「第1分野」(「身のまわりの物質」、「化学変化と原子・分子」、「身のまわりの現象」、「電流」、「運動と力」)、「第2分野」(「大地の変化」、「天気とその変化」、「植物の世界」、「動物の世界」、「生物の細胞とふえ方」)であった。

基礎的基本的な用語や公式などを問う問題に加えて、長い問題文を読んで、論理的に思考し分析・処理する能力を試す問題や、習得してきた知識を自分の言葉で説明する問題などを出題した。

②結果について

各回の予想正答率が異なるので単純比較はできないが、正答率の度数分布はグラフのとおりで、第1回(予想正答率56.7%)と第2回(予想正答率51.7%)で上位層がやや増加している。



小問ごとの結果は下表のとおりで、第1回の結果正答率は予想正答率を▼7.2ポイント下回り、第2回は▼2.8ポイント下回る結果であった。

第1回と第2回をあわせて、予想正答率を25ポイント以上下回った問題は6問あった。これらの問題については、なんらかの対策が求められる。

第1回

問題番号			解答形式			予想正答率	結果正答率	差	無解答率	問題の内容
大問	中間	小問	選択	記述	論述					
1	(1)		㉑			60	29.3	▼30.7	1.4	大地の変化
	(2)			○		70	39.8	▼30.2	25.2	
	(3)				○	40	44.0	△4.0	15.4	
	(4)		㉑			40	42.8	△2.8	1.8	
2	(1)			○		50	65.6	△15.6	15.5	天気とその変化
	(2)			○		40	16.9	▼23.1	13.1	
	(3)		㉑			50	49.1	▼0.9	2.5	
3	(1)			○		60	46.7	▼13.3	21.9	植物の世界
	(2)			○		70	46.6	▼23.4	18.8	
	(3)		㉑			70	62.6	▼7.4	2.6	
4	(1)		㉑			60	51.9	▼5.1	2.0	動物の世界
	(2)				○	50	33.8	▼16.2	17.7	
	(3)			○		60	64.8	△4.8	18.4	
	(4)		㉑			40	62.5	△22.5	2.4	
5	(1)			○		50	59.9	△9.9	12.1	身のまわりの物質
	(2)			○		60	59.6	▼0.4	11.7	
	(3)		㉑			60	86.2	△26.2	2.4	
	(4)			○		50	61.2	△11.2	20.4	
6	(1)			○		60	56.8	▼3.2	23.5	化学変化と原子・分子
	(2)		㉑			60	64.1	△4.1	2.7	
	(3)		㉑			60	64.2	△4.2	3.1	
	(4)			○		50	14.1	▼35.9	34.9	
7	(1)		㉑			80	73.8	▼6.2	2.9	身のまわりの現象
	(2)			○		50	30.3	▼19.7	14.4	
	(3)				○	40	14.2	▼25.8	34.4	
	(4)		㉑			60	47.0	▼13.0	3.3	
8	(1)			○		60	31.1	▼28.9	16.7	電流
	(2)			○		70	47.2	▼22.8	22.1	
	(3)		㉑			60	47.2	▼12.8	4.2	
	(4)		㉑			70	67.8	▼2.2	3.7	
			13	14	3	56.7	49.5	▼7.2	12.4	

第2回

問題番号			解答形式			予想正答率	結果正答率	乖離	無解答率	問題の内容
大問	中間	小問	選択	記述	論述					
1	(1)			○		65	71.3	△6.3	3.3	大地の変化
	(2)			○		50	37.3	▼12.7	32.0	
	(3)		㊸			50	67.6	△17.6	2.5	
2	(1)			○		50	66.0	△16.0	3.2	天気とその変化
	(2)		㊸			45	59.0	△14.0	1.5	
	(3)		㊸			55	51.9	▼3.1	1.5	
3	(1)			○		50	54.8	△4.8	1.7	植物の世界
	(2)			○		30	17.2	▼12.8	6.4	
	(3)		㊸			60	63.1	△3.1	1.2	
	(4)		㊸			50	42.1	▼7.9	1.7	
4	(1)		㊸			55	69.0	△14.0	1.6	生物の細胞とふえ方
	(2)		㊸			85	82.4	▼2.6	1.7	
	(3)			○		45	37.2	▼7.8	11.6	
	(4)		㊸			60	59.9	▼0.1	2.2	
5	(1)				○	30	28.9	▼1.1	22.1	身のまわりの物質
	(2)		㊸			50	67.2	△17.2	2.2	
	(3)		㊸			55	47.4	▼7.6	2.6	
	(4)	㊸ ㊹	㊸			55	36.5	▼18.5	2.8	
				○		40	13.1	▼26.9	5.2	
6	(1)		㊸			50	34.4	▼15.6	4.1	化学変化と原子・分子
	(2)				○	65	63.1	▼1.9	18.8	
	(3)			○		40	41.4	△1.4	31.6	
	(4)		㊸			60	46.8	▼13.2	2.7	
7	(1)			○		65	55.4	▼9.6	8.7	電流
	(2)			○		50	43.0	▼7.0	19.8	
	(3)			○		50	30.5	▼19.5	19.7	
8	(1)		㊸			30	49.8	△19.8	2.8	運動と力
	(2)			○		40	31.0	▼9.0	19.2	
	(3)			○		70	73.4	△3.4	13.7	
	(4)		㊸			50	26.9	▼23.1	3.2	
			15	13	2	51.7	48.9	▼2.8	8.4	

- 「大地の変化」は、予想正答率53.6%、結果正答率47.4%で、▼6.2ポイント下回った。特に、第1回の大問1(1)「アンモナイトの化石を含んだ地層からわかること」は▼30.7ポイント、(2)「等粒状組織の指摘」は▼30.2ポイント下回った。
- 「天気とその変化」は、予想正答率48.3%、結果正答率51.4%で、△3.1ポイント上回った。ただし、第1回の大問2(2)「水蒸気量の計算」は▼23.1ポイント下回った。
 - ・誤答の原因としては、飽和水蒸気量から湿度を求める計算式を立てられないこともあるが、基本的には湿度の概念が十分に習得されていないことにある。
- 「植物の世界」には、予想正答率55.7%、結果正答率47.6%で、▼8.1ポイント下回った。特に、第1回の大問3(2)「道管の指摘」は▼23.4ポイント下回った。
- 「動物の世界」は、予想正答率52.5%、結果正答率54.0%で、△1.5ポイント上回った。
- 「身のまわりの物質」は、予想正答率50.0%、結果正答率51.1%で、△1.1ポイント上回った。ただし、第2回の大問5(4)②「エタノールを多く含んでいることを調べる方法の指摘」は▼26.9ポイント下回った。
 - ・「蒸留によってエタノールを多く含む液体が得られる状態と、その識別法」について、十分に理解できているとは言えない。実験で得られたデータをノートに記録させ、知識の定着を図る必要がある。
- 「化学変化と原子・分子」は、予想正答率55.6%、結果正答率48.1%で、▼7.5ポイント下回った。特に、第1回の大問6(4)「水の電気分解をモデル図で表すこと」は▼35.9ポイント下回った。
 - ・水2分子が分解されて水素2分子と酸素1分子になるように表すのであるが、モデルという表現方法を理解できていなかった様子もうかがえる。
- 「身のまわりの現象」は、予想正答率57.5%、結果正答率41.3%で、▼16.2ポイント下回った。特に、第1回の大問7(3)「はたらく力の変化を説明すること」は▼25.8ポイント下回った。
 - ・加える力と圧力の区別についての理解が十分できているとは言えない。面積と力の大きさから圧力を計算で求める方法などについては、教師が一方向的に指導するだけでなく、生徒同士がなぜそのように計算するのかを話し合うような機会も大切である。
- 「電流」は、予想正答率60.7%、結果正答率46.0%で、▼14.7ポイント下回った。特に、第1回の大問8(1)「電流と電圧の関係をグラフに表すこと」は▼28.9ポイント下回った。
 - ・学習した内容を定着させるためには、できる限り、日常生活に関連した内容を扱うことが大切である。電流と電圧の関係（オームの法則等を含め）が活用できる多様な実験や、課題解決型問題の演習を授業に取り入れるとよい。
- 「生物の細胞とふえ方」は、予想正答率61.3%、結果正答率62.1%で、△0.8ポイント上回った。
- 「運動と力」は、予想正答率47.5%、結果正答率45.3%で、▼2.2ポイント下回った。

7 指導の手立て

川越市中学校学力調査及び標準学力検査の結果から、理科においては小学校・中学校ともに「電流」に課題があることが明確になった。このことを踏まえ、小学校・中学校との接続を考慮し、「電流」についての指導の手立てを示した。

小学校理科

電気の通り道と電流の流れる向きを理解を深めるためにどのように指導したらよいか

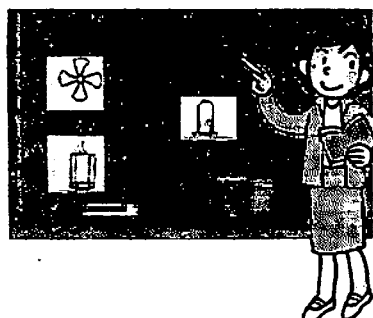
小学校第3学年 P.62 「電気であかりをつけよう」

小学校第4学年（上）P.16 「電気のはたらき」

回路を作るために必要な器具をカード（「小学校理科資料」参照）にし、カードで回路を作る。作った回路のカードと実物を交換し、実際の回路を作る。この手順を踏むことにより気軽に回路を作ることができるので、児童は実感を伴って理解できる。

〔カードを使った指導の場面〕

場面① 黒板の教材提示



電流の流れる
向きがわかる
ものは...

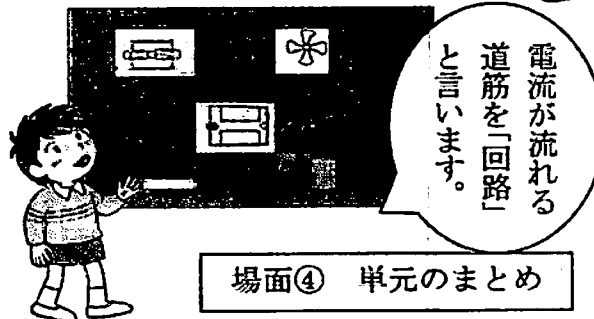
場面③ 理解を助けるヒントカード

実際の回路作りにつまづいたらカードに戻って、練習しよう！



場面② 児童個々の学習

カードを使った回路作りを繰り返し練習して回路作りに自信を持とう！



電流が流れる
道筋を「回路」
と言います。

場面④ 単元のまとめ

〔学年に応じて身に付けさせたい力〕

第3学年 ～実験の結果を表などに整理して考える「比較する力」～

- 電流が流れるためには回路が「わ」になることが分かる。
- カードを使いながら回路を説明することができる。

第4学年 ～伴って変化する2つの事象を「関係付けてとらえる力」～

- 電流の流れる向きを回路につないだ検流計やモーター、発光ダイオードを使って知ることができる。
- 電池のつなぎ方を変えることで電気の働きが変わることが分かり、直列つなぎ・並列つなぎという言葉を使って説明することができる。

回路図の読みとりを深め、実験に役立たせるためには、どのように工夫したらよいか

色々な回路図を記入したカードを利用し、ゲーム感覚で回路図と実際の装置を結びつきたい。また、実験だけでは、どうしても装置を組み立てる人が決まってしまうので、個別化することにより実際にふれる体験を多くし、定着を図りたい。

《回路図カードを使ったパフォーマンステストの実施》

(1)目的

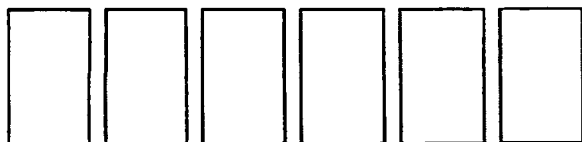
回路図を見て、回路図通りに実験装置を組み立てることができるようにする。

(2)準備

ストップウォッチ、回路図を記入したカード(各班6枚)、評価カード
電源装置、電流計、電圧計、電熱線A、B、クリップ付き導線、筆記用具

(3)授業例

①グループごとに、回路図を記入したカードを〔6枚〕配布する。
次に各自順番にカードを1枚引く。



※カードは裏返しておくこと。
※ゲーム感覚の雰囲気をつくろう。

②パフォーマンステストを実施する。



時間は3分だよ!

回路図をよく見てね。

※時間を決めよう。

③評価カードに評価・感想を記入する。

並列回路は難しいな。
時間が足りなかった。



(4)評価項目

- ・直列回路・並列回路になっているか。
- ・+端子、-端子は正しくつないでいるか。
- ・回路図通りに組み立ててあるか。
- ・時間内に組み立てることができたか。
- ・電圧計は並列に、電流計は直列につないでいるか。
- ・電流・電圧の値を正しく読み取ることができるか。



V 英語

1 中学校第2学年（内容第1学年）

(1) 大領域の比較

内 容	大領域別集計（正答率%）									偏差値		
	川 越			全 国			全国との差			平成18年度平均	平成19年度平均	平成20年度平均
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1 聞くこと	82.1	83.8	81.8	81.0	81.0	81.0	1.1	2.8	0.8	51.2	51.9	50.5
2 話すこと	65.6	66.1	63.5	61.9	61.9	61.9	3.7	4.2	1.6			
3 読むこと	60.9	61.9	59.6	59.3	59.3	59.3	1.6	2.6	0.3			
4 書くこと	47.8	48.8	47.2	46.9	46.9	46.9	0.9	1.9	0.3			

(2) 中領域の比較

内 容	中領域別集計（正答率%）											
	川 越			全 国			全国との差			傾 向		
	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20	H.18	H.19	H.20
1-1 基本的な英語を聞き取ること	88.7	87.9	86.6	85.8	85.8	85.8	2.9	2.1	0.8			
1-2 具体的な内容を聞き取ること	78.0	81.0	79.8	78.0	78.0	78.0	0.0	3.0	1.8		↑	
1-3 質問や依頼に適切に応じること	82.8	84.6	81.3	81.1	81.1	81.1	1.7	3.5	0.2		↑	
2-4 強勢や区切りに注意して話すこと	56.1	55.9	55.6	53.6	53.6	53.6	2.5	2.3	2.0			
2-5 簡単な受け答えをすること	70.5	71.3	67.0	65.4	65.4	65.4	5.1	5.9	1.6	△	△	
2-6 積極的に会話をする事	70.5	71.0	68.7	68.0	68.0	68.0	2.5	3.0	0.7		↑	
3-7 英文を正しく読み取ること	67.3	68.9	67.0	66.4	66.4	66.4	0.9	2.5	0.6			
3-8 長文の大切な部分を読み取ること	66.6	67.3	64.7	64.2	64.2	64.2	2.4	3.1	0.5		↑	
3-9 手紙の内容を理解し応じること	48.6	49.4	47.2	48.0	48.0	48.0	0.6	1.4	-0.8			
4-10 基本的な単語や英文を書くこと	53.9	56.0	54.6	55.1	55.1	55.1	-1.2	0.9	-0.5			
4-11 適切な語句を使って書くこと	38.2	36.2	34.3	36.0	36.0	36.0	2.2	0.2	-1.7			
4-12 伝える内容を整理して書くこと	41.6	43.3	41.5	38.0	38.0	38.0	3.6	5.3	3.5	↑	△	↑

(3) 平成18・19・20年度 とともに全国通過率を下回る小問 （全国通過率との開きがある小問10問）

大領域	中領域	内 容 ()は問題番号	（%）								
			平成18年度			平成19年度			平成20年度		
			川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差	川越	全国	全国との差
1	3	放送質問・進行形 (4-3)	78	82	-4	79	82	-3	77	82	-5
2	4	区切って話す・前置詞 (7-2)	79	80	-1	79	80	-1	76	80	-4
	6	会話・野球に誘う (9-1)	85	88	-3	85	88	-3	85	88	-3
3	7	文の意味の理解 (11-1)	91	92	-1	90	92	-2	89	92	-3
	9	手紙の内容理解 (13-1)	80	83	-3	79	83	-4	77	83	-6
	9	手紙の内容理解 (13-2)	25	28	-3	26	28	-2	26	28	-2
4	10	単語の綴り・20 (14-1)	62	69	-7	64	69	-5	62	69	-7
	10	単語の綴り・2月 (14-3)	36	40	-4	39	40	-1	39	40	-1
	10	適語選択・三単現 (16-4)	67	69	-2	67	69	-2	65	69	-4

平成19年度「川越市中学生学力調査」(中学校第3学年)結果概要

①問題について

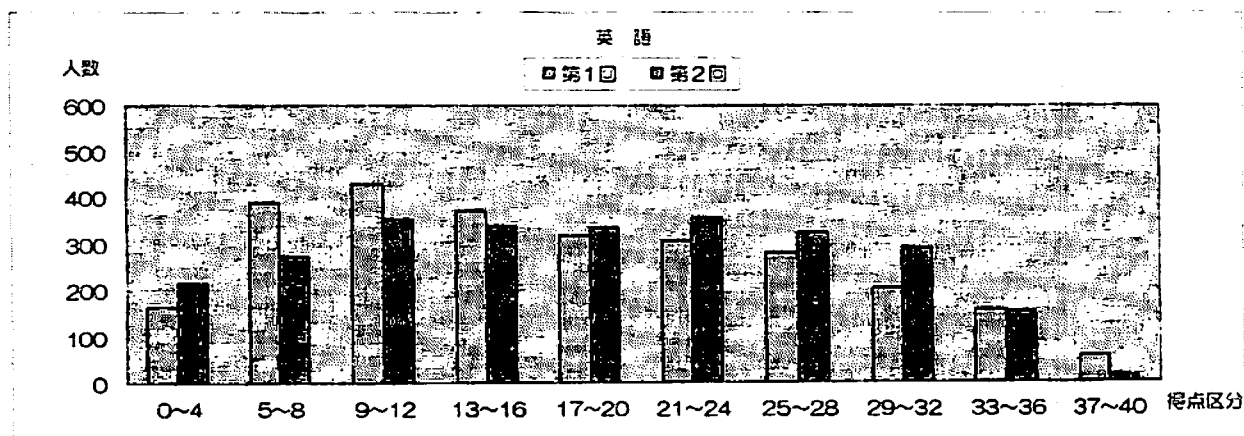
中学校英語に関する基本的な事柄が身に付いているかどうかをみるために、第1回ではおもに中学1・2年で学習した内容、第2回ではそれらに加えて中学3年前半で学習した内容を出題範囲とした。

出題内容は、「リスニング」、「対話文の読み取り(2つの対話文の読み合わせ等)」、「長文の読み取り(内容に関する英問英答や要約文の完成等)」、「英作文(あるテーマについて5文以上の英文を書く等)」であった。

文法や英語に関する知識・理解だけでなく、英語の読解力や表現力の定着を確認することを目的に、普段のテストに比べ、記述式問題を多く出題した。

②結果について

各回の予想正答率が異なるので単純比較はできないが、正答率の度数分布はグラフのとおりで、第1回(予想正答率57.5%)に比して第2回(予想正答率53.4%)では上位層がかなり増加している。



小問ごとの結果は下表のとおりで、第1回の結果正答率は予想正答率を▼11.0ポイント下回り、第2回

は▼5.1ポイント下回る結果であった。

第1回と第2回をあわせて、予想正答率を25ポイント以上下回った問題は5問、無解答率が50%を超えた問題は2問あった。これらの問題については、なんらかの対策が求められる。

第1回

問題番号			解答形式			予想正答率	結果正答率	乖離	無解答率	問題の内容
大問	中問	小問	選択	記述	論述					
1	(1)	①	④			80	72.5	▼7.5	0.9	リスニング
		②	①			75	93.9	△18.9	0.9	
	(2)	①	④			85	74.4	▼10.6	1.3	
		②	④			80	76.0	▼4.0	1.2	
	(3)	①	④			65	69.2	△4.2	1.5	
		②	④			60	38.7	▼21.3	1.6	
		③	④			65	35.3	▼29.7	1.8	
	(4)	①		○		90	84.4	▼5.6	7.6	
		②		○		90	85.5	▼4.5	8.7	
		③		○		60	57.1	▼2.9	11.6	
		④		○		60	42.8	▼17.2	23.6	
	2	(1)		④			80	59.0	▼21.0	
(2)				○		40	15.9	▼24.1	17.5	
(3)				○		50	32.3	▼17.7	9.5	
(4)			④			65	47.4	▼17.6	2.7	
(5)				○		30	42.2	△12.2	35.3	
(6)			④			50	33.6	▼16.4	4.2	
3	(1)	①	④			70	42.5	▼27.5	3.4	長文の読み取り
		②	④			60	55.0	▼5.0	4.1	
	(2)			○		40	38.9	▼1.1	23.9	
	(3)			○		30	13.5	▼16.5	50.2	
	(4)	①		○		65	34.7	▼30.3	29.4	
		②		○		20	1.8	▼18.2	40.9	
		③		○		50	6.3	▼43.7	42.1	
④			○		30	22.1	▼7.9	38.7		
4					○	40	39.1	▼0.9	36.0	英作文
					○	40	42.5	△2.5	36.0	
					○	40	44.3	△4.3	36.0	
		12	13	3		57.5	46.5	▼11.0	17.2	

第2回

問題番号			解答形式			予想正答率	結果正答率	乖離	無解答率	問題の内容		
大問	中間	小問	選択	記述	論述							
1	(1)	①	①			80	87.6	△7.6	0.9	リスニング		
		②	④			75	62.7	▼12.3	1.0			
	(2)	①	④			80	85.2	△5.2	1.3			
		②	④			75	86.5	△11.5	1.2			
	(3)	①			○		50	32.4	▼17.6		14.5	
		②			○		60	57.0	▼3.0		10.6	
		③			○		60	73.8	△13.8		15.5	
		④			○		60	36.5	▼23.5		22.3	
	(4)	①	④				40	46.8	△6.8		1.8	
		②	④				40	35.5	▼4.5		2.0	
③		④				70	74.5	△4.5	1.8			
2	(1)		④			60	78.4	△18.4	1.5	対話文の読み取り		
	(2)		④			50	43.1	▼6.9	3.3			
	(3)				○		30	9.9	▼20.1		11.4	
	(4)				○		40	36.3	▼3.7		10.3	
	(5)				○		30	52.5	△22.5		19.5	
	(6)		④				60	38.6	▼21.4		3.9	
3	(1)		③			50	37.7	▼12.3	4.0	長文の読み取り		
	(2)		④			70	52.8	▼17.2	5.4			
	(3)				○		40	38.2	▼1.8		36.6	
	(4)				○		40	33.0	▼7.0		51.3	
	(5)	①				○		60	45.4		▼14.6	23.7
		②				○		65	43.8		▼21.2	30.9
		③				○		65	34.5		▼30.5	35.6
		④				○		50	29.4		▼20.6	39.8
4	(1)				○		30	17.0	▼13.0	27.8	英作文	
	(2)				○		40	43.0	△3.0	29.2		
						○		40	37.6	▼2.4		29.2
						○		40	49.8	△9.8		29.2
			12	13	4	53.4	48.3	▼5.1	16.1			

- 「リスニング」は、予想正答率68.2%、結果正答率64.0%で、▼4.2ポイント下回った。特に、第1回の大問1(3)③「スピーチ(勉強したい理由)の聞き取り」は▼29.7ポイント下回った。
 - ・ 普段の授業において、文の前後関係や文と文との意味のつながりを意識して聞き取らせるような指導が必要である。
- 「対話文の読み取り」は、予想正答率48.8%、結果正答率40.8%で、▼8.0ポイント下回った。
 - ・ 単語が省略されたり慣用句が多用されたりする対話文では、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、設問の仕方に工夫をしたりするなどの指導が必要である。基本的な定型表現や文法・慣用表現などは、日頃の小テストを通して定着させておきたい。
- 「長文の読み取り」は、予想正答率50.3%、結果正答率33.1%で、▼17.2ポイント下回った。特に、第1回の大問3(1)①「長文の内容(過去の状況)の読み取り」は▼27.5ポイント、(4)①「長文の要約文の完成」は▼30.3ポイント、(4)③「長文の要約文の完成」は▼43.7ポイント下回った。また、(3)「長文の内容把握」は無解答率が60.2%、第2回の大問3(4)「長文の内容把握」は無解答率が51.3%であった。共に、質問を理解し、文中から解答となる文章を書き出す問題であった。
 - ・ 長文読解では、まず大まかな流れをつかみながら読み取ったり、中心となる事柄など大切な部分をとらえさせたりして、的確に読み取らせることが大切である。
 - ・ また、長文読解では「代名詞が指しているものを読み取る」ことがしばしば求められる。通常、指示代名詞が指す物は、その指示代名詞が含まれる文章よりも前の文章であることを、日頃の授業で指導することが大切である。特に、she heなどの人称代名詞が、具体的には誰を指しているのか、また、it themのような指示代名詞が何を指しているのかは、文章の読み取りの時に触れることも必要である。
- 「英作文」は、予想正答率38.6%、結果正答率39.0%で、△0.4ポイント上回った。
 - ・ ライティングの力を伸ばすためには、まず定期的な小テストで語彙力をつけ、豊富な文例をもとに定型表現の入った基本パターンに習熟することが大切である。
 - ・ 書く作業に慣れるために、1文ディクテーションや1行日記、また、短いモデル文を利用した「英借文」により、徐々に自分のことをアウトプットできるようにするとよい。なにより、日頃から状況設定した英作文を課題として出し、答えさせる習慣をつけることが大切である。たとえば、ある表現をターゲット文として学習した時には、その表現を使った状況英作文を宿題として出すなどの工夫が必要である。

7 指導の手立て

川越市中学生学力調査及び標準学力検査の結果から、「書くこと」に課題があることが明らかになった。小学校の外国語活動の実施に伴い、小中連携の中で基礎基本の定着を図ることが大切になってくる。そこで、入門期の「書くこと」における指導の手立てを示すこととした。

入門期の言語活動を活発にするためには、どのように指導したらよいか

入門期の生徒には、コミュニケーション活動を多く取り入れた授業を行いたい。そのためには、語彙を豊富にすることが必要である。中学校での実践例を紹介するが、方法の①から③は小学校でも充分可能な活動である。小中の連携を図り、同じ教材を用いて、小学校では『楽しみながら英語の基本的な表現に慣れ親しむこと』を目標とし、中学校では英作文等、文字を使って自己表現できるように指導することで、基礎・基本の定着を図りたい。

<実践例> Do you like...? を用いたインタビュー活動

1 ねらい コミュニケーション活動を楽しみながら、語彙を増やす。

2 方法


- ①AETとピクチャー・チャートを見ながら発音練習を行う。
- ②4～5人の班を作り、カルタの要領で、AETが発音した花の絵札を取り合う。
- ③ワークシートの絵の中から好きな花を○で囲み、Do you like...? を用い、友だち尋ねる。友だちの答えを Yes No にチェックする。
- ④ Do you like...? を用いた英文を3つ以上書く。

どんな花が好き？ 友だちに聞いてみよう。

Do you like _____?

Yes (好き)

No (きらい)



制限時間を設けて話した人数を競わせたり、AETに話しかけるとシールがもらえるなどの特典を設けたりして、モチベーションを高めることもできる。

単語はカテゴリ毎に学習することで覚えやすくなる。花をスポーツ、動物、色、果物、野菜、国名、職業などに変えたり、want や have、eat などの動詞を使ったりしてバリエーションを増やすこともできる。英作文による自己表現活動を行う際、和英辞書を使わせることも語彙を増やす大きな手助けになる。

「書く力」の定着を図るには、どのように指導したらよいか

英語を学習する際、基礎基本の定着を図る上で単語や英文を書く練習が必要である。そして、ただ書くだけではなく、英語を正しく音読できるようにすることでより効果的に「書く力」を身に付けられる。そこで、教科書の本文を正しい発音・イントネーションですらすらと読み、その上で本文中に出てくる新出語句や英文を正しく書けるようにしていくという指導の流れにより、「コミュニケーション能力の育成」にも配慮した「書く力」の定着を図りたい。

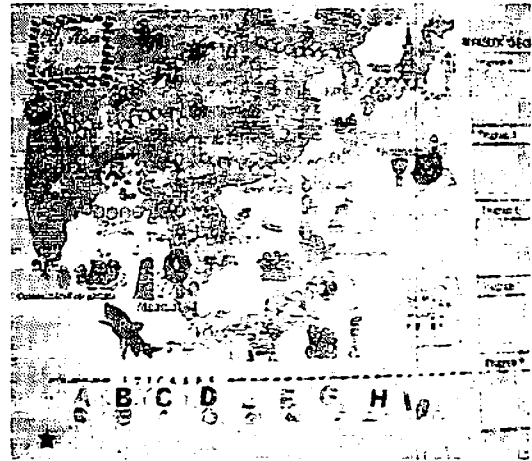
<実践例 1> 導入時における暗唱タイム (Recitation Time) の実施

1 ねらい

発音の仕方(読み方)や文の構成に着目しながら、自分の力で音読し、暗記することのできる力を養う。

2 方法

- ①授業の導入(ウォームアップ)として、毎時3人程度の希望者が発表する。
- ②セクション毎に、みんなの前で(自分の席で)暗唱する。
- ③暗唱できた生徒は、アルファベットのシールをもらい、「評価カード(右図)」に集める。



<評価カード>

※発表しない生徒が出ないよう、常に声かけをする。

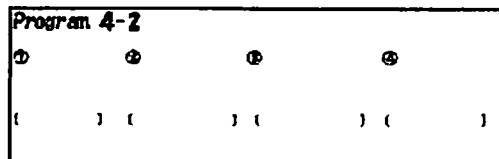
<実践例 2> 「Pop Test」: フラッシュカードを利用したミニ単語テスト

1 ねらい

短時間で英単語を記憶し、ゲーム感覚で意欲的に書く力を高める。

2 方法

新出単語をフラッシュカードで導入した後、定期的の実施する。



<Pop Test>

- ①教師がフラッシュカード4枚を選ぶ。
 - ②カードを黒板にはり、「スペル」と「意味」を暗記する。(1分間程度)
 - ③カードを裏返し、日本語を見て英単語を書く。
- ※余裕のある生徒は()内に意味を書く。

<実践例 3> 本文テスト

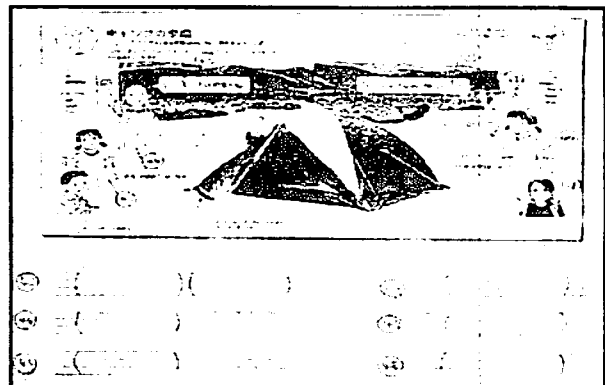
1 ねらい

「読めて書ける！」達成感を一人でも多くの生徒に味わわせる。

2 方法

プログラムのまとめとして行う。

- ①本文の一部を空欄にしたワークシート(本文テスト)を行う。
- ② 正答数80%以上を合格とする。



いろは歌

色は匂へど 散りぬるを (いろはにほへと ちりぬるを)

我が世誰ぞ 常ならむ (わかよたれそ つねならむ)

有為の奥山 今日越えて (うゐのおくやま けふこえて)

浅き夢見じ 酔ひもせず (あさきゆめみし ゑひもせすん)

〈意味〉

桜の花の色は美しく照り映えるけれど、すぐに散ってしまふ
それと同時に、私たち人間の世の中も、
だれがいつも変わらずにいられるだろうか。
無常の世のような奥山を今日越えて行くような人生で、
浅い夢を見るように目の前のことにまどわされず、
世の中の出来事に酔いしれないようにしましう。

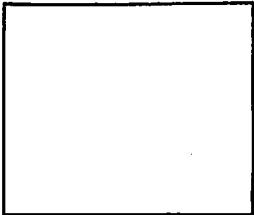
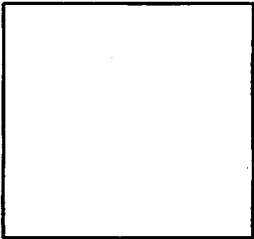
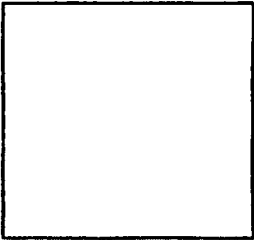
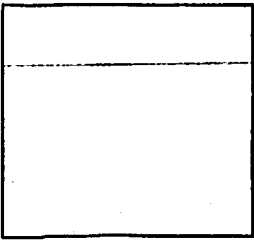
知っているかな? 古典の世界

一 「昔話」「おとぎ話」と呼ばれる日本のお話の多くは、とても古くから伝わっているのです。古典作品に残るものも多く、古くから人々に親しまれてきました。次あげる日本のお話についての説明文が正しければ○、間違っていれば×を付けましょう。

- ① () 「こぶとりじいさん」は、太ったおじいさんとやせたおじいさんが出てくる昔話である。
- ② () 川に洗濯に行ったおばあさんは、「浦島太郎」を連れて帰ってきた。
- ③ () 「一寸法師」は、立派なさむらいになるためにおじいさんとおばあさん家を出た。
- ④ () 「かぐや姫」は、とても美しくかったので、たくさんの男性からプロポーズされた。
- ⑤ () 昔話によくある「おじいさんは山へしばかりに」というのは、山で芝生を刈る仕事をしているということである。

☆正しい答えもわかるかな??

二 次の①~④には、平安時代や鎌倉時代・江戸時代の道具・遊びなどを絵で示してあります。それぞれ何というものですか。「 」内に答えましょう。

①	
②	
③	
④	

三、次の「いろはうた」の空欄に入るひらがなを並べかえて語句を作りましょう。

☆ヒント! 「いろはうた」は、四十七の仮名が一回ずつ出てくるよ!

いろはにほへ ち ぬるを わかよ れそ つねならむ


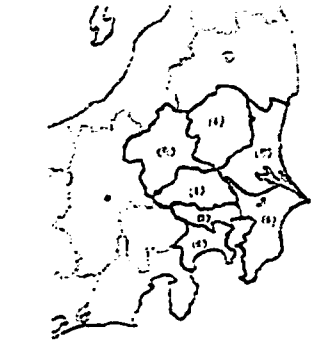
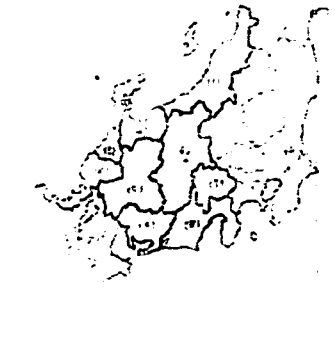
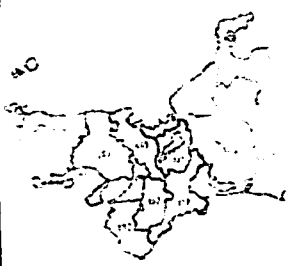
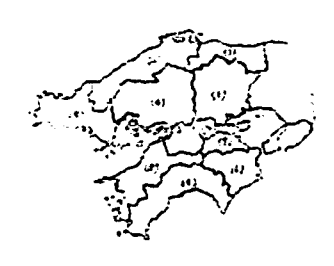
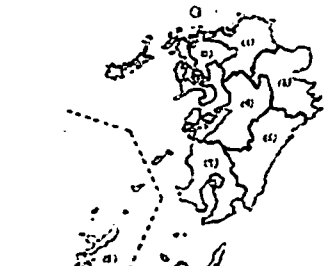
(い) ふこえて あさきゆめみし ゑひもせす

答え

物語

II 指導資料(社会科)

小学校社会科資料 (都道府県位置の反復学習のための活用資料)

<p>都道府県テスト 北海道・東北地方</p> <p>名前 <input type="text"/></p> <p>※なるべく漢字で書きましょう。</p>  <p>(1) <input type="text"/> (2) <input type="text"/> (3) <input type="text"/> (4) <input type="text"/> (5) <input type="text"/> (6) <input type="text"/> (7) <input type="text"/></p>	<p>都道府県テスト 関東地方</p> <p>名前 <input type="text"/></p> <p>※なるべく漢字で書きましょう。</p>  <p>(1) <input type="text"/> (2) <input type="text"/> (3) <input type="text"/> (4) <input type="text"/> (5) <input type="text"/> (6) <input type="text"/> (7) <input type="text"/></p>	<p>都道府県テスト 中部地方</p> <p>名前 <input type="text"/></p> <p>※なるべく漢字で書きましょう。</p>  <p>(1) <input type="text"/> (2) <input type="text"/> (3) <input type="text"/> (4) <input type="text"/> (5) <input type="text"/> (6) <input type="text"/> (7) <input type="text"/> (8) <input type="text"/> (8) <input type="text"/></p>
<p>都道府県テスト 近畿地方</p> <p>名前 <input type="text"/></p> <p>※なるべく漢字で書きましょう。</p>  <p>(1) <input type="text"/> (2) <input type="text"/> (3) <input type="text"/> (4) <input type="text"/> (5) <input type="text"/> (6) <input type="text"/> (7) <input type="text"/></p>	<p>都道府県テスト 中国・四国地方</p> <p>名前 <input type="text"/></p> <p>※なるべく漢字で書きましょう。</p>  <p>(1) <input type="text"/> (2) <input type="text"/> (3) <input type="text"/> (4) <input type="text"/> (5) <input type="text"/> (6) <input type="text"/> (7) <input type="text"/> (8) <input type="text"/> (8) <input type="text"/></p>	<p>都道府県テスト 九州・沖縄地方</p> <p>名前 <input type="text"/></p> <p>※なるべく漢字で書きましょう。</p>  <p>(1) <input type="text"/> (2) <input type="text"/> (3) <input type="text"/> (4) <input type="text"/> (5) <input type="text"/> (6) <input type="text"/> (7) <input type="text"/> (8) <input type="text"/> (8) <input type="text"/></p>



日本の工業地帯のグラフを読み取ろう！

（おもな工業地帯・地域の生産額） 年 組 番 氏名 _____

1 各工業地帯の順位の変動をまとめよう。

年（生産額）	京浜工業地帯	阪神工業地帯	中京工業地帯	北九州工業地域
1920年（ ）	位	位	位	位
1940年（ ）	位	位	位	位
1960年（ ）	位	位	位	位
2003年（ ）	位	位	位	位

2 生産額が大きく変化しているのは（ ）年から（ ）年にかけてである。
なぜそのようになっているのか。理由を考えてみよう。

3 1940年と2003年を比較して割合が増えているのは→（ ）
割合が減っているのは→（ ）
なぜそうなっているのか、理由を考えよう！

増えているのは

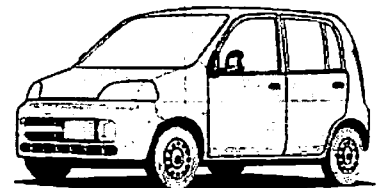
だから

減っているのは

だから

? ヒント ・日本が世界に誇る工業製品を考えてみよう。

- ・4大工業地帯の場所にはどんな特徴があるのか考えてみよう。
- ・交通網の発達に着目してみよう。
- ・歴史との関わりについても考えてみよう。
- ・その他の割合にも着目してみよう。



Ⅲ 指導資料 (算数・数学)

小学校算数科資料

◇資料1 数直線のかき方カード

① 問題の中から「1」を見つけ、その単位を () の中にかく。
 ② 「1」にあたる量を考え、「1」の上にかく。
 ③ もう一方の量の単位を () の中にかく。
 ④ もう一方の量とそれに対する数値をかく。

さらに、数量の関係を的確につかむために、比例関係を示す矢印をかき入れさせ、何倍になっているかを示す。その関係をもとに、問題場面を「かけ算」で立式させる。
 (前ページのイ参照)

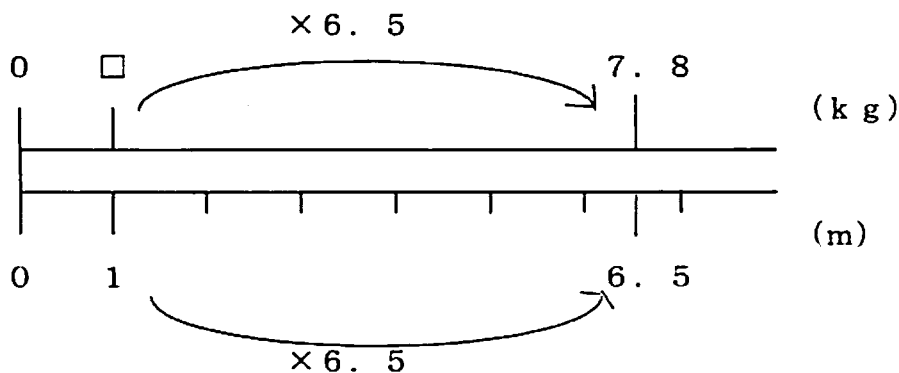
◇資料2 第5学年「小数÷小数」振り返りカード

第5学年「小数÷小数」の学習を思い出しましょう。

例題

6.5mの重さが7.8kgの鉄のぼうがあります。
 この鉄のぼう1mの重さは何kgですか。

*数直線に表すと



*式に表すと

$$\square \times 6.5 = 7.8$$

$$\square = 7.8 \div 6.5$$

※紙面の都合上、小学校第1学年・第3学年の事例については川越市立教育研究所HPに掲載しました。

解決の見通しがもてない生徒への支援:下記のカードを使って考えられるようにする。

◇資料1 図のかき方カード

<図に表してみよう。>

○:生徒

・1部屋5人ずつにすると 30人が入れず

部屋の数

・1部屋6人ずつにすると 空き部屋が2つできる

部屋の数

◇資料2 方程式のつくり方カード

<方程式に表してみよう。>

部屋の数を x として、修学旅行に行った人数を式に表してみよう。

① 1部屋5人ずつ入った場合
部屋に入っている人数 (), 入れなかった人 ()なので、
修学旅行に行った人数は、()と表せます。

② 1部屋6人ずつ入った場合
空き部屋が2つできるので、人の入る部屋の数は、()なので、
修学旅行に行った人数は、()と表せます。

① ②から、修学旅行に行った人数についての方程式をつくり、部屋の数を求めてみよう。

=

理解の進んでいる生徒への支援:考え方を説明できるようにしたり、多様な解決方法を考えられるようにしたりする。

問題場面を図に表してみよう。

生徒の人数を x として考えてみよう。

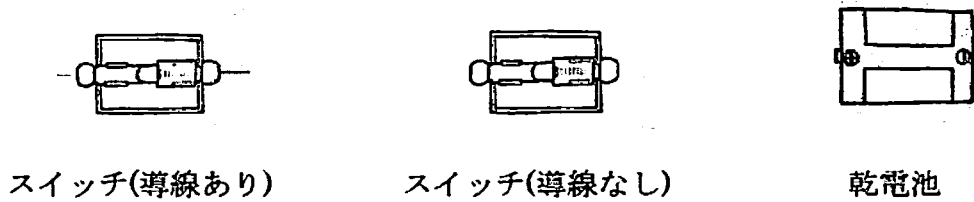
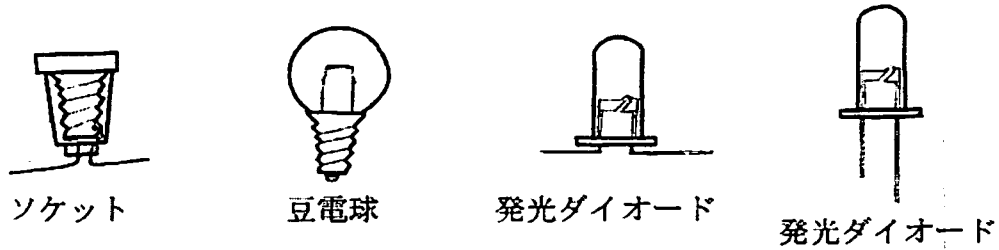
* 下記の問題にすることで考え方を広げることができる。(習熟度別学習や理解の進んだ生徒への補充問題として活用してもよい。)

修学旅行の部屋割で、1部屋5人ずつにすると30人が入れず、1部屋6人ずつにすると空き部屋が2つできるが、それ以外の部屋はすべて6人ずつ入れるという。
部屋の数と生徒の人数を求めなさい。

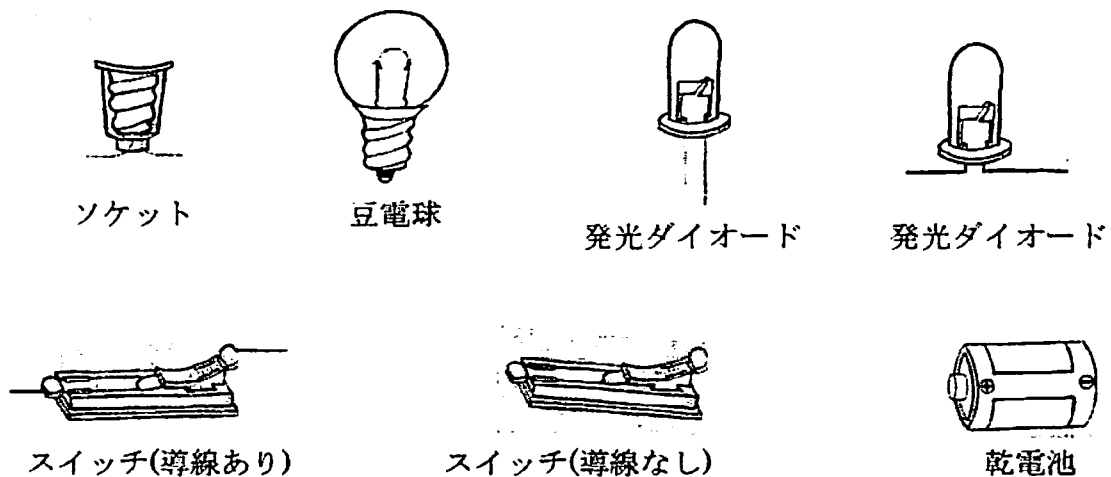
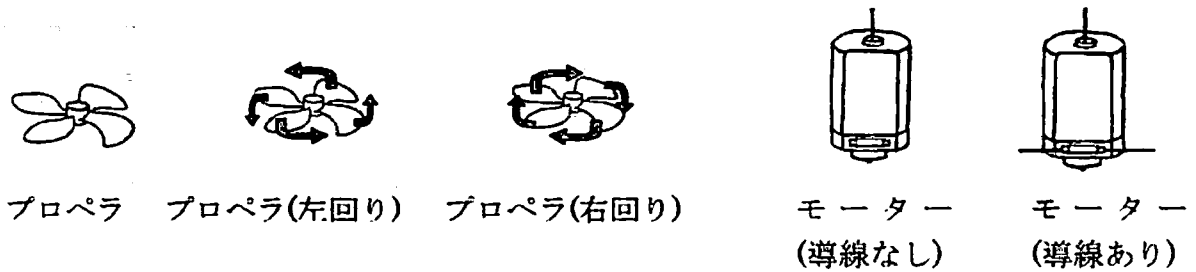
IV 指導資料 (理科)

小学校理科資料 (教育研究所HPに以下の素材が掲載されています。ご活用ください。)

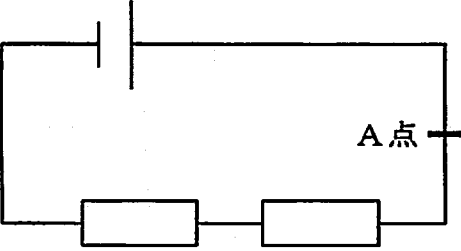
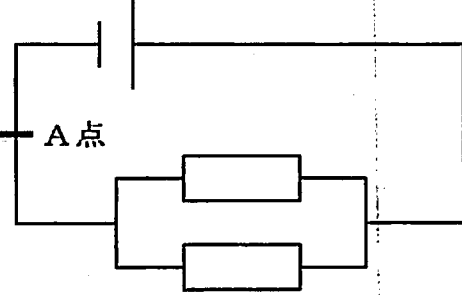
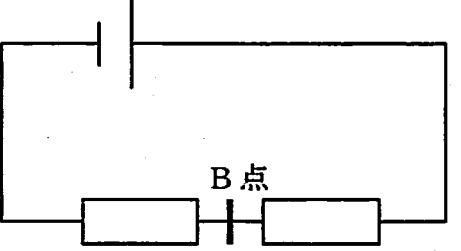
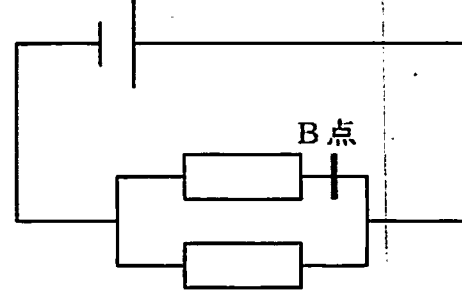
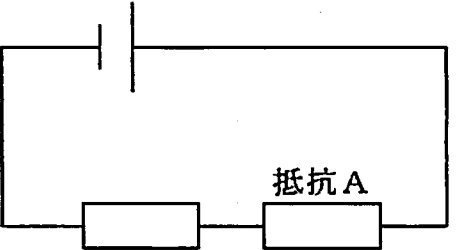
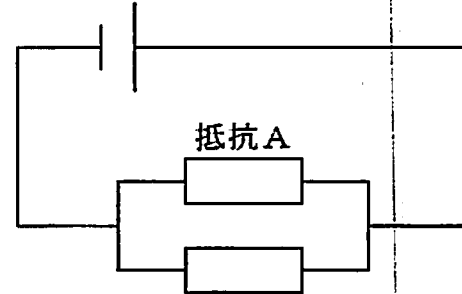
1 平面のカード



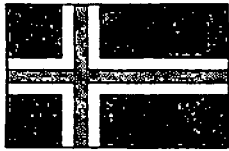
2 立体のカード



<パフォーマンステストのカード例> ※印刷し、ラミネートする。

<p>実技テスト〔回路図・電流の測定〕①</p>  <p>①上の回路図を組み立てなさい。 ②A点に流れる電流を測定しなさい。</p>	<p>実技テスト〔回路図・電流の測定〕④</p>  <p>①上の回路図を組み立てなさい。 ②A点に流れる電流を測定しなさい。</p>
<p>実技テスト〔回路図・電流の測定〕②</p>  <p>①上の回路図を組み立てなさい。 ②B点に流れる電流を測定しなさい。</p>	<p>実技テスト〔回路図・電流の測定〕⑤</p>  <p>①上の回路図を組み立てなさい。 ②B点に流れる電流を測定しなさい。</p>
<p>実技テスト〔回路図・電圧の測定〕③</p>  <p>①上の回路図を組み立てなさい。 ②抵抗Aにかかる電圧を測定しなさい。</p>	<p>実技テスト〔回路図・電流の測定〕⑥</p>  <p>①上の回路図を組み立てなさい。 ②抵抗Aに係る電圧を測定しなさい。</p>

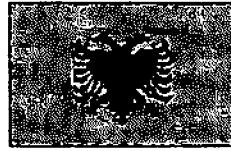
V 指導資料 (英語)



Iceland



Ireland



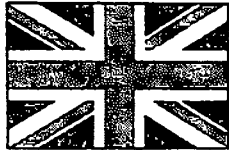
Albania



Andorra



Italy



the U.K.



Estonia



Austria



Netherlands



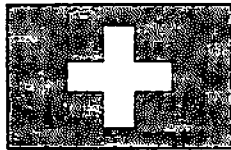
Greece



Croatia



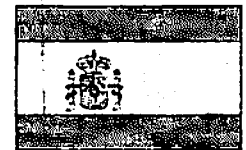
San Marino



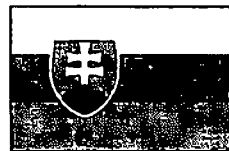
Switzerland



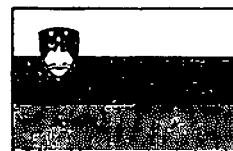
Sweden



Spain



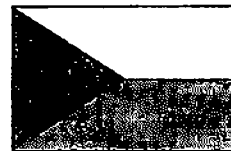
Slovakia



Slovenia



Serbia



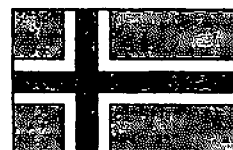
Czech



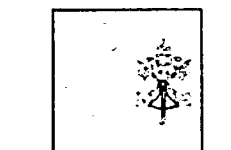
Denmark



Germany



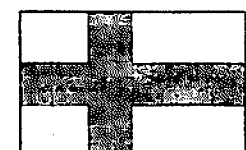
Norway



Vatican



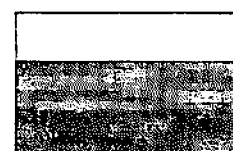
Hungary



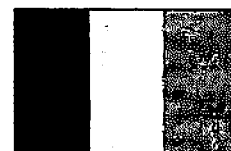
Finland



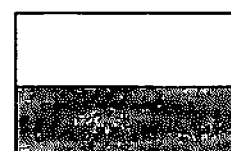
France



Bulgaria



Belgium



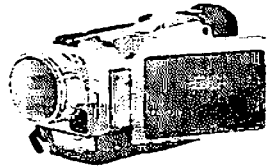
Poland



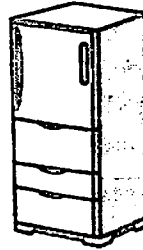
Bosnia and Herzegovina



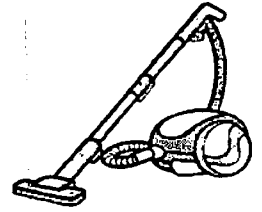
coffee percolator



video camera



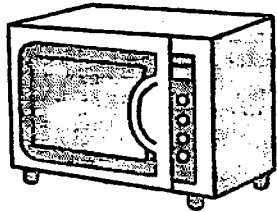
fridge



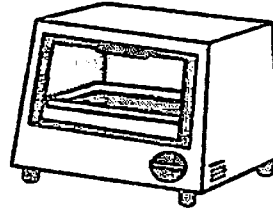
cleaner



washing machine



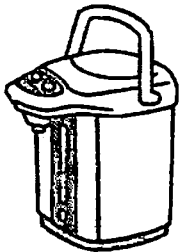
microwave oven



toaster oven



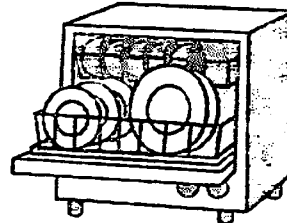
rice cooker



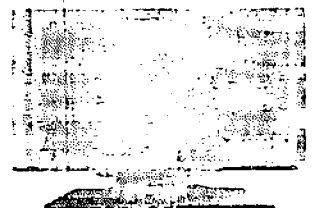
pot



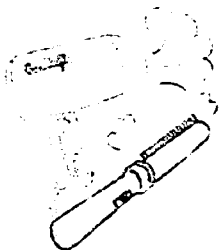
blender



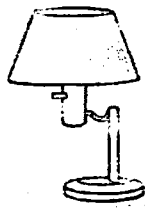
dishwasher



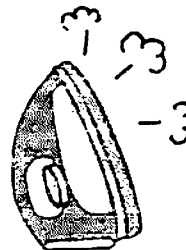
Liquid crystal
television



dryer



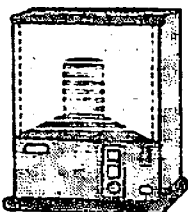
reading light



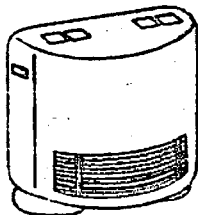
iron



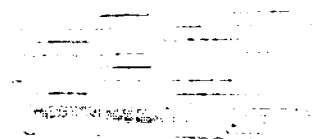
sewing machine



stove



heater



airconditioner



fan

VI バックナンバーと掲載ページ

1 国語

学年	内容	年度	頁	備考	
小学校	第3学年	漢字の指導	15	11	
		修飾・被修飾の指導	15	11	
		読点の打ち方の指導	15	11	
	第4学年	漢字を書く力の定着	16	12	
		修飾・被修飾の理解	16	13	
		漢字の部首の理解	16	14	
		話の中心に気をつけ聞く力を伸ばす	17	12	
		修飾語の理解	18	12	
		中心を明確にし、段落との続き方に注意して書くことのできる児童を育てる	19	12	
		漢字の指導	15	13	
	ローマ字の指導	15	13		
	登場人物の心情の読み取り	15	13		
	修飾・被修飾の指導	15	13		
	漢字やローマ字の読み書きの能力を高める	16	16		
	効果的に話す能力を伸ばす	16	17		
	国語辞典を使える子を育てる	16	18		
	書く材料を収集・選択する力を育て、正しい文章を書く力をつけさせる	17	14		
	国語事典の使い方	18	14		
	相手や目的に応じて話すことのできる児童を育てる	19	14		
第5学年	表現の工夫の指導	15	15		
	漢字辞典の引き方の指導	15	15		
	修飾・被修飾の指導	15	15		
	修飾・被修飾の関係を理解する力を伸ばす	16	20		
	比喩や倒置法などの表現技能を身に付ける	16	21		
	登場人物の心情を叙述に即して読む力を伸ばす	16	22		
	目的や意図に応じた書き方を指導する	17	16		
	叙述に即して読む力を高める	18	16		
「言葉のきまり」の学習の定着を図る	19	16			
第6学年	韻文の指導	15	17		
	「話すこと」についての指導	15	17		
	詩における場面の読みとりの能力を高める	16	24		
	説明的文章の読み取りの能力を高める	16	24		
	敬語の正しい使い方を理解し、使えるようにする	17	18		
	叙述の細部を読み解き、関係を捉える	18	18		
	指示語の内容を正確に読みとる	19	18		
小学校での古典指導～中学校につながる学習指導法から	20	19			

中学校	第1学年	漢字の指導	15	19
		文法の指導	15	19
		「書くこと」の指導	15	19
		「読むこと」の指導	15	19
		文の構造について理解する力を伸ばす	16	26
		適切に表現する力を伸ばす	16	26
		文の構造について理解する力を伸ばす	17	20
		目的に応じて理解する読みの力の育成	18	20
		確かな漢字の力を身につける	19	20
		中学校での古典指導～小学校での取組を生かす学習指導法～	20	20
中学校	第2学年	語句の効果的な用法の理解	15	21
		要点の読み取り	15	21
		活用形の種類	15	21
		古典学習において、叙述に即して内容を正確にとらえ、心情を深く理解させる	16	28
		説明的文章の読み取りの力を高める	16	28
		文の成分や組み立てを理解する力を高める	16	28
		漢字を正しく読む・書くこと的能力を高める	16	28
		古典学習において、叙述に即した読みの力を伸ばす	17	22
		叙述に即した読み取りの力を高める	18	22
古典教材の指導	19	22		

2 社会

学年	内容	年度	頁	備考	
第3学年	道具の名称、正しい使い方等を理解させる	15	24		
	社会的事象・事象の意味を捉えさせる	15	24		
	基礎的な図やグラフを読み取る	15	24		
	身近な地域の観察をもとに、特色の理解・方位感覚を身につけさせる	16	31		
	体験をもとに、今と昔の生活の違いを考え理解を深める	16	31		
	「昔の暮らし」の学習において、新旧の道具や生活の変化の理解を深める	17	25		
	資料をもとに、町の移り変わりを理解させる	17	25		
	「昔の暮らし」の学習において、道具の移り変わりや生活の変化の理解を深める	18	25		
	「昔の暮らし」の学習において道具や暮らしの移り変わりについての理解を深める	19	24		
	イラストや地図、表を読み取る技能の向上を図る	15	26		
地図記号への興味・関心を高め、理解を深める	16	33			
第4学年	飲料水の確保や廃棄物の処理と自分たちの生活との関わり	17	27		
	地図記号を見て、地形の特色などを理解できるようにする	17	27		
	浄水場やダム役割を理解させる	18	27		
	「地図から読み取る昔の開発」について理解を深める	19	26		
小学校	学習したことを身近な生活と関連して理解させる	15	28		
	地図帳を活用し、名称や位置を理解させる	15	28		
	複数の資料を相互に関連させて読み取る	15	28		
	適切な資料を選び、その資料をもとに思考・判断する	15	28		
	第5学年	地図帳を活用できるようにする	16	35	
		グラフや表の読み取り能力を高める	16	35	
		我が国の国土に関する基本事項	17	29	
		我が国の水産業について	17	29	
		日本の農業(米作り)の導入	18	29	
		日本の水産業学習、導入時の展開	19	28	
		日本の工業地帯の位置や特色をどのように指導していくか	20	30	
		県の名称や位置、特徴などを理解させる	15	30	
	第6学年	歴史の代表的な人物や文化遺産への関心・意欲を身に付ける	15	30	
		地理的・歴史的分野において地図帳を活用する	15	30	
		我が国の政治の働きについて考える	15	30	
		事例から他の地域へと一般化を図り、全体の特色を理解させる	16	37	
人物や文化遺産を調べる活動を通して、各時代の特色を理解させる		16	37		
西郷隆盛や西南戦争について		17	31		
政治のはたらき(国会・内閣)を理解させる		17	31		
地域と連携した歴史学習の指導		18	31		
豊臣秀吉の「検地」と「刀狩」の指導	19	30			

中学校	第1学年	白地図に地名などを適切に示す	15	32
		歴史に関する関心・意欲を高める	15	32
		我が国の歴史を世界の歴史を背景に理解させる	15	32
		人々の生活や文化に関する知識・理解を定着させる	15	32
		社会的事象について様々な角度から考察する	15	32
		地域構成が大観でき、略図の世界地図や日本地図を描けるようにさせる	16	39
		中国・朝鮮とのかかわりを背景に歴史の流れをとらえさせる	16	39
		歴史の大きな流れをとらえさせる	17	33
		日本の位置の表し方や地域構成に関する学習に主体的に取り組ませる	18	33
		単元を再構成し、課題解決的な学習で歴史の流れをつかませる手立て グラフの読み取り方法をどのようにしどうしていくか	19 20	32 31
中学校	第2学年	社会的事象への関心・意欲を高め、学習に主体的に取り組む	15	34
		地名や社会的事象が起きた場所を白地図に示す	15	34
		歴史的な人物と業績、時代の大きな流れや特色について学習する	15	34
		世界と日本の気候や自然環境を理解させる	16	41
		「近・現代の日本と世界」の歴史を大きく正確に理解させる	16	41
		歴史の舞台を意識した「近世・近現代の日本と世界」の学習	17	35
		近現代の歴史学習の基礎基本の定着	18	35
		「第一次世界大戦と日本」 グラフの読み取り方法をどのようにしどうしていくか	19 20	34 31

3 算数・数学

学年	内容	年度	頁	備考
第3学年	乗法 ～2桁×1桁の計算～	15	37	
	～筆算の計算～	15	37	
	乗法に成り立つ性質 ～交換法則, 結合法則, 分配法則～	15	37	
	乗法の計算の仕方・乗法の性質についての理解	16	44	
	正確な乗法の計算	16	44	
	2位数×2位数の乗法の計算	17	38	
	除法の意味理解を確かなものにする	18	38	
はかりの目盛りをよみとり, 重さに対する量感を育てる	19	36		
第4学年	面積と面積の単位換算	15	39	
	正方形・長方形の面積の求め方	16	46	
	比較の4段階の指導 ～直接・間接・任意単位・普遍単位～	16	46	
	面積の公式を導き出す過程の重視	16	46	
	分度器の使い方	17	40	
	三角定規を組み合わせてできる角度の計算の問題	17	40	
	伴って変わる2つの数量関係を明確にする	18	40	
円の性質	19	38		
小学校 第5学年	小数の意味理解 ～数直線の活用～	15	41	
	～4.6×7.8のような計算～	15	41	
	三角形, 四角形, 多角形の面積の求め方	15	41	
	小数の意味および乗除法	16	48	
	基本的な図形の面積を求め, 活用する力	16	48	
	三角形の面積公式の定着	17	42	
	□や○などを使って式に表せるようにするための指導	18	42	
	垂直・平行の理解を深める	19	40	
	演算決定力を養うための手立て ～立式指導～	15	43	
	～分数の乗法・立式に関する指導～	15	43	
～割合に関する指導～	15	43		
～数量や図形に関する指導～	15	43		
第6学年	分数の乗法の場面で演算決定させる力	16	50	
	～数直線対応図を用いた「かけ算」の数量関係～	16	50	
	～単元・領域や, 学年を超えた意図的・統計的な指導～	16	50	
	伴って変わる2つの数量の関係を表す式	17	44	
	比例の扱い方	18	44	
	概数の計算(積・商の見積り)	19	42	
演算決定の力を身に付けさせるためにはどのようにしたらよいか	20	41		

中学校	第1学年	二等分線の作図 ～二等辺三角形, 円の対象性を利用した基本作図～	15	45
		「比例」「反比例」の概念	15	45
		文字を使った式の表し方 ～乗法の記号の省略～	16	52
		錐体についての理解	16	52
		比例の理解	16	52
		基本的な作図の手順 ～ひし形を利用した作図～	17	46
		表、グラフ、式の理解	18	46
		立体の性質	19	44
		方程式の利用の学習では、方程式をつくる指導をどのようにくふうしたらよいか	20	42
第2学年	三角形の合同・証明	15	47	
	一次関数の変化の割合 ～変化の割合と比例定数・傾きの関係～	16	54	
	基本的な図形の表面積を文字式で表わす。	17	48	
	「逆」の意味の理解	17	48	
	一次関数の表中のxやyの値の求め方	18	48	
	平行四辺形の性質を利用した証明	19	46	

4 理科

学年	内容	年度	頁	備考	
第3 学 年	生物とその環境 ～昆虫の育ち方・体のつくり～	15	50		
	物質とエネルギー ～光の性質・磁石の性質～	15	50		
	地球と宇宙 ～温度計の使い方～	15	50		
	昆虫の育ち方や体のつくり ～観察・比較をする活動～	16	59		
	～模型作り～	16	59		
	～VTR, 図鑑, インターネットの活用～	16	59		
	電気の通る条件と磁石のつく条件の違い	16	59		
	昆虫の育ち方や体のつくり ～関心を持たせるには～	17	51		
	磁石の性質 ～磁石につくものを探す～	17	51		
	光を重ねて明るくする方法	18	51		
	かげのうごきと太陽の位置関係	18	51		
	磁石の性質の理解を深める	19	48		
	電気の通り道と電流の流れる向きの理解を深めるためにどのように指導したらよいか	20	52		
小 学 校 第4 学 年	生物とその環境 ～四季に見られる昆虫の様子～	15	52		
	物質とエネルギー ～空気・水の性質～	15	52		
	～電気のはたらき～	15	52		
	地球と宇宙 ～水のすがた～	15	52		
	動物の活動と季節 ～校庭, 学校周辺の観察活動～	16	61		
	～VTR, 補助教材の活用～	16	61		
	～1年間のまとめの表の作成～	16	61		
	ものの温まり方やかさの変化	16	61		
	動物の活動と季節 ～昆虫の越冬～	17	53		
	乾電池のはたらき ～電気の回路との関係～	17	53		
	金属の熱の伝わり方	18	53		
	星の動きの観察の仕方	18	53		
	食塩を多く溶かす方法	19	50		
	電気の通り道と電流の流れる向きの理解を深めるためにどのように指導したらよいか	20	52		
	第5 学 年	生物とその環境 ～植物の発芽と成長～	15	54	
		物質とエネルギー ～もののとけ方～	15	54	
		～てんびんとてこ～	15	54	
植物の成長・結実 ～花のつくりと結実のしくみ～		16	63		
～花の部位の役割(へちま)～		16	63		
もののとけ方 ～もののとけ方の規則～		16	63		
～重さの変化～		16	63		
植物の花のつくりと名称, その役割		17	55		
てこの仕組みやはたらき ～支点・力点・作用点～		17	55		
～身の回りのもの(シーソー)を活用する～		17	55		
植物の花粉の観察方法		18	55		
流れる水のはたらきの理解	18	55			
直列つなぎや並列つなぎの理解を深める	19	52			

小学校	第6学年	ヒトや動物の体 ~小腸や大腸のはたらき~	15	56
		電流と電磁石 ~電気が通らない回路~	15	56
		~電磁石でひきつける力を強くする~	15	56
		大地のようす ~土地やその中に含まれるもの~	15	56
		~大地のつくりや土地のでき方~	15	56
		電磁石の性質 ~強い電磁石の条件~	16	65
		水溶液の性質 ~リトマス紙による液性の分類~	16	65
		~水溶液に溶けているもの~	16	65
		~水溶液が溶かすもの~	16	65
		物の燃え方 ~燃え方の違い~	17	57
		~物が燃えた前後の違い~	17	57
		水溶液と金属の反応 ~酸素の生成~	17	57
		~結晶の析出~	17	57
		水溶液の性質 ~ものを溶かす性質と溶けたものの析出から	18	57
人のからだのつくり	18	57		
ろうそくの燃え方	19	54		
小学校	第1学年	身近な物理現象 ~光や音の規則性~	15	58
		~レンズを通した光の性質と実験~	15	58
		植物の生活と種類 ~顕微鏡観察~	15	58
		植物の生活と種類 ~体験的な観察・実験~	16	67
		~顕微鏡の操作~	16	67
		身近な物理現象 ~興味関心を高める授業の工夫(光)~	16	67
		~実験方法の工夫(レンズ)~	16	67
		身近な生物の観察 ~顕微鏡の操作方法~	17	59
		~水中の微生物の観察~	17	59
		物質のすがた ~混合物の蒸留~	17	59
		~蒸留実験~	17	59
		圧力の計算の仕方	18	59
		微生物・ゾウリムシに関する指導	18	59
		双子葉類と単子葉類のつくりの違い	19	56
中学校	第2学年	電流とその利用 ~オームの法則を用いた計算~	15	60
		化学変化と原子、分子	15	60
		動物の生活と種類	15	60
		天気とその変化	15	60
		オームの法則の理解・知識の定着	16	69
		~電流計の読み方を十分理解させた上で実験~	16	69
		~細かなステップでの実験~	16	69
		動物の体のつくりと働き ~血液の流れと肺の位置関係~	16	69
		物質のなりたち ~質量保存の法則~	17	61
		~実験結果をモデル化する~	17	61
		天気とその変化 ~天気による気温・湿度・露点の関係~	17	61
		セキツイ動物のなかま分けの系統的な指導	18	61
		動物の血液の流れと臓器についての理解	18	61
		銅に酸素が化合する変化	19	58
回路図の読み取りを深め、実験に役立たせるためにどのように工夫したらよいか	20	53		

5 英語

学年	内容	年度	頁	備考
第1 学年	書くことの指導を効果的に行う	15	63	
	繰り返し指導を行う	15	63	
	適切な状況設定の中で使う	15	63	
	簡単な単語や数値を含む文の内容を正確に聞き取る	16	72	
	簡単な文の意味を理解し、まとまった内容の文章を読みとる	16	72	
	身近に使われる表現及び慣用的な表現、話すことの力をつける	16	72	
	単語を正確に綴り、適切な語句を使って文を書く	16	72	
	簡単な単語(日付・曜日・数字等)を含んだ文の内容を正確に聞き取る	17	64	
	身近に使われる表現・慣用的な表現を身に付け、話す力を伸ばす	17	64	
	自分の体験や出来事を英文にし、書く力を伸ばす	18	64	
	三単現の肯定文、疑問文の答えに慣れ、話す力を伸ばす	18	64	
	ゲーム形式でコミュニケーションを図ることにより表現する力・書く力を伸ばす	19	60	
	入門記の言語活動を活発にするためには、どのように指導したらよいか	20	59	
	「書く力」の定着を深めるためには、どのような指導をしたらよいか	20	60	
中 学 校				
	基本的な表現を理解し、活用できるようにする	15	65	
	言語の使用場面に応じた活動を重視する	15	65	
	読解力を身に付ける	15	65	
	疑問詞で始まる疑問文を正確に聞き取る	16	74	
	長文を読んで内容を理解する	16	74	
	具体的な場面での特有の表現を身に付け、話す	16	74	
	身近な出来事や自分の考えや気持ちを表現する英文を書く	16	74	
	具体的な場面での特有の表現を身に付け、話す	17	66	
	身近な出来事や自分の考えや気持ち等を表現する英文を書く	17	66	
	比較級を使い、話す力を伸ばす	18	66	
	英語力を駆使し、英文の概略を理解する	18	66	
自らの英語で書く力・表現する力を付けさせる	19	62		



スマイルシティ・川越